

I 教育·研究

1. 各学校の動向

1. 各学校の動向

(1) 大学（大学院・専門職大学院）

■管理運営

○中央教育研究棟の使用開始と南1号館の改修計画の検討

平成22年3月に竣工した中央教育研究棟は、RC造一部鉄骨造、地上12階、塔屋1階、建築面積1,307.5㎡、延床面積12,862.21㎡で、12階はラウンジと国際会議場、11階～6階までは法科大学院、スポーツ・健康科学センター、外国語教育研究センター、教職課程の各部門、5階～3階は講義教室、演習室、CALL教室、2階～1階は学生センター、国際交流センター、研究支援センターの事務部門が入居する複合ビルである。

8月には各部門の移転が行われ第2学期から本格的に使用が開始された。中央教育研究棟の使用開始により大学キャンパスプランの第1期計画の半分が完了した。

引き続き、大学は既存建物の再利用を図るため、耐震強度の診断を法人施設部に依頼し、取り壊し予定であった南2号館と北1号館について耐震強度が保障されたため再利用を決定した。

また、既存建築物の再利用検討の手始めとして、理学部研究棟の跡地である南1号館の改修と理学部教員の研究室が移転した南3号館の4階等について、改修工事作業グループを招集し、教室を中心とする改修計画の検討に着手し、基本的方向性について合意を得た。

さらに、改修計画の中で最優先となる南1号館改修にあたっては、副学長が座長となり、南1号館改修検討委員会が設置され、以下の3つの前提条件を確認した。

- ①平成23年度に工事を実施し、平成24年度から利用を開始すること。
- ②中小規模の教室に改修すること。
- ③史料館等の展示スペースは、南1号館内には置かないこと。

南1号館は国の登録有形文化財に指定されているため、改修工事の検討に当たっては、文化財の保存に詳しい専門家の以下の3つの意見に留意して検討をおこなった。

- ①西1号館と同様に、昭和初期に建てられた鉄筋コンクリート造の建物で、カレッジゴシックと呼ばれる特徴を備えていることから可能な限り外形を残すこと。
- ②戦前の理科教場の面影を残す特徴として東側の部屋に出窓型のドラフトチャンバーや当時の黒板が良好な状態で現存していることから保存しながら新教室として転用すること。
- ③中廊下の窓の装飾性が高く、保存状態も良好であることからそのまま利用すること。

以上の前提条件と留意点を考慮して、南1号館改修工事の内容について検討した結果、国登録有形文化財としての価値を損なわず、（竣工当時の内装を残す教室も保存）16名～80名の小～中規模の教室へ改修すること。教室以外の施設として、学生の自習スペースにもなる学生ラウンジや、障害学生用の控室などを配置すること。設置不可能と思われたエレベーターも建物の外付けエレベーターに変更して、外見には影響を与えずに新しい機能を持つ教室棟として再生することを決定した。

○大学院人文科学研究科ドイツ文学専攻をドイツ語ドイツ文学専攻に改称

大学院人文科学研究科ドイツ文学専攻は、広くドイツ語、ドイツ語圏の文学を対象とした授業科目及びカリキュラム編成の実態に専攻名称を合わせるため、平成22年4月から専攻名称をドイツ語ドイツ文学専攻へ変更した。

○大学事務機構改革の1年目の総括と2年目の実施

【平成21年度の事務機構改革の各部門の総括のまとめ】

平成22年4月末に各部門から平成21年度の大学事務機構改革の総括報告書が学長宛に提出された。(以下は各部門の総括報告書の内容を抜粋、編集したものである。)

①大学庶務部の廃止と学長室経営企画課の新設について

大学庶務部から学長室体制への移行と同時に、学長室には、副学長が配置され、学長との連携の下に企画立案と執行の機関となることが求められ、経営企画課は、その実務遂行の中心とされた。経営企画課は、従来の大学庶務部が果たしてきた全学の調整的な役割を担うことはもとより、大学全体の広報渉外の担当部署として、また大学運営に直接かかわる企画立案部署としての役割を十分に果たさなければならないとされた。

平成21年度にスタートした学長室体制では、経営企画課は保健センター、研究支援センターと3課体制の下に連携を強化させ、全学の調整的な役割を果たすという課題に応えることができた。しかしながら大学全体に関わる広報の充実については、アドミッションセンターの入試広報との連携や、法人広報課との情報連絡などを実施してきたが、求められる大学全体広報については一部の役割しか果たせていない。また、大学運営に直接関わる企画立案の役割にいたっては求められる活動ができていないなどの問題点は残っている。

②学長室研究支援センターの新設について

学長室研究支援センターが設置されたことで、従来複数部署にまたがって処理されていた研究補助金業務が研究支援センターに1本化されることにより学内外にとって窓口が明確化した。また、研究補助金の情報収集とデータベース化により、科学研究費補助金業務等は一定の成果をあげることが可能となった。

ただし、研究支援センターでは、科学研究費補助金以外の外部資金に関する統一ルールが未整備であったり、不正防止のための検収体制確立、知的財産管理体制の確立、産学連携体制の確立等の解決が必要な課題が多い。その中でも、研究支援センターが今後、全学的に検討しなければならない一番の課題は、研究支援センターの業務が『研究活動』に関わる外部資金に関する取り扱いに限定されているため、『教育活動』の補助金などは、支援体制がないことである。

この問題を解決するには、研究支援センターを増員して、教育活動の補助金担当を配置するなどの全学的な検討が必要であるが、その検討にまで至っていない状況である。

③学長室保健センターの設置（法人総務部保健室から大学学長室保健センターと改称して設置）

法人総務部から分離し、大学の学長室保健センターができたことで、法人保健室でおこなっていた業務を各学校へ移管したため、保健業務が学校単位で行われることにより、問題の解決が早く、情報が浸透しやすくなったというメリットが上げられる。

特に大学学長室に保健センターが新設されたことにより大学の諸会議を通じて保健センターの情報が大学内に報告できる状況になったことは大きな改善である。

但し、学長室保健センターには事務機構改革により事務職員の配属が無くなり、看護師である課長が保健業務の総括者となった。これにより看護師の課長については各種会議等への出席や資料作りなど、事務業務が中心となり、保健活動に関わることが困難で、結果的に看護師が不足した状態になっているなど問題も少なくない。

また、学長室保健センターは、事務機構改革後も教職員の健康診断など引き続き法人の保健業務を

担う部分が大きく、業務移管に曖昧さが残っている。改善策としては教職員の健康管理に関しては、法人人事課に健康管理部門を設け担当者を配属することが望ましいが、これは法人事務組織の見直しに委ねたい。今後は学長室保健センターの業務内容を整理し、明確化していきたい。

④教務部からの独立改組によるアドミッションセンターの新設

アドミッションセンター新設にあたり「従来の入学課の業務をそのまま移管し、かつ、人員も2名増員されたことで各種入試についての情報収集と政策提言の責任部署となること」をその使命とされた。

アドミッションセンターの教務部からの独立は、以下の点で時宜を得ていた。①入試運營業務が複雑かつ多様化し、入試広報業務の比重も格段に大きくなってきたことで教務課と入学課が従来のように並存するのは難しくなってきたこと。②教員として教育の第一線に立つ教務部長が教務課と入学課の2課を取りまとめるのは大きな負担になっていたこと。③専任職員2名増員により計画的な人材育成や業務分担が可能となったこと。

このような状況の中で、教務部から独立してもアドミッションセンターと学生センター教務課とは業務連携に関する申し合わせを取り交わし、一般入試、法科大学院入試、オープンキャンパス、学内試験、卒業式、履修要覧等配付で協力体制をとっており、業務上、大きな支障はない。

しかしながら、各種入試の情報収集や政策提言については、今のところ入試運営や入試広報に係る事務処理が業務の中心となっており、十分な役目を果たしているとはいえない。中でも一般入試における各学部の合否判定案作成に参画することが役割として求められているが、現状では学部から求められる資料の用意とそれにコメントを加える程度の参画にとどまっているなど課題も残っている。

⑤就職部就職課の改組によるキャリアセンターの新設

就職部から改組し、キャリアセンターとなったことで、従来の就職業務に加えて、経済学部と連携して平成21年度から文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムの大学改革推進等補助金を獲得して、以下のとおり新規業務を展開し、成果をあげてきた。

①キャリア相談室の開設（経済学部が運営していた「キャリアカウンセリングルーム」をキャリアセンターに統合し、就職相談、キャリア相談の窓口を1本化した。）

キャリアカウンセリングの窓口を1本化したことにより全学部・全大学院生の利用が可能となり、利用者数が4倍に増加し、低学年からのキャリア相談が可能になった。

②就職セミナーの充実（保証人に対する就職ガイダンス及び女子学生向けセミナーの新規実施）

これらの新規業務は学習院大学の就職支援活動として卒業生と連携して実施している「面接対策セミナー等」の活動とも相乗効果を発揮し、高い就職力を支えている。

改組により、キャリアセンターが目標として掲げていたが、未達成となった項目としては以下の2つが上げられる。いずれも正規の授業科目としてキャリアセンターが科目の提供を目指したものである。

①キャリア教育支援業務の推進として1年次から受講可能な全学キャリア科目の開設

②3、4年生対象のキャリア科目の開設

これらのキャリア支援科目は、現在は経済学部の提供科目として開設しているが、平成23年度に基礎教養科目のうちの新たな科目としての設置を計画したが、全学の合意が得られず、基礎教養科目での開設は果たせなかった。そのため、全学部の理解を得た上でできるだけ早い時期に全学キャリア科目の開設の推進を図ることを目指して今後検討していくことになった。

平成22年度の事務機構改革は以下のとおり実施された。

【平成22年度の事務機構改革】

- ①学生センターの新設(教務部教務課、学生部学生課、学生相談室の3課を擁する)
- ②国際交流センターの大学事務組織内への位置付けの明確化と専任職員配置による体制強化
- ③理学部事務室の事務体制の見直し(教務課への業務移管を含めた見直し)
- ④大学図書館の事務体制の見直し(部課の統合と再編の実施)

大学図書館総務課、整理課、運用課の3課体制から情報サービス課、情報管理課の2課体制への集約

平成22年度の事務機構改革については、平成23年度はじめに各部門から総括報告されるのでこれを待ちたい。

○東日本大震災発生とその対応について

平成23年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は、本学にも大きな爪あとを残した。幸い崩壊する建物はなかったが、壁にひびが入ったり、研究室の書架が倒れたり、理学部の実験施設が破損するなどかなりの被害を蒙った。

地震発生直後には、構内にいた学生・教職員に加え、近隣住民がキャンパス内に避難してきたため一時的に、北グラウンドに受け、地震発生から1時間後の午後4時頃に法人と合同で西5号館1階多目的ホールに災害対策本部を設置した。災害対策本部が正式に設置されるまでの間、教職員は北グラウンドへ避難した学生に対し適宜毛布の配給を実施し、悪天候により気温が低下してきたことから、学生・教職員は輔仁会館1階及び西5号館1階学生ホールへ、キャンパスへ避難してきた近隣住民等については、学習院創立百周年記念会館(以下「記念会館」という)への避難誘導を行った。

その後、JR、地下鉄、私鉄等の公共交通機関が運行を停止したために帰宅困難者となった、学生、教職員及び外部からの受け入れ避難者を記念会館の1階正堂、ホワイエへ約500名以上を収容し、西5号館1階の学生ホールには学生約200名を収容した。

公共交通機関の運行停止により、帰宅困難者がキャンパス内に滞留して一夜を明かすことになったが、授業のない3月であったことや、首都直下型地震でなかったため、幸いにも、電気、水道のインフラは被害を受けず、学内のコンビニエンスストアも通常どおり営業してくれたことから比較的大きな動揺もなく、翌日の昼過ぎまで災害対策本部を中心に避難者へ対応し、交通機関の復旧を待つことができた。

大学としては、震災当日と翌日の2日間で災害対策備蓄品の毛布1200枚、飲料水の在庫の半分500ml×1200本を抛出した。毛布は大学の備蓄品の全てを、飲料水は約半分を提供したことになる。

東日本大震災の経験は、学習院大学の災害対策について充分だったところ、不足しているところ等、様々な“気づき”を与えてくれた。

特に近隣住民や帰宅困難者への対応、インフラが止まった時の組織行動等などの課題を再認識することができた。

大学では今回の震災の経験から災害対策の項目毎に問題点の洗い出しを行い、具体的行動基準である「学習院大学災害対策要綱」の作成に着手した。

また、東日本大震災の影響により、大学では開学以来初めてとなる平成22年度卒業式の中止及びそれに続く平成23年度入学式の中止を余儀なくされた。

○大学Webシステム（「G-Port」）の運用開始について

「G-Port」の愛称でスタートした大学Webシステムは、平成22年度からは教務課と保健センターの以下の業務について本格的なシステム運用が開始された。

- (1) 教務課は①履修登録をWebを利用して実施するシステム②教員から学生への授業のレポート課題の通知、学生から教員へのレポート提出するシステムの2つをスタートさせた。
- (2) 保健センターは①学生の健康診断結果について閲覧するシステムをスタートさせた。

「G-Port」はポータルシステムを中心に履修登録や奨学金、就職支援などの各システムを備えたWebシステムの総称である。ポータルシステムとは、ポータルサイト（学生・教員・職員単位で個別化された情報にアクセスするためのインターネット上の窓口）を通して、休講・教室変更、履修科目（時間割）・成績などの各種情報をはじめ、教員や各部門からのお知らせや呼び出しの情報などを配信できるシステムである。

G-Portの導入により、自宅や学内のパソコンはもちろん、インターネットを利用できる環境のパソコンがあれば、どこからでも必要な情報を得ることが可能で、履修登録、レポート提出、成績登録などの各種登録をすることもできる。また、お知らせ、休講、アンケート、メールアドレス登録機能等は、携帯電話でも閲覧・登録することが可能である。

すでに運用を開始しているお知らせ、休講登録、履修登録等に加え、平成23年度からは教員による成績登録、教室使用状況の閲覧、就職支援、奨学金、課外活動、教育・研究業績の各システムが運用を開始し、さらなるサービスの提供をはじめめる予定である。

「G-Port」の稼動により、学生と教員との双方向のコミュニケーションの実現や大学からの多様な情報サービスの提供が実現できることとなった。

○総合基礎科目の見直しによる「基礎教養」の発足

大学では、総合基礎科目の新たな科目設置の枠組みとして、平成23年度から従来の4学部の各学科やスポーツ健康科学センターなどの3センター以外に、科目開設の主体になれる部門として、新たに東洋文化研究所、史料館、大学図書館、キャリアセンター、学長室などの大学の各部門に門戸を広げた。

この措置は、最近数年の間に中央教育審議会の議論において教養教育の見直し検討が進められていることや本学の総合基礎科目の科目設置提案と科目維持の主体が各学部教授会のみであるが故に、学部提案にはなじみにくいが全学に共通する教養科目として開設する場合に設置しにくい実態があること。また、学部教授会のみでなく学長室などの各部署からの科目設置提案があってもよいのではないかと気運があったことにより発足したものである。

この提案部門の拡大により、平成23年度から新たに大学図書館を設置主体とした授業科目『アカデミック・スキルズ』を開設することを決定した。

また、学生に対して総合基礎科目全体の枠組みをわかりやすく、機動性に富んだ授業科目区分を可能にし、大学として教養科目を重視していることを内外に示すために平成23年度から学則上の総合基礎科目の区分を「哲学・思想」、「言語・文学」、「芸術」等の具体的分野名ではなく、「基礎教養」と改正することを決定した。

○大学の研究レベルの高さについて

学習院大学の研究力の高さを測る指標として科学研究費補助金の獲得状況があげられる。学習院大学は平成22年度文部科学省の科学研究費補助金の新規採択率40.0%、採択件数28件で、全研究機関中第3位となった。私立大学では科学研究費補助金の新規採択率は平成22年度第1位となり、本学の研究レベルの高さを証明する結果となった。

(2) 女子大学（大学院）

■管理運営

○教育改革と教育研究体制の整備充実

①既存学科の学科編成、授業編成及び運営の充実

受験生のニーズ等に鑑み、平成23年度から英語コミュニケーション学科の入学定員を30名から45名に増やす（15名増）とともに、日本文化学科と国際コミュニケーション学科の3年次編入学定員を平成25年度までに、それぞれ20名から5名に減らす（15名減）方針を決定した。

関連して、英語コミュニケーション学科のカリキュラム改編・履修規定改定を進め、平成23年度入学者から新カリキュラム・新履修規定を適用すること、また、共通科目外国語科目1群について、授業内容をより端的に表す科目名に改めるとともに、段階履修を表すⅠ、Ⅱ等を科目名から削除し、履修選択の自由度を高めることを主旨とした、科目の改廃を、併せて決定した。

上述の決定事項については、法人総務部との調整を経て、理事会、評議員会等に上程のうえ、平成22年6月30日に「収容定員変更に係る学則変更」の届出を文部科学省に提出した。

②少人数教育の推進

国際コミュニケーション学科の少人数教育を徹底させるため、平成22年度から同学科専門科目「英語演習Ⅰ～Ⅳ」の増コマ（Ⅰ、Ⅱを2コマ、Ⅲ、Ⅳを4コマ）を実施した。

③大学院のカリキュラムの改編

国際文化交流のなかでも、特に現代世界において重要となる実務的領域と学術研究に携わる領域で、専門的知識が修得できるよう「アートマネジメント」、「国際協力」の実務系プログラムと「日本学・比較文化研究」、「国際関係・地域研究」の学術系プログラムの4プログラムに変更すること、さらに、これに対応したカリキュラムの改編を平成23年度から実施することを決定し、大学院学則の一部改正を理事会に上程し、承認を受けた。

○学則の改正

・大学院学則の一部改正

以下の事由により、大学院学則の一部改正を行った。

1. 通算の休学可能年数を4年から4学期（2年）に短縮するため。
2. 退学、転学、留学、賞罰、除籍及び研究生に係る条項について、規程と運用の実態が乖離している部分を実態に合わせるため。
3. 復学及び再入学に係る条項を新たに定めるため。
4. カリキュラム充実のために授業科目を新設・統廃合するため。
5. 学習院規程集用字用語使用要項に則った字句修正のため。

・大学学則の一部改正

以下の事由により、大学学則の一部改正を行った。

1. 日本文化学科及び国際コミュニケーション学科の編入学定員を減じて英語コミュニケーション学科入学定員を増員するため。
2. 英語コミュニケーション学科カリキュラム改編に伴う別表1-3の改正のため。
3. 共通科目（外国語Ⅰ群）の科目改廃に伴う別表1-4の改正のため。
4. 共通科目の新規開設（「英語学概論」）に伴う別表1-4の改正のため。

- ・大学学則の一部改正

平成24年4月1日施行の改正博物館法施行規則に伴い、開講科目を改定するため改正を行った。

○規程等の制定

- ・学習院女子大学大学院学生の国外留学に関する規程
大学院学生の国外留学に関する事項を定めた。
- ・学習院女子大学協定留学生用マンションの管理運営に関する規程
借り上げマンションを協定留学生の利用に供するため、その管理運営について必要な事項を定めた。

○規程等の改正

- ・学習院女子大学海外派遣規程
支給金及びその計算方法を条文に明記するとともに、実績報告書の提出を義務化し、当該経費の機関管理を徹底することとした。
- ・学習院女子大学受託研究取扱規程
研究費の取扱いを実態に合わせた。
- ・学習院女子大学生の国外留学に関する規程
留学希望者に対して指導にあたる担当者を実態に合わせた。
- ・学習院女子大学協定留学生宿舍費補助に関する規程
「協定留学生用マンションの管理運営に関する規程」で定める留学生マンションについては、この規程が適用されないことを明確にした。また、宿舍が学習院女子留学生寮の場合、月の途中の入居又は退去については、当該月分の補助額を入居実日数分とすることとした。
- ・学習院女子大学協定留学生宿舍費補助に関する規程
この規程が適用される宿舍を明確にした。また、女子留学生寮の閉寮に伴い、関連規定を削除した。
- ・学習院女子大学国内外長期研究員派遣規程に関する内規
学習院国内旅費規程及び学習院海外派遣規程との整合性を持たせた。
- ・学習院女子大学における競争的資金に係る間接経費取扱要領
取扱要領の内容を実態に合わせた。

○規程等の廃止

- ・学習院女子大学海外派遣規程
学習院海外旅費規程の施行に伴い、不要となったため廃止した。

○ラオス国立大学との交換留学に関する細目の締結

ラオス国立大学とは既に平成20年6月に親協定を締結しているが、学生の交換留学に関する具体的な条件を示した細目を締結した。

○アドミッション・ポリシーの作成

日本文化学科、国際コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科及び国際文化交流研究科のアドミッション・ポリシーを定め、各学科については平成23年度の入学者用募集要項に明示した。国際文化交流研究科については、平成24年度入学者用募集要項に明示の予定である。今後、ホームページ、オープンキャンパス、学校説明会等を通してさらに広く周知していく。

○（財）大学基準協会への大学評価（認証評価）申請

平成23年度大学評価申請にあたり、（財）大学基準協会に対し、「点検・評価報告書」（案）と「大学基礎データ」（案）を作成のうえ、「大学評価申請書」とともに提出し、申請書受理の通知とその後の手続き等に関する文書を受領した。これを受け、資料提出期限の平成23年4月1日迄に、提出書類一式を提出した。平成23年10月に本件申請に係る実地調査が行われる予定である。

○ホームページのリニューアル

女子大学のホームページ(前回リニューアル時から5年経過)について、国際文化交流学部にふさわしく英語による情報発信を充実させる等、ホームページ全体をリニューアルした。併せて、携帯サイトのリニューアルも行い危機管理体制を強化し、情報発信の質的・量的拡充を図った。

○総合防災訓練の実施

牛込消防署・早稲田出張所の協力及び指導の下、授業中における震度6弱以上の地震と火災発生を想定した総合防災訓練を、平成22年11月30日に女子大学キャンパスで実施した。主な訓練内容は、地震発生時の各教室での学生自身の身の安全確保、消防署等への通報訓練、初期消火訓練、避難場所への一斉非難訓練等で、終了後には、教職員を対象に消火器・消火栓の扱い方、AEDの扱い方などの指導を受けた。

○東日本大震災に伴う対応

3月11日の地震発生時は、学年末休講期間であったが、約80名の学生が登校していた。地震発生後、直ちに避難放送で「建物内にいる学生は安全を確認しながら、建物外に出よう」アナウンスし、グラウンドに誘導した。夕方になり、日が陰り、寒気が迫ったため、学生及び教職員を2号館1階の学生研究室に移動し、備蓄倉庫より毛布、水、非常食を学生研究室に搬入した。その後、余震もやや静まった様子なので歩いて帰宅できると判断できる者は帰宅してもよい旨指示し、帰宅可能と判断した学生に対し、防災マップのコピーを渡した。午後9時頃に地下鉄の一部が運転再開との情報は入ったが、そのまま構内に宿泊することとし、学生約55名、教職員約20名が2号館及び3号館の和室等を利用し宿泊した。翌朝から徐々に交通機関が運転再開となり、午後0時30分に学生全員の帰宅を確認した。

週明けの3月14日には、大きな被害を受けた地域を中心に学生の安否確認を行うとともに、「登校・課外活動の自粛について」、「平成22年度卒業式・修了式について」、「地震による安否確認について」、「計画停電による本学HP閲覧への影響について」をHPに掲載し、学生に周知した。

なお、3月19日の卒業式・修了式は、式典は中止とし学位記の授与及び証明書等の発行のみを実施した。

○女子大学学生証のICカード化

女子大学の学生証を、学習院大学学生証のICカード化導入時期に合わせ、平成22年4月1日よりICチップ内臓、電子マネー機能搭載のものに切替えた。これにより、コンビニエンスストアでの電子マネーの使用等が可能となり、学生の利便性が図れる。

■教育活動

○牛込消防署からの感謝状贈呈

本学が毎年在学生を対象に普通救命講習会を開催している等、救急業務に熱心に取り組んでいることに對し、9月9日(救急の日)に牛込消防署から感謝状が贈呈された。

○外務省主催の「グローバル教育コンクール2010」において学校賞授与

平成22年8月18日～30日に実施された学習院女子大学クロアチア・マケドニア・オーストリア国際協力研修に参加したメンバーが、外務省主催の「グローバル教育コンクール2010」に応募し、学習院女子大学に「学校賞」が授与された。

■施設等整備

○平成22年度においても、施設設備の改修・営繕が計画的に行われた。主要なものは以下のとおりである。

①安全管理の強化の面からの改修整備等

- イ. 3号館アスベスト除去工事
- ロ. 3号館部室棟階段手摺工事
- ハ. 女子大学図書館外部手摺設置工事
- ニ. テニスコート休憩シェルター設置工事

②その他の施設設備の改修整備等

- イ. 2号館B1やわらぎホールピアノ庫除湿機設置工事
- ロ. 2号館ガレリアエスカレータ横掲示板増設工事
- ハ. 2号館3階屋上庭園改修工事
- ニ. 3号館1階厨房用給気ファン取替工事
- ホ. 3号館変圧器取替工事
- ヘ. 4号館、B館幹線引替え、各分電盤改修工事（戸山地区）
- ト. 6号館屋根改修工事
- チ. 7号館屋上防水改修工事
- リ. 部室棟H f 蛍光灯取替工事
- ヌ. 女子大学旧ボイラー室改修工事

(3) 高等科

■セントポール校との協定留学

平成11年5月に協定書を交わした米国セントポール校との協定留学は、翌年の平成12年度から開始され、セントポール校からは1名ないし2名が高等科に1学期間、2～4名の生徒が3週間の短期留学を行う。高等科からは、2名の生徒がセントポール校へ1年間の長期留学を行っている。途中「9.11」事件によって中断を余儀なくされたこともあったが、平成18年度より交換留学が再開された。平成22年度には例年通り2名を送り出した。

高等科に1学期間滞在する生徒は、他の留学期間を通じて1年間受け入れる生徒たちと同じプログラムで学校生活を送る。また短期留学でやってくるセントポール校の生徒は、高等科生、あるいは中等科生の家庭でホームステイを行い、高等科生と一緒に授業を受け、また東京観光、関東近県、関西への小旅行によって日本の生活や文化を体験している。生徒やホスト家族、教職員とともに歓送迎会を行うことで、両校の友好は深まっている。

高等科から留学する生徒は、8月から留学して翌年6月に帰国する。どの留学生も勉学はもとより、学習院や日本の紹介を立派に成し遂げ、部活動で活躍している。多くの友人を作った上で、Headmaster's list や honor roll という成績優秀者名簿に、名前を連ねてきたことは特筆に値する。

平成18年度には、外国人研究者及び教育者招聘事業にセントポール校のWilliam Matsuzaki先生をお招きして、共同授業や小講演を数多く行った。セントポールでのコンピュータ教育やIBプログラムという教育内容ばかりではなく、募金活動などについてもお話いただいた。その後も毎年、同先生による英文レポート作成術(essay writing)や発表(presentation)についての集中講座などを開いていただき、留学予定の高等科生や留学を予定していなくとも欧米での授業体験をしてみたい高等科生にとって貴重な機会となっている。

加えて平成21年度より開始された「セントポール校教諭によるワークショップ」は、本年22年度は中等部校長のBruce Wilhelm氏とMatsuzaki氏によって行われた。高等科生のみならず、中等科生の参加も許可した。呼びかけに応じた中等科生が数名参加し、優秀賞を授与されていた。

このように、セントポールとの交流事業は、年を重ねるごとにその内容も発展・深化し、高等科国際交流の中核となってきた。ただし本年度は様々な点で見直しを迫られる面もあった。6月に来日した生徒たちの行動面に諸問題が発生した。そこで11月にはセントポール校の校長Tom Reid氏を招き、直接議論を交わした。また留学経験、留学生のホストファミリーを務めた家庭との懇談もReid氏、Matsuzaki氏加えて法人から東園理事が参加した上で行った。生徒を送り出す際の問題、受け入れる際の問題、整備しなければならない課題が浮き彫りにされた。今後とも継続して、この交流事業については検討を重ね、内容を向上させていきたい。

■高等科紀要

高等科では平成15年より『学習院高等科紀要』を発刊し、以来毎年必ず刊行している。平成22年9月には第8号を刊行した。高等科で行われた授業の実践報告や教職員個人の研究内容に関わる論文が8本収録されている。同時に平成22年3月に行われた「学習院ミニ・フォーラム」の内容について、その報告が収録されている。高等科のホームページにおいて、過去に発行した紀要の各論考のアブストラクトの紹介を行ってきたが、本年は2学期の父母会や学校説明会といった場においても配布を行った。

■高等科連絡システム

本年度秋より、高等科と在校生、父母との間で行う相互連絡システムを運用開始した。日常の出欠席の連絡や学校からの緊急情報の提供に利用可能となった。特に本年度末の東日本大震災発生時には、高等科のホームページと併用することで生徒の安否情報を伝えることができた。それによって家庭との信頼関係構築にもつながり、その利便性は定着したといえるだろう。

(4) 中等科

■行事

○「東京フィルハーモニー交響楽団」特別講演について

平成23年2月14日、記念会館正堂において中等科生と中等科の父母を対象にして、「東京フィルハーモニー交響楽団」特別講演がおこなわれた。中等科生600名と父母約100名は、美しい演奏と「指揮者体験」などのイベントを堪能していた。楽団の方が「聞き手に恵まれ、のびのびと演奏できた」と語っていた。

プログラム：

1. ロッシーニ：歌劇《ウィリアム・テル》序曲より 「スイス軍の行進」
2. 楽器紹介
3. ベートーヴェン：交響曲第5番 ハ短調 作品67 《運命》より 第1楽章
4. スメタナ：連作交響詩《我が祖国》より「ブルタバ（モルダウ）」
5. マスカーニ：歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》より「間奏曲」

6. ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 作品88より 第4楽章

○ニュージーランド短期研修について

本年度もKing's Collegeコース(終日現地校授業参加、ホームステイ5日間)3名：Sacred Heart Collegeコース(午後現地校授業参加、ホームステイ4日間)24名の応募があり準備を進めていたが、2月23日のクライストチャーチの地震、3月11日の東日本大震災によって中止となった。

○「OBと共に語る」について

キャリア教育の一貫として平成16年度、2、3年生を対象に卒業生による講演会が企画された。平成18年度からは中・高桜友会と連携し、30歳前後の卒業生数人によるシンポジウム形式での講演会となった(全学年を対象)。5回目となった今年度も、いろいろな職業の卒業生のパワーポイントを用いた熱気溢れる話に、生徒は熱心に耳を傾けていた。

回を重ねると共に、人選や連絡のためのネットワーク作りなど、今後の課題も見えてきた。

■広報活動

○学校説明会

毎年秋に、中等科主催の入試説明会を4回(うち1回は帰国子弟向け)と鳳櫻祭における入試相談を実施している。説明会では、いたずらに先取りをしたりせず、深く、広く、じっくりと勉強させていることや、人的にも施設的にも非常に恵まれた環境であることを強調している。卒業生作成のDVD、生徒会役員の話、直接母親(父母幹事)に質問できるコーナーなどは特に好評である。

その他塾主催説明会等に数多く参加している。

NO.	名称	日程	場所
1	東京私立中学合同相談会(第1回)	5/8(土)	東京フォーラム
2	Benesse進学フェア	5/16(日)	東京フォーラム
3	早稲田アカデミー主催説明会	5/30(土)	記念会館正堂
4	栄光ゼミナール主催説明会	6/3(木)	記念会館正堂
5	サビックス主催説明会	6/10(木)	記念会館正堂
6	トーマス主催説明会	6/10(木)	記念会館正堂
7	声の教育社主催相談会	6/20(日)	新宿
8	日能研学校フェア	7/4(日)	東洋大
9	日能研高田馬場校主催説明会	7/8(木)	日能研高田馬場校
10	Benesse進学フェア	7/10(土)	サンシャイン
11	日能研主催帰国子女相談会	7/25(日)	実践女子学園
12	帰国子女国内説明会	7/30(金)	オリンピック記念センター
13	私立中学フェア	8/21、22(土)	東京フォーラム
14	中等科主催(帰国子弟向け)	9/11(土)	記念会館正堂
15	中等科主催	9/18(土)	記念会館正堂
16	トーマス主催入試相談会	9/20(月、祝)	新宿
17	四谷大塚主催学校説明会	10/17(日)	記念会館正堂

18	私立中学フェア	10/17(日)	サンシャイン
19	中等科主催	10/23(土)	記念会館正堂
20	サピックス主催帰国子女説明会	10/26(日)	浜町
21	四谷大塚主催学校説明会	11/16(日)	記念会館正堂
22	中等科主催	11/20(土)	記念会館正堂
23	日能研主催学校説明会	12/23(火)	記念会館正堂

(5) 女子高等科・女子中等科

■創立125周年記念式典および東日本大震災の影響について

平成22年11月に女子中・高等科は創立125周年を迎え、記念事業として新校舎の建築ならびに記念誌作成に取り組み、同年9月には新校舎が完成し、11月には記念誌も完成の運びとなった。旧校舎の解体および校庭整備をまわって平成23年3月6日に記念式典を挙行し、秋篠宮妃殿下ならびに常陸宮妃殿下の御来臨を賜った。院長はじめ学習院関係の方々、常磐会の皆様、学校関係の方々、旧教職員の皆様方に御出席賜り、春の麗らかな吉日に無事挙行した。常磐会会長の近衛様初め常磐会の皆様からはこれまで建築資金のための様々な御尽力を頂いた。

3月11日の東日本大震災の当日は試験休み中で、学芸会の準備のために中1から高2までの生徒500名余りが在籍していた。また、高1、高2の生徒は目白で行われていた、学部学科説明会に参加していた。結局帰宅出来なかった者、目白から戻った一部の生徒合せて400名余りが新校舎に泊まることになった。その後も交通機関の混乱が続き学芸会を中止し、卒業式は高3生徒および父母のみの参加という変則の形式となったが、心に残る卒業式となった。試験休み、春休み中は登院禁止とした。この後は防災に関する課題にとり組む事となった。

■教育課程の見直し

高等科の教育課程について教育課程検討委員会にて策定作業を進めた。作業は、平成25年度から実施の過程の大枠を定めた後、平成24年度入学生に対する移行措置案を検討するという方針で行った。その際、学習指導要領にある「生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点および育成をはかる上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること」に特に留意した。従来通り中高6年間を一つの流れと捉え、中等科1・2年では基礎の定着、中3・高1では応用力の伸展、高2・3年生では類型別選択制(コース制)のもと発展的な学習に目標を定めていく予定である。

■学習院大学・女子大学による出張講義と大学授業聴講

法人総合企画部の協力を頂き、出張講義と授業聴講が行われた。出張講義は7月9・12日に高等科2年生全員と1・3年生の希望者を対象に実施された。大学、女子大ともにすべての学科の講義が行われた。また、12月13日から18日の間、大学159講座・女子大49講座の聴講が許され、のべ102名の生徒が受講した。

■子どもと親で学ぶ女性のライフサイクル講座

女子中・高等科では生徒や保護者の方を対象に、専門家を招いて講演会を催してきた。これをさらに発展させ、スクールカウンセラーの協力も得て、平成19年度から「子どもと親で学ぶ女性のライフサイクル講座」と命名して、定期的を開催することになった。思春期の心と体、性の話題を中心に、今年度は中等科1年では4月と12月に、中等科3年では6月に、高等科3年では2月に「知っておきたい女性の健康～健やかな未来のために～」というテーマで産婦人科医の講師から充実したお話を伺うことができた。

■講演会およびその他の行事

「講演会」は、5月15日(土)に、中等科2年生と高等科生に分けて実施された。中等科2年生へは、女子部本館小講堂にて、昨年度に引き続き、菅原亜樹子氏と真船貴代子氏に、「将来への夢さがしステップ」

～好きな仕事に出会うには～というテーマで講演をお願いした。お二人は、様々な分野で活躍なさっている方々からの若者へのメッセージを伝えて下さった。また、生徒は、ワークシート作業を通して「やりたいことを見つける」「自分の適性を見つける」という考え方を体得することができた。お二人は、適切なアドバイスをしながら生徒の気持ちを引き出し、楽しく作業を進めて下さった。

卒業生でもあるお二人の温かで、親しみやすい雰囲気には生徒はひきこまれ、熱心に講演会に参加していた。

5月15日の百周年記念会館での講演会では、女子高等科の卒業生で、現在脚本家としてご活躍の相良敦子様からお話を伺った。学習院大学史学科を卒業後様々な道を歩み、脚本家としての現在に至った道のりを「心のコンパス」と題してお話くださった。女子高等科の時代に演劇部で活躍し、当時からの演劇への思いがコンパスとなって脚本家への道を示していたことが、生徒にもよく伝わったことと思われる。また担当したNHKの連続テレビ小説「ウエルかめ」の番組で、脚本家はどのように番組に関わるか等、興味深いお話も伺うことができた。

「能楽鑑賞教室」は、平成23年2月15日(火)、高1高2対象に、霞会館の教育助成金を得て、国立能楽堂で実施。狂言は大蔵流の「寝音曲」、能は金春流の「葵上」であった。

「在校生と卒業生の交流会」は、3月12日(土)を予定していたが、前日(11日)の東日本大震災のために中止。結局、平成22年度は交流会を開催できなかった。

■広報活動

受験生や保護者には「中高一貫の6年間での教育内容」と「卒業時の進路」が年々大きな学校選択の要素となってきている。学内での教育内容をより充実させながら、今後も受験生や保護者に本校の教育や入試について正確に理解してもらうことが非常に重要である。

学内における広報については、7月18日の午前中に帰国生対象説明会、午後に学校説明・相談会を学習院女子大学を会場に実施し、それぞれ約100名、約700名の来場者があった。10月2日および11月20日にも学習院女子大学を会場に学校説明会を行い、それぞれ約930名、約640名が来場した。また、文化祭(八重桜祭)においては図書館に「入試相談コーナー」を設け、約120組の相談に応じた。

学外での広報では、4月29日の女子校アンサンブル(一貫教育の女子校9校の合同説明・相談会)を皮切りに5月8日、8月21・22日および10月17日の東京私立中学高等学校協会主催の合同説明会や大手進学塾主催の保護者対象の説明会・相談会に参加した。また、学校周辺の約30の学習塾を訪問し、教室代表者への直接の説明も行った。学校を知ってもらうことに加え、小学生を指導する担当者の率直な声も聞く事が出来、有意義であった。

■姉妹校メソヂスト・レディーズ・カレッジ(MLC)との交流(国際化教育)

オーストラリアのメルボルン近郊にあるメソヂスト・レディーズ・カレッジ(MLC)との交流は平成14年12月に始まり平成16年2月に姉妹校提携をした。それ以来、授業でのインターネットを利用した定期的Eメールの交換、及び隔年での生徒の短期派遣・受け入れ実施により、両校の相互理解を深めるための交流は活発に行われている。

オーストラリア訪問の年に当たる今年度は、「第4回オーストラリア研修旅行」を平成22年8月8日から8月22日までの15日間にわたって実施した。専任教員が2名引率した。中等科3年生8名、高等科1年生3名、高等科3年生2名の計13名がMLCの生徒の家庭にホームステイし、ホストシスターと一緒に授業を受けたり、付属の幼稚園や小学校を訪れ日本文化の紹介を行ったりした。習字や折紙などは好評だった。

オーストラリアは多民族国家であるので、MLCの生徒の家庭も国際色豊かだった。研修に参加した生徒13名は、英語力を向上させるだけでなく異文化を理解するきっかけも掴んだようだった。

MLCとの交流は相互受け入れが原則なので、ホームステイ先は前年に来日した生徒、または来年来日予定

の生徒の家庭となる。一方的で一過性の研修旅行とは違い、継続して交流できることがこの研修旅行の特色であろう。

(6) 初等科

■重点指導目標「学ぼうとする子ども、学びあおうとする子どもの育成」

この目標は、平成22年6月4日に初等科で開催をされる「日本私立小学校連合会(略称・日私小連) 第47回東京地区教員研修会」を念頭において、平成20年度はじめに設定したものである。

この目標の設定理由は、児童が積極的に学習課題に取り組み、協力して学びあうことで学習成果の一層の飛躍を図るようにしたい、ということにある。これを私たち初等科がめざす児童像としたい。また、指導者が分かっていることを話し、できることをしてみせるだけでは、望ましい初等科生は育たない。児童が学ぼうとする意欲を持ち、学びあおうとする姿勢を持つことこそ、指導者が指導目標としなければならない。

■「第47回 東京地区教員研修会(主催 日私小連)」開催

平成22年6月4日(金)に開催したこの研修会は、東初協(東京初等学校協会の略称)に加盟している都内私立小学校の教員が、毎年6月の第1金曜日に会場校に集まり、実施している研修会である。会場校の児童は登校日だが、会場校でない学校の児童にとっては自宅学習日となる。初等科は長きにわたり、会場として狭い、警備が不安である、等の理由から会場校の依頼を断ってきた。

しかし、研修なくして進歩はありえないので、長期的な展望を考えて、今後の発展のためにも会場校を受諾することにした。前中島科長のときである。

初等科の授業者は、目の前の児童に実り多い授業を展開し、そこに学ぶ児童と保護者から熱い信頼を得る。そして、その時の授業で伝えたかった内容を書籍等に著し、その書籍等を通して、その授業内容を多くの地域の方々と語り合う。そういう風に授業が進歩していくことを願っているし、その第一歩になってくれることをこの研修会に託した。

当日の1校時は授業非公開学級6クラス、2校時は授業公開学級18クラス。来客数は約1430名で、最大予想数1200名を遥かに超えてしまい、裏方業務を依頼していた父母幹事の方々には大変な負担をかけてしまった。

■東日本大震災

平成23年3月11日(金)午後2時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9の巨大地震が発生した。地震発生時、校内には6年生の児童約120名、5年生の父母約120名、教員40名、職員13名、その他21名、合計約310名がおり、校庭への避難を余儀なくされた。余震が続く中、わかば通信で学校の実情を知らせ、児童引き取りを依頼する一方、ニッポン放送を利用して安否情報を流し、安全を確認しつつ帰宅させた。午後9時以降の残留者は、児童・父母各35名前後、教職員等44名が校内で不安な一夜を過ごすこととなったが、翌朝10時までには児童・父母の全員が帰宅した。残留者には乾パン、毛布、水を配付し凌いだが、予想される東京直下型地震を考えると備蓄が不十分であることや、定期点検に不備があること等が明らかになった。今回の経験をこれからの危機管理体制にどのように活かすかが今後の課題である。

(7) 幼稚園

■教育(保育)に関すること

・年間行事は、天候に恵まれ、またインフルエンザ等で学級閉鎖をすることもなく、ほぼ予定通り順調に実施された。

- ・東日本大震災（3月11日）の際は、園児が降園してから数時間後の地震発生であったため、全園児は父母と既に帰宅していた。そのため園内に園児が宿泊するようなことはなく（教員3名、職員2名は園内に宿泊）、震災後の安全も確認された。
- ・東日本大震災の影響により、3月14日（月）終業式、および3月15日（火）謝恩会は中止したが、3月15日（火）卒業式は実施した。
- ・父母講座（5月）講師の佐藤弘道氏と園児は、父母講座終了後に歌や手遊びでおおいに楽しんだ。
- ・隔年で実施している『ハンドベルを聴く会』を園児だけでなく、母や弟妹も自由参加にして実施したところ、好評だった。また園児も楽器に触れ演奏に参加した。
- ・絵本に親しむ会（年長組）では、童話作家 荒川 薫氏に手遊びなどを交えながら、絵本を読んでもらった。園児は集中して話を聴き、楽しんだ。
- ・食育の一貫として、数種類の野菜を種子から育てることを試みた。
- ・和室でお茶をいただく（年長組）行事では、遠州流茶道宗家13世家元よりお話を伺いながら、和室で正座し、お抹茶とお菓子をいただいた。
- ・今年度は母親と園長とのお話の会を11回実施した。

■学校評価（自己評価）に関すること

- ・22年度の重点目標を『集団生活における基本的な生活態度（特に、1.話を聞く、2.相手の思いに気づく、3.約束を守る）を身につける』とした。
- ・現状および問題点の把握、教員間の共通理解、改善のための具体的な手立てを講じながら、教育活動に取り組んだ。
- ・重点目標への取り組みについて自己評価を行うことが、教員の意識向上、教育の質の向上に繋がった。

■幼稚園と初等科との連携に関すること

- ・幼稚園と初等科との連絡会議を年2回（11月・2月）行った。
- ・初等科1年生の授業及び学校生活の様子を幼稚園時の主管が参観させていただき、初等科の現主管と懇談する機会を持った。現場の先生方が話し合うことは、たいへん有意義であった。
- ・初等科教諭による保育参観を行った。保育参観後に話し合いを行い、今後の幼初の連携に有意義な機会となった。
- ・初等科の運動会に年長組はプログラム「ゆうぎ」で参加させていただいた。半年後に進学する初等科に親しみを感じることができるようよい機会となっている。
- ・幼初合同講演会を実施（1月）した。

■安全・施設・営繕に関すること

- ・緊急時の連絡方法として、NTTデータの『子ども安全連絡網』による一斉送信を可能にした。
- ・緊急地震速報受信装置『デジタルなまず』を設置した。
- ・目白警察署の指導による教職員防犯講習会を実施した。初期対応、避難経路、役割分担、留意点等についての再確認と訓練を行った。
- ・今年度も、目白警察署の方による「交通安全のお話」を親子で聞く機会を持った。
- ・消防署の方による指導、保護者への引き渡し訓練を含め、年3回の避難訓練を実施した。
- ・屋外テラス（ウッドデッキ）全面取替え工事を実施した。
- ・園庭の東側・南側・西側の外周部に良質な客土を敷き、芝・野草等で緑化した。

- ・園庭南側・東側の垣根のうち、外部から園庭が覗ける箇所に植樹等をして、安全対策を行った。
- ・園庭遊具の安全点検、水洗いを含む遊具メンテナンスを年3回実施した。
- ・園庭遊具の塗装落とし、錆落としの上で再塗装を行った。
- ・砂場木製枠のシロアリ防止対策のため、立ち上げ部分をコンクリート平板にした。
- ・保健室内に目の洗浄用蛇口を設置した。
- ・嘔吐処理後の手指、空間の除菌の為、『細菌ウィルス除去スプレー』を各保育室等に配置した。

■22年度の鑑賞会

- ・音楽鑑賞会 チェコ少年合唱団ボニ・プエリ 『日本の歌・チェコの歌など』
- ・人形劇鑑賞会 人形劇団プーク 『ピーターとおおかみ』『ねぎぼうずのあさたろう』

■22年度の父母講座

- ・佐藤弘道先生（元NHK体操のお兄さん）『子どもはぜんぜん悪くない』
- ・和久洋三先生（童具館館長）『育つ喜び 育てる楽しさ』
- ・品川明先生（学習院女子大学教授）『食とは』

(付録) 平成 22 年度 主な一貫教育事業一覧

	上の学校への引継ぎ等	下の学校への説明会等	在学生向け行事等	教員の交流・その他連絡会
大学		<ul style="list-style-type: none"> ■全学部 説明会（1・2年生希望者対象。3月上旬） ■文学部主催 説明会（6月） ■両高等科保証人への大学説明会（7月） ■文学部主催進学者ガイダンス（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■出張講義（大学教員による両高等科への出張授業。7月） ■授業聴講（大学による、両高等科生への授業開放。12月） ■男子 特別講義（大学の教員が講義することがある） ■科学のフロンティア（理学部による高等科以下への科学教室。8月） ■留学生伝統芸能鑑賞会（7月：歌舞伎、12月：文楽、2月相撲／両高等科の留学生を含む／女子大学と共催） ■博物館教育（大学史料館による高等科への授業協力） ■学習院グリーン元気プロジェクト（於：小笠原諸島。8月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教科連絡会（大～幼。10月）
女子大学			<ul style="list-style-type: none"> ■出張講義（女子大学教員による女子高等科への出張授業。7月） ■授業聴講（女子大学による、女子高等科生への授業開放。12月） ■初等科生徒に対する英語教育 ■中等科の帰国子女に対する英語教育 ■霞会館イングリッシュ・セミナー（103名の児童・生徒・学生が参加。8月） ■留学生親睦バス旅行（高等科の留学生を含む。大学と共催。2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教科連絡会（大～幼。10月）
高等科	<ul style="list-style-type: none"> ■引継ぎ 		<ul style="list-style-type: none"> ■鳳櫻祭（高中合同。10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教務課連絡会（高～初。5月） ■児童課・生徒課連絡会（高～初。6月） ■教科連絡会（大～幼。10月）
中等科	<ul style="list-style-type: none"> ■引継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ■科長進学説明会（初等科5年生父母対象。6月） ■教頭先生の話聴く会（初等科6年生対象。3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■鳳櫻祭（高中合同。10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教務課連絡会（高～初。5月） ■児童課・生徒課連絡会（高～初。6月） ■教科連絡会（大～幼。10月）
女子高等科	<ul style="list-style-type: none"> ■引継ぎ 		<ul style="list-style-type: none"> ■運動会（高中合同。10月） ■八重桜祭（高中合同。10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教務課連絡会（高～初。5月） ■児童課・生徒課連絡会（高～初。6月） ■教科連絡会（大～幼。10月）
女子中等科	<ul style="list-style-type: none"> ■引継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ■科長進学説明会（初等科5年生父母対象。6月） ■教頭先生の話聴く会（初等科6年生対象。3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■運動会（高中合同。10月） ■八重桜祭（高中合同。10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教務課連絡会（高～初。5月） ■児童課・生徒課連絡会（高～初。6月） ■教科連絡会（大～幼。10月）
初等科	<ul style="list-style-type: none"> ■両中等科への連絡会（11・2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■授業参観（幼稚園の教員が授業や児童の様子を見る。6月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■運動会（幼稚園年長組が「おゆうぎ」で参加。10月） ■幼初合同講演会（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教務課連絡会（高～初。5月） ■児童課・生徒課連絡会（高～初。6月） ■教科連絡会（大～幼。10月） ■教育懇談会（情報交換会・幼稚園と合同。6・11月）
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ■保育参観（初等科の教員が授業や園児の様子を見る。11月） ■初等科への連絡会（11・2月） 		<ul style="list-style-type: none"> ■父母講座（初等科の一部父母も対象。9月） ■幼初合同講演会（1月） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教科連絡会（オブザーバー。大～幼。10月）
	上の学校への引継ぎ等	下の学校への説明会等	在学生向け行事等	教員の交流・その他連絡会

2. 入学試験（過去5カ年の推移）

(1) 大学 (大学院)

過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

■大学院

下段の数字は内数女子 当該年度5月1日現在

		平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
		定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者
法学 研究科	博士前期																				
	博士後期	3	0	0	0	3	1	0	0	3	0	0	0	3	1	1	1	3	2	1	1
政治学 研究科	博士前期	10	26	15	13	15	24	17	15	15	14	12	9	15	13	4	2	15	17	14	11
	博士後期	5	2	1	1	5	1	1	1	5	4	2	2	5	2	0	0	5	2	1	1
経済学 研究科	博士前期	10	3	0	0	10	4	3	2	10	5	2	1	10	5	3	1	10	5	5	5
	博士後期	3	4	3	3	3	0	0	0	3	1	0	0	3	2	2	2	3	0	0	0
経営学 研究科	博士前期	10	16	11	9	10	11	6	4	10	9	8	6	10	9	7	7	10	26	13	12
	博士後期	3	7	5	5	3	5	3	3	3	4	3	3	3	2	2	2	3	1	1	1
人文科学 研究科	博士前期	85	148	66	58	85	139	58	52	112	158	84	74	118	180	91	84	118	202	90	80
	博士後期	18	63	30	30	18	39	23	22	27	35	26	26	27	30	21	20	27	41	22	22
自然科学 研究科	博士前期	36	48	43	36	36	66	57	45	51	57	46	31	51	62	57	48	51	72	61	55
	博士後期	9	4	4	4	9	2	2	2	12	3	3	2	12	3	3	3	12	4	4	3
大学院計		192	321	178	159	197	292	170	146	251	290	186	154	257	309	191	170	257	372	212	191

注：志願者、合格者、入学者は、一般入試、社会人入試、進学をすべて含む。

注：法学研究科博士前期課程は、平成16年度の法科大学院開設に伴い、平成16年度から学生募集を停止し、平成17年3月31日付で廃止。

■専門職大学院

下段の数字は内数女子 当該年度5月1日現在

		平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
		定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者
法務 研究科	専門職学位	65	1,128	94	59	65	1,095	88	53	65	918	90	56	65	642	94	49	50	488	88	51
			311	25	14		329	24	11		293	22	13		181	28	16		140	27	19
専門職大学院計		65	1,128	94	59	65	1,095	88	53	65	918	90	56	65	642	94	49	50	488	88	51

●平成22年度入試についての動向解説

○大学院

平成22年度大学院入試では、経済学研究科博士前期課程において、新たに卒業生向け入試（A日程・B日程）の募集が開始され、経営学研究科博士前期課程において、それまで1回のみ行っていた一般入試・社会人入試を、A日程・B日程の2回行うこととなった。また、人文科学研究科では、ドイツ文学専攻がドイツ語ドイツ文学専攻に改称された。

研究科によって差はあるものの、大学院全体で志願者数は増加しており、博士前期課程と博士後期課程の志願者数の合計は前年度から20.3%増の372名となった。

○専門職大学院

平成22年度の志願者数は、前年度から24.0%減の志願者数488名であった。選考の結果、88名の合格者を発表し、入学者数は51名であった。

法科大学院の志願者数は全国的に大きく減少しており、全国の志願者総数は前年度から19.2%減の24,014名となっている。

入学定員を65名から50名に変更し、入学者数は入学定員を上回った。

■学部

下段の数字は内数女子 当該年度5月1日現在

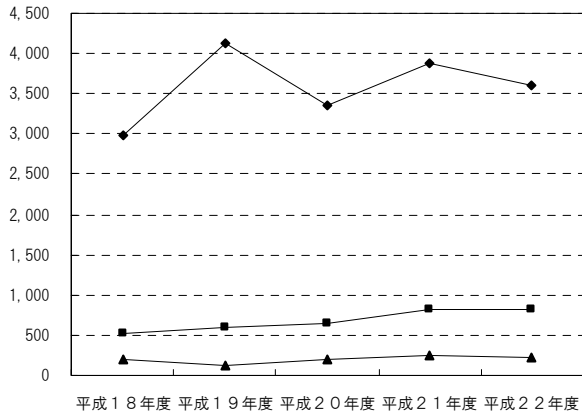
		平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度				
		定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	
法学部	一般入試	法学科	250	1,671 576	265 115	106 37	250	2,554 881	313 116	61 20	250	2,069 654	334 134	97 37	250	2,232 702	443 166	120 48	250	2,188 702	460 188	110 42
		政治学科	230	1,319 477	254 107	105 47	230	1,581 585	281 125	60 21	230	1,290 456	317 125	102 35	230	1,635 570	382 146	128 43	230	1,428 485	359 145	118 36
	一般入試法学部計	480	2,990 1,053	519 222	211 84	480	4,135 1,466	594 241	121 41	480	3,359 1,110	651 259	199 72	480	3,867 1,272	825 312	248 91	480	3,616 1,187	819 333	228 78	
	外国・海外帰国		24 12	20 10	15 6		57 22	36 15	24 10		82 35	50 24	30 13		81 39	14 8	8 4		41 15	6 2	4 1	
	指定校推薦		141 88	141 88	141 88		162 95	162 95	162 95		138 88	138 88	138 88		137 75	137 75	137 75		129 78	129 78	129 78	
	自己推薦										2 2	2 2	2 2		12 9	9 7	5 3		24 18	14 11	5 2	
	進学		130 61	130 61	130 61		122 68	122 68	122 68		130 61	130 61	130 61		111 55	111 55	111 55		126 70	126 70	126 70	
法学部小計		480	3,285 1,214	810 381	497 239	480	4,476 1,651	914 419	429 214	480	3,711 1,296	971 434	499 236	480	4,208 1,450	1,096 457	509 228	480	3,936 1,368	1,094 494	492 229	
経済学部	一般入試	経済学科	250	2,424 682	449 124	166 45	250	2,186 532	504 137	230 59	250	3,088 752	588 142	144 34	250	2,691 652	540 140	183 42	250	2,056 456	527 120	185 42
		経営学科	250	1,580 567	259 95	99 34	250	1,605 566	288 95	117 39	250	2,175 728	404 156	101 31	250	1,982 667	393 136	128 40	250	2,060 617	372 113	125 33
	一般入試経済学部計	500	4,004 1,249	708 219	265 79	500	3,791 1,098	792 232	347 98	500	5,263 1,480	992 298	245 65	500	4,673 1,319	933 276	311 82	500	4,116 1,073	899 233	310 75	
	外国・海外帰国		16 9	10 6	4 2		21 14	13 8	2 2		36 18	15 5	5 0		52 14	23 5	5 2		49 21	19 8	8 1	
	指定校推薦		161 96	161 96	161 96		176 114	176 114	176 114		154 96	154 96	154 96		148 98	148 98	148 98		135 85	135 85	135 85	
	外国人学生		65 26	19 7	15 4		56 26	23 10	21 8		71 30	29 13	21 8		86 32	29 14	16 4		111 46	30 15	21 12	
	進学		89 43	89 43	89 43		74 22	74 22	74 22		79 33	79 33	79 33		88 42	88 42	88 42		81 31	81 31	81 31	
経済学部小計		500	4,335 1,423	987 371	534 224	500	4,118 1,274	1,078 386	620 244	500	5,603 1,657	1,269 445	504 202	500	5,047 1,505	1,221 435	568 228	500	4,492 1,256	1,164 372	555 204	
文学部	一般入試	哲学科	87	541 298	152 95	55 34	87	478 249	160 91	68 39	95	549 263	172 102	68 38	95	603 327	159 86	55 30	95	488 281	152 85	48 28
		史学科	85	740 379	179 101	59 30	85	747 346	181 109	51 30	85	836 389	183 101	57 24	85	832 417	197 100	54 24	85	743 381	192 117	53 30
		日本語 日本文学科	110	797 601	224 182	57 41	110	782 567	232 169	89 64	110	823 568	243 174	104 72	110	979 693	246 175	75 53	110	765 531	198 143	57 37
		英語英米 文化学科*	115	839 616	200 146	59 38	115	879 640	224 165	78 63	115	912 644	267 204	91 67	115	1,135 818	243 175	45 32	115	739 497	217 146	68 47
		ドイツ語圏 文化学科*	50	228 165	91 67	39 28	50	333 243	95 68	29 20	50	192 144	71 54	25 15	50	292 206	91 68	16 13	50	305 220	100 73	39 30
		フランス語圏 文化学科*	80	360 267	148 110	56 37	80	505 398	122 95	39 30	80	320 237	93 73	30 22	80	410 319	132 106	28 20	80	326 257	112 90	31 24
		心理学科	75	658 415	145 97	45 27	75	626 389	156 103	64 44	90	669 401	180 128	64 44	90	845 516	185 125	50 28	90	715 434	187 125	71 48
	一般入試文学部計	602	4,163 2,741	1,139 798	370 235	602	4,350 2,832	1,170 800	418 290	625	4,301 2,646	1,209 836	439 282	625	5,096 3,296	1,253 835	323 200	625	4,081 2,601	1,158 779	367 244	
	外国・海外帰国		48 41	21 18	14 11		81 62	33 22	16 8		39 29	8 7	5 4		74 54	25 17	16 11		73 61	17 12	11 7	
	指定校推薦		189 168	189 168	188 167		190 169	190 169	190 169		176 150	176 150	176 150		183 158	183 158	183 158		189 163	189 163	189 163	
	公募制推薦		153 129	62 56	62 56		223 176	48 41	48 41		174 131	61 52	61 52		167 121	53 45	53 45		161 117	53 45	52 44	
	社会人		8 6	5 5	4 4		18 13	8 7	6 5		15 6	4 2	3 1		13 8	10 6	7 3		19 13	6 6	6 6	
	外国人学生		29 24	8 8	5 5		38 29	13 10	9 7		45 35	11 8	6 4		36 26	10 8	9 7		57 42	19 11	18 10	
進学		35 26	35 26	35 26		46 37	46 37	46 37		45 34	45 34	45 34		40 32	40 32	40 32		40 29	40 29	40 29		
文学部小計		602	4,625 3,135	1,459 1,079	678 504	602	4,946 3,318	1,508 1,086	733 557	625	4,795 3,031	1,514 1,089	735 527	625	5,609 3,695	1,574 1,101	631 456	625	4,620 3,026	1,482 1,045	683 503	
理学部	一般入試	物理学科	45	290 59	140 28	41 6	45	375 62	121 25	42 6	45	375 54	124 21	29 4	50	396 63	147 24	46 9	50	481 79	151 22	42 4
		化学科	45	366 134	118 47	44 18	45	552 208	124 52	36 11	45	526 185	152 58	52 20	50	463 154	129 54	36 17	50	514 195	141 61	42 13
		数学科	60	314 78	118 32	36 12	60	488 105	155 35	47 9	60	514 111	166 39	36 9	60	436 112	155 38	54 17	60	477 102	126 28	40 9
		生命科学科													50	527 213	128 66	25 14	50	480 231	113 60	18 6
	一般入試理学部計	150	970 271	376 107	121 36	150	1,415 375	400 112	125 26	150	1,415 350	442 118	117 33	210	1,822 542	559 182	161 57	210	1,952 607	531 171	142 32	
	外国・海外帰国		5 3	2 1	1 0		3 1	2 1	1 1		1 0	1 0	0 0		4 1	2 1	0 0		7 3	4 2	2 1	
	指定校推薦		38 21	36 21	36 21		33 7	32 7	32 7		42 15	36 12	36 12		64 24	57 23	57 23		64 28	49 25	49 25	
公募制推薦						1 0	1 0	1 0		12 2	9 1	8 0		22 6	13 5	13 5		49 16	14 6	14 6		
社会人		0 0	0 0	0 0		1 0	1 0	1 0		0 0	0 0	0 0		2 1	1 1	0 0		2 0	1 0	1 0		
進学		7 6	7 6	7 6		14 7	14 7	14 7		5 3	5 3	5 3		13 3	13 3	13 3		18 6	18 6	18 6		
理学部小計		150	1,020 301	421 135	165 63	150	1,467 390	450 127	174 41	150	1,475 370	493 134	166 48	210	1,927 577	645 215	244 88	210	2,092 660	617 210	226 70	
学部合計		1,732	13,265 6,073	3,677 1,966	1,874 1,030	1,732	15,007 6,633	3,950 2,018	1,956 1,056	1,755	15,584 6,354	4,247 2,102	1,904 1,013	1,815	16,791 7,227	4,536 2,208	1,952 1,000	1,815	15,140 6,310	4,357 2,121	1,956 1,006	

* ドイツ文学科・フランス文学科は、平成19年4月よりドイツ語圏文化学科・フランス語圏文化学科へ、英米文学科は、平成20年4月より英語英米文化学科へ、それぞれ名称変更。

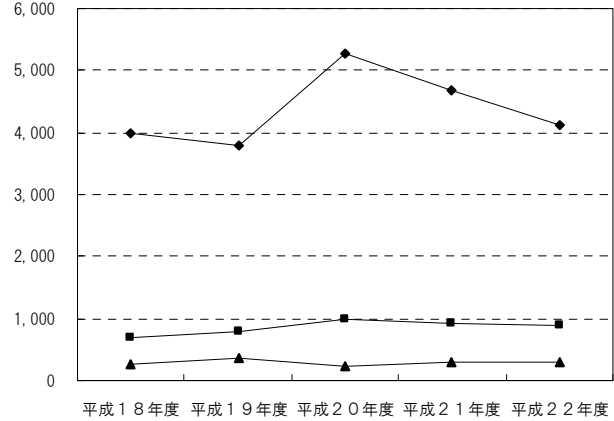
志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

◆ 志願者 ■ 合格者 ▲ 入学者

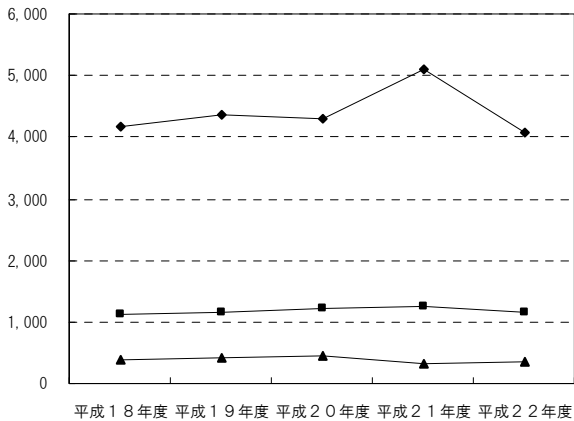
法学部



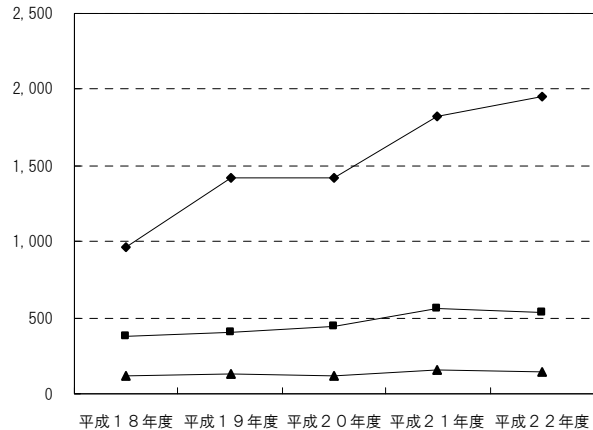
経済学部



文学部



理学部



●平成22年度入試についての動向解説

○学部

平成22年度一般入学試験の志願者総数は13,765名であり、前年度と比べると1,693名の減少。4年ぶりに志願者が減ったことになる。

文学部と経済学部の入試日程の変更があり、その影響もあってか、文学部が前年度から1,015名、経済学部は557名の減少となっている。法学部は251名減少、理学部は130名増加した。

また、本学では文部科学省からの要請で臨時入試が行われた。受験資格は、新型インフルエンザに感染して一般入試を受験できなかった人に与えられた。

ここ数年、学習院大学では、学科の名称変更や新学科の設置が続いている。平成19年度はドイツ語圏文化学科とフランス語圏文化学科の名称変更があった。翌年も英語英米文化学科の名称変更があり、平成21年度には生命科学科も設置されている。こうした新しい学習院大学を知っていただくため、オープンキャンパスを開催している。この3年間の平均来場者数は約8,000名を記録。昨夏は同日にスカイサウンズジャズオーケストラ部による演奏や四大学運動競技大会予選会なども行われ、本学学生の姿を来場者に伝える事ができた。加えて、主に高校の進路指導担当教員を対象に、本学の説明会も開催している。これには一昨年は174名、昨年は200名の参加があった。

平成22年度もオープンキャンパスが8月1日、2日と10月23日に開催された。オープンキャンパスは本学の魅力を来校者に伝える絶好の機会であり、こうした機会を捉えて、最終的には本学への入学志願者増加につながるような努力が期待される。

(2) 女子大学（大学院）

過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

■大学院

当該年度5月1日現在

学科等	年度	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
		定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者
国際文化交流研究科		10	17	10	9	10	11	7	6	10	16	12	11	10	14	10	10	10	22	17	13
大学院合計		10	17	10	9	10	11	7	6	10	16	12	11	10	14	10	10	10	22	17	13

■学部

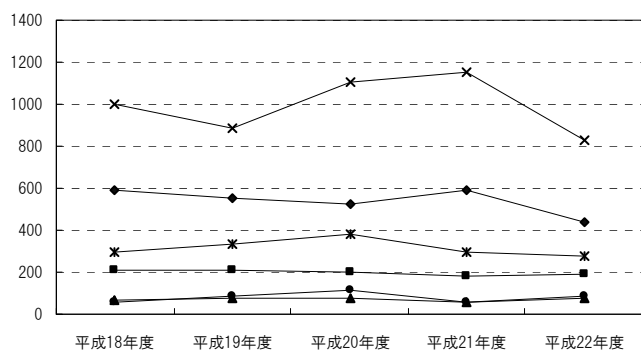
当該年度5月1日現在

学科等	年度	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
		定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者	定員	志願者	合格者	入学者
日本文化学科	一般入試A	60	588	211	69	60	557	206	74	60	523	200	80	60	591	181	58	60	438	189	75
	一般入試B	20	304	24	17	20	252	29	22	20	270	22	17	20	308	31	26	20	194	29	22
	外国人留学生	10	14	9	8	10	11	9	9	10	13	10	8	10	16	11	11	10	7	6	6
	海外帰国生徒	若干名	8	5	1	若干名	5	4	4	若干名	8	3	1	若干名	9	8	6	若干名	10	6	4
	社会人	若干名	0	0	0	若干名	3	1	1	若干名	1	0	0	若干名	2	2	2	若干名	3	1	1
	推薦入試A	40	57	0	57	40	65	65	65	40	48	48	48	40	49	49	49	40	56	56	56
	推薦入試B	10	17	12	12	10	22	10	10	10	18	12	12	10	25	13	12	10	22	13	13
	進学	若干名	3	3	3	若干名	0	0	0	若干名	1	1	1	若干名	5	5	5	若干名	2	2	2
日本文化学科小計		140	991	321	167	140	915	324	185	140	882	296	167	140	1005	300	169	140	732	302	179
国際コミュニケーション学科	一般入試A	70	1004	297	57	70	890	332	82	70	1104	381	116	70	1153	300	61	70	826	279	90
	一般入試B	30	601	60	31	30	537	58	40	30	504	39	26	30	430	63	53	30	537	54	36
	外国人留学生	10	16	11	11	10	14	9	9	10	21	13	10	10	21	14	13	10	17	12	11
	海外帰国生徒	若干名	17	7	3	若干名	20	8	4	若干名	17	7	5	若干名	23	7	3	若干名	14	5	2
	社会人	若干名	1	1	1	若干名	1	0	0	若干名	2	1	1	若干名	3	3	3	若干名	2	0	0
	推薦入試A	50	68	68	67	50	67	67	67	50	59	59	59	50	64	64	64	50	47	47	47
	推薦入試B	10	28	8	8	10	37	13	13	10	32	10	10	10	34	14	14	10	31	13	13
進学	若干名	2	2	2	若干名	1	1	1	若干名	1	1	1	若干名	0	0	0	若干名	4	4	4	
国際コミュニケーション学科小計		170	1737	454	180	170	1567	488	216	170	1740	511	228	170	1728	465	211	170	1478	414	203
英語コミュニケーション学科	一般入試A	15	144	39	12	20	263	99	28	20	293	94	24	20	212	94	37	20	172	76	32
	一般入試B	5	104	14	9	10	6	6	6	10	3	3	3	10	5	5	5	10	3	3	3
	推薦入試A	10	8	8	8	10	6	6	6	10	3	3	3	10	5	5	5	10	3	3	3
	AO	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
進学	若干名	0	0	0	若干名	2	2	2	若干名	0	0	0	若干名	2	2	2	若干名	0	0	0	
英語コミュニケーション学科小計		30	256	61	29	30	271	107	36	30	296	97	27	30	229	104	44	30	182	84	38
国際文化交流学部合計		340	2984	836	376	340	2753	919	437	340	2918	904	422	340	2962	869	424	340	2392	800	420

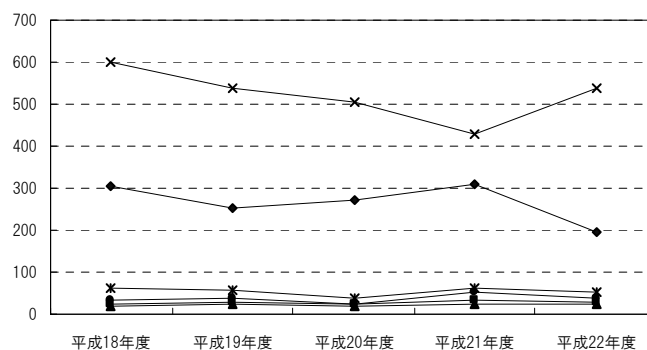
志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

◆ 日本文化学科 志願者 ■ 日本文化学科 合格者 ▲ 日本文化学科 入学者
 × 国際コミュニケーション学科 志願者 * 国際コミュニケーション学科 合格者 ● 国際コミュニケーション学科 入学者

一般入試A



一般入試B



●平成 22 年度入試についての動向解説

平成22年度入試における志願者数は、A方式で前年度比520人減の1436人、B方式では7人減の731人、合計は前年度比527人減の2176人となった。事実上前年度並みだったB方式はともかく、A方式の大幅減はこれまで「冬の時代」と言われる中で、本学は横ばいあるいは増加の実績を上げてきただけに、正直なところショックであった。オープンキャンパスにおいても過去最高だった前年度とほぼ同じ入場者数であり、また予備校からの情報でもこのような数字は報告されていなかっただけに、予想できなかった。

これには社会的な理由と個別の理由が混在しているものと考えられる。社会的な理由としては景気の低迷による併願数の絞り込みが挙げられよう。それは本学に限らず多くの大学で今年度見られた現象である。また他の女子大学でも、東京女子大学で本学とほぼ同じ割合の減少、全体では微増だった日本女子大学でも人文系は減少している。

しかしながらそうした社会的な理由以外に、本学固有の理由も考える必要がある。それは本学のポジションが変わってきたということが考えられる。というのは本学は開学以来、偏差値は上昇しつつあり、以前の55前後から前年度入試では57～58（A方式、代々木ゼミナール）にランクされた。これは東京女子大学、日本女子大学と同じ水準であり、これまで上位校を受験していた学生から見た場合、滑り止めにならなくなったと考えられたのではないか。だとすれば、それは本学の偏差値上昇という朗報が招いた皮肉な結果だということも言える。偏差値のやや低いB方式の受験者数が横ばいだったのも、その傍証になるかもしれない。ただそれは必ずしも楽観論を述べているわけではない。そのように位置付けられている中で、なぜ受験生の選択肢からはずれてしまったのかということである。その点を十分に考える必要がある。

(3) 高等科

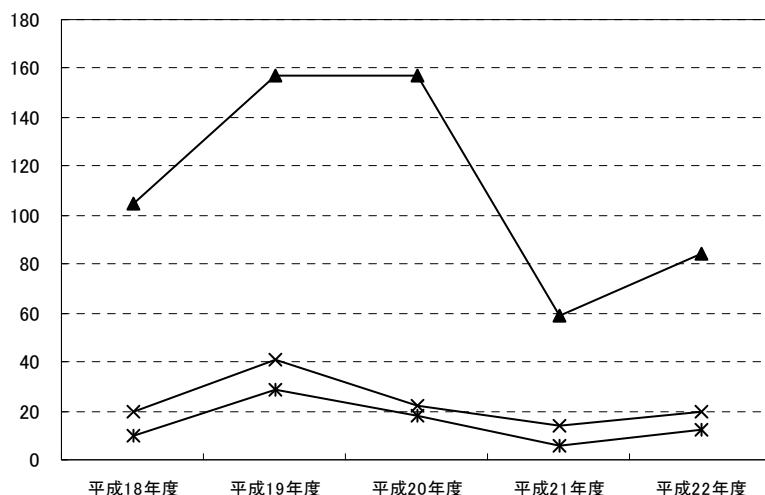
過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

当該年度5月1日現在

	定員	進学者	一般入試			
			募集人員	志願者	合格者	入学者
平成18年度	200	188	約10	105	20	10
平成19年度	200	174	約30	157	41	29
平成20年度	200	184	約20	157	22	18
平成21年度	200	197	約10	59	14	6
平成22年度	200	184	約10	84	20	12

志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

▲ 一般入試 志願者 × 一般入試 合格者 * 一般入試 入学者



■平成22年度入試についての動向解説

昨年度に引き続き、今年度も2月14日の1日のみで約10名募集という形態の入学試験を行った。

学内外の説明会では、昨年同様、「狭き門」という声を必ず聞く状況であった。とはいえ、入試制度が大きく変更されてから既に一度入試が実際に行われ、結果の数字も出ており、時間も経過していることで、説明会のブースに訪れる受験生・父母にはかなり浸透していたことも確かである。変更後最初の昨年度入試ではやはり敬遠され、志願者数が59名と少なかったことが今年にはプラスに働いたこともあるだろう。

出願は出足から非常に好調で、しかも最後まで順調に数が伸び、最終的に84名が出願した。また、受験者も56名で欠席率も決して高くなかった。

正規合格者16名、補欠合格者4名を発表し、受験者56名に対して実質倍率3倍という数字になった。入学手続き者は12名。そのうち3名が辞退した。補欠4名から結果として2名が繰り上げ合格となり、高等科入試による入学者は11名で確定した。

全体を通して、学習院高等科を志望する層が充分に存在することを確かに感じる事ができる入試であった。しかしながら入試形態は決して彼らにとって良い印象のものではなく、今後も高等科が持つ魅力・可能性を伝え、理解してもらおう努力を一層工夫しなければならない。

(5) 中等科

過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

当該年度5月1日現在

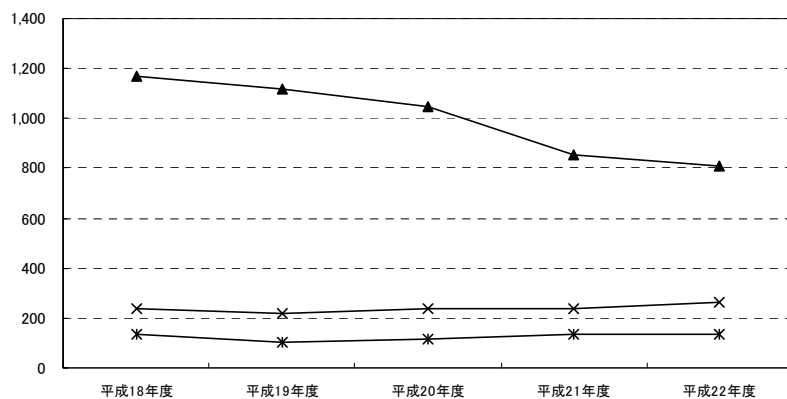
	定員	進学者	一般入試				海外帰国子弟入試			
			募集人員	志願者	合格者	入学者	募集人員	志願者	合格者	入学者
平成18年度	200	59	約125	1,168	240	135	約15	88	35	17
平成19年度	200	60	約125	1,119	221	100	約15	75	31	17
平成20年度	200	59	約125	1,044	236	116	約15	79	36	16
平成21年度	200	49	約125	855	236	133	約15	86	36	15
平成22年度	200	53	約125	809	261	138	約15	81	36	10

一般入試2回実施に伴う志願者数等内訳

			募集人員	志願者	合格者
平成22年度	一般入試	第1回	約65	384	159
		第2回	約60	425	102

志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

▲ 一般入試 志願者 × 一般入試 合格者 * 一般入試 入学者



■平成22年度入試についての動向解説

□一般入試

2月複数回入試は今年度で六回目である。また、2月2日の第一回入試の募集人数を約65名とし、2月3日の第二回入試の約60名を上回る数としてから五回目の入試となる。第一回入試の合格者の中からの入学者が70名、第二回入試の合格者の中からの入学者が補欠の2名を含めて同じく70名となり、この結果だけから見ると当初の意図通りの入学者を確保できたと言えよう。しかし、早稲田高等学院が中学入試に新たに参入した影響が大きいと考えられるが、併願校のパターンが変わり、特に第一回入試に関して、合格者数に対する実際の入学者数の割合(入学率)や手続き状況などに、昨年までの受験生とは異なった動向が見られた。昨年は第一回入試での入学者を多く確保するという方針で臨んだところ、入学率が52%とかつて例を見ない高い割合となり、結果90名の入学者を出すところとなった。こうした過去数年の入学率の上昇傾向を受け、本年度は合格者をやや絞り込んで159名(対昨年度-14名)とした。2月2日の夜に合格者を発表し、翌日の3日に手続きを受け付けたが、まず2日の合格証の受け取りの様子が昨年度とがらりと変わったため、手続き状況が悪化することが懸念された。3日の手続きであるが、その懸念のとおり、昨年75%であった手続き率が59%に落ち込んだ。(結果的には手続きした後の入学の割合が、過去最高の74.5%となり、実際の入学者数は上記のとおり70名が確保された。)昨年までとは流れが変わったという認識のもと、第二回入試の合格者は102名(昨年度63名)発表し、かつ補欠も41名と多めに発表し、第一回入試の歩留まりが最悪になるケースに備えた。この結果、第二回入試の実質倍率が2.5倍となり、数年前の半分まで落ち込んだ。結果偏差値もやはり2ポイント落ち込むところとなった。安全策とはいえ、補欠を多めに発表したことと、またその補欠の中から2名しか入学を許可しなかった点が反省事項である。

□帰国入試

例年どおり、12月4日に実施した。受験者は昨年よりやや減って81名であった。受験生の滞在国地域にはほとんど変化が見られないが、現地校(インターナショナル校を含む)と日本人学校との割合は昨年度までと比べて、少しの時期でも日本人学校に通った受験生の数が増えている。36名合格者を発表したものの、入学者が10名であったことから分かる通り、帰国での受験資格がある受験生が、12月の立教池袋中と学習院中等科を受験し、1月の帰国入試さらには2月の一般入試と受験する流れができてつつあり、本来は進学校を志望する児童も受験生の中に多く含まれている。本年度は2月20日の新生父母保証人会の日に5名が辞退を申し出るといった異常事態も発生した。補欠の繰り上げが長く続いたことも一因であろうが、モラルの面で期待を裏切られた感が否めない。

(5) 女子中等科

過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

当該年度5月1日現在

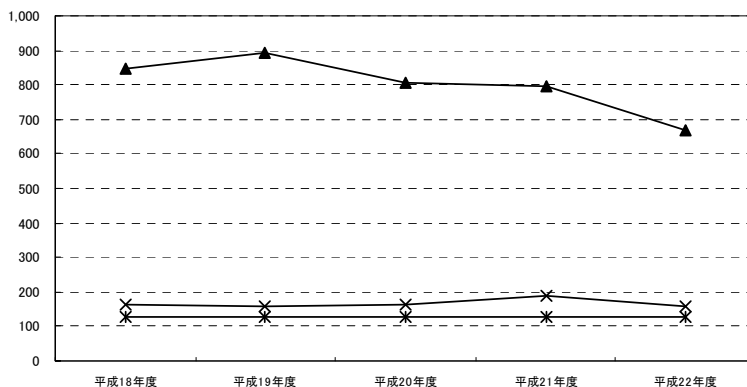
	定員	進学者	一般入試				海外帰国生入試			
			募集人員	志願者	合格者	入学者	募集人員	志願者	合格者	入学者
平成18年度	200	64	約125	847	165	130	約15	65	21	15
平成19年度	200	65	約125	895	160	128	約15	84	24	15
平成20年度	200	63	約125	808	161	130	約15	74	26	13
平成21年度	200	64	約125	798	189	126	約15	88	25	13
平成22年度	200	67	約125	667	160	130	約15	81	28	11

一般入試2回実施に伴う志願者数等内訳

		募集人員	志願者	合格者	入学者
平成22年度	一般入試				
	A入試	約90	269	105	87
	B入試	約35	398	55	43

志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

▲ 一般入試 志願者 × 一般入試 合格者 * 一般入試 入学者



■平成22年度入試についての動向解説

□一般入試について

中学受験の準備は小学校4年生頃から始まり、1年間に塾等にかかる費用は私立中学の年間授業料に匹敵するといわれている。その費用及び私立中学の授業料を捻出できる家庭の割合は、景気が低迷する中、減少している。また、併願校を絞り込む動きとも相まって上位校は受験者数を減らした。

一方、今年度7校から11校に増加した公立一貫校の受験者は1万人強となった。つまり、中高一貫教育自体に対する保護者の期待は大きいということである。また、2月1日に入学試験を実施しない上位校や大学付属校も概ね受験者が増加している。工夫の余地はあるということである。

本校の複数回受験(A入試・B入試)の場合、第1志望のA入試、難関校の滑り止めとチャレンジ組のB入試という大まかな構図は変わっていない。が、A入試またはA・B入試の志願者数は、昨年度と比べると約20%、複数回入試を開始して最も多かった2007年度と比べると約25%の減少である。いわゆる偏差値は、受験生が模擬試験の結果や塾の指導により出願するため、ほぼ維持されてはいるが、志願者減が連続している現状を憂慮している。

保護者や受験生が私立中学を見る目は厳しさを増している。本校のしっかりとした教育内容を広くアナウンスしていくとともに、6年間の授業展開、生活面、入試の在り方、進路について検証していく必要がある。

□帰国生入試について

従来の「2種類の作文」から「英語」も試験科目に加え、「日本語による作文」または「英語」の選択として2年目の試験である。「英語」の選択者の比率は、志願者、受験者、合格者においてそれぞれ、約50%、40%、30%である。入学者では、この比率が45%となるが、これは「英語」選択者の歩留まりがよいというよりは、「作文」選択者が2月1日以降の一般入試で他校に合格し本校への入学を辞退したためである。募集数15名に対し入学者は11名であった。辞退者の入学校は慶應系を除くと大学受験校がほとんどである。英語試験の導入の効果や合格者選抜方法について検討をしつつ、入試や帰国生の受け入れ方まで、抜本的に検討すべきときにきている。

(6) 初等科

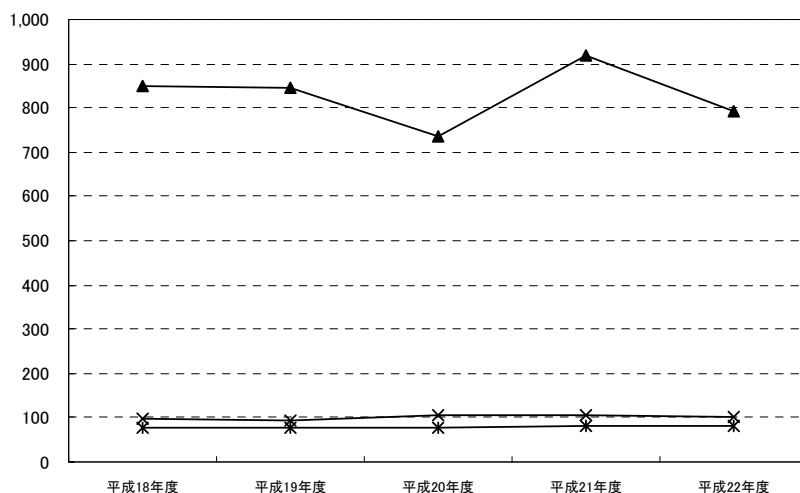
過去5カ年の志願者、合格者、入学者数の推移

下段の数字は女子内数
当該年度5月1日現在

	定員	進学者	一般入試			
			募集人員	志願者	合格者	入学者
平成18年度	132	49	80	849	97	79
	66	25	40	437	45	40
平成19年度	132	51	80	847	93	78
	66	26	40	454	48	40
平成20年度	132	51	80	736	105	79
	66	26	40	366	50	39
平成21年度	132	51	80	918	106	80
	66	26	40	491	55	40
平成22年度	132	51	80	792	100	80
	66	25	40	435	50	40

志願者、合格者、入学者数の推移（一般入試）

▲ 一般入試 志願者 × 一般入試 合格者 * 一般入試 入学者



■平成22年度入試についての動向解説

- 志願者数、受験者数ともに、一昨年度（平成20年度／736名、580名）に比べて昨年度（平成21年度／918名、491名）は大幅な増加が見られたが、今年度（平成22年度／792名、619名）は減少した。学習院初等科の教育方針や児童の日常生活を紹介する学校説明会<5/23(土)>申込者数1558人、出席者数1263人。学習院初等科の入学試験に関することを中心に教育方針等を述べる入試説明会<9/12(土)>出席者数1157人
- 約10年位前までの傾向として、兄弟姉妹が合格した場合は、兄弟の通学校が異なっても所謂有名校に通学していたと思う。ところが近年は、有名校(学習院初等科を含む)に合格しても、兄弟姉妹で通える学校や、通学時間が短い学校を望む傾向が少しずつ増加してきている。
- 学校説明会や入試説明会に出席する父母層の多くは、初等科受験を念頭においているが、東京フォーラム<8/22(土)-23(日)>で実施される私立学校進学相談会(初・中・高)で受ける質問内容には、次のようなものがあつた。
「我家は学習院とは全く縁もゆかりもありません。受験してもいいのでしょうか。」
「(初等科HPのコピーを手にして)このページのことを詳しく説明してください。初等科はなぜ国語教育を重視しているのですか。」
「(両親が離婚)私どものような者でも受験できますか。」
「行事等に出席しなければならない日数はどれぐらいでしょうか。」

受験する父母層の意識変化と受験児童の変容が、志願者数や受験者数に現れている。

(7) 幼稚園

過去5カ年の志願者、合格者、入園者数の推移

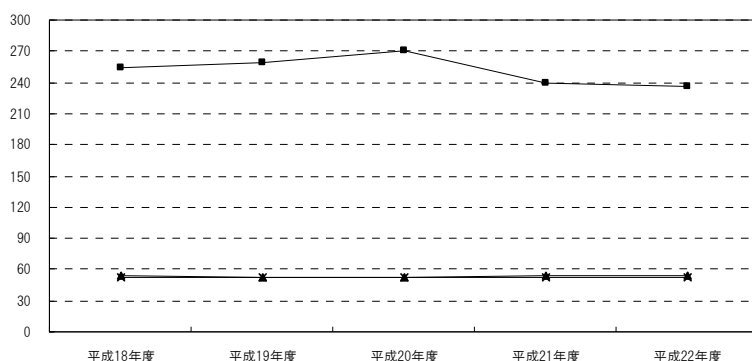
当該年度5月1日現在

	定員	一般入試		
		志願者	合格者	入園者
平成18年度	52	254 156	54 27	52 26
平成19年度	52	259 154	52 26	52 26
平成20年度	52	271 171	52 26	52 26
平成21年度	52	240 153	54 26	52 26
平成22年度	52	236 131	54 27	52 26

下段の数字は女子内数

志願者、合格者、入園者数の推移（一般入試）

■ 一般入試 志願者 ▲ 一般入試 合格者 ✕ 一般入試 入園者



■平成22年度入試についての動向解説

出生率が低水位で続く中、昨今の経済状況の悪化、保育者の生活スタイルの変化により、保育園志向、認定こども園（幼稚園と保育所との枠組みを越えた制度）の普及促進が次第に進んでいるという現状がある。学習院幼稚園は、今年度志願者がやや減少はしたものの、都内の私立幼稚園の中では志願者が多く高倍率と言える。しかし、今後更なる少子化の進行、子育てと仕事の両立を目指す女性の増加等、社会状況の変化に多少なりとも影響を受けるのではないかとされる。倍率としては、飛躍的に高くなることはあまり望めないが、幼稚園としてはある程度の倍率（3～5倍）が保たれるのが望ましいと考える。単なる志願者の増加よりも、真に学習院幼稚園の教育を望む志願者の中から、選考したいと考える。

22年度の志願者は236名（男子105名、女子131名）で昨年度より4名（男子+18名、女子-22名）減少した。全体としては、ほぼ昨年度並みと言えるが、数年前（260名前後）に比べると減少傾向にある。女子の志願者の方が、男子より多いのは例年通りであるが、男子が18名増加し、女子が22名減少し、男女差が縮まったことは、今年度の傾向と言える。男子が増え男女差が縮まることは歓迎すべきことではあるが、女子がかなり減少したことの原因は何か、今後の動向も参考にしながら、検討したい。

志願者父母の傾向としては、学習院出身者や兄弟姉妹が在籍している学習院ファミリーの志願者が多く、加えて、学習院の校風に惹かれ幼少期からその教育を希望する層、さらに、学習院にこだわらないが良い教育をしている一貫学校ならば入園させたいと考える層がある。親が学習院幼稚園卒業生の場合、自分と同じ幼稚園時代を過ごさせたい、という希望が年々多くなってきている。

志願者の男女差は縮まってきたが、志望動機、熱意に関しては、かなり差があると思われる。女子の場合、幼稚園から学習院の一貫教育を希望する傾向が強く、学習院幼稚園入園への熱意が高いが、男子の場合、「進学校」志向が強まってきていて、いくつかの選択肢のひとつとして受験している者が含まれていると思われる。どの志願者も二年間の幼稚園の教育のみを基準として出願しているのではなく、一貫校としての学習院の教育を見据えて志願していると言える。

3. 学校生活(奨学金・資格取得・課外活動・カウンセリング・保健室)

(1) 大学 (大学院・専門職大学院)

■奨学金

①学習院独自の奨学金の貸与・給付状況

名 称	資 格	貸与・給付金額	貸・給別	期間	採用者数			
					法 科 大学院	大学院	大学	合計
学習院大学学費 支援給付奨学金	学業成績・人物優秀で家 計困窮度の高い人	在学学部学科の 第2期分授業料 相当額	給 付	1 ヵ年	—	—	55	55
学習院大学奨学金	品行方正、学業優秀、か つ身体健全で学費支弁が 困難と認められる者	授業料相当額以内	貸 与 無利子	1 ヵ年	24	10	93	127
安倍能成記念 教育基金奨学金	学業成績・人物ともに優秀 である者、院生にあっては さらに研究者たり得る資質 ありと認められる者	45万円	給 付	1 ヵ年	0	14	5	19
学習院大学学業優秀 者給付奨学金	優秀な学生	大学院 30万円 学 部 15万円	給 付	1 ヵ年	0	37	177	214
関育英資金 奨学金	自然科学研究科学生の中 で、電気ならびに原子力 を研究している者	月 額 3万円	給 付	1 ヵ年	—	1	—	1
学習院末松 奨学基金奨学金	人文科学研究科 史学専攻の大学院生	10万円	給 付	1 ヵ年	—	1	—	1
学習院大学教育ロー ン金利助成奨学金	指定金融機関で教育ロー ンを受けていること	5万円以内	給 付	1 ヵ年	1	1	21	23

注：学習院大学奨学金には緊急貸与数が含まれる。

②学習院独自の国際交流に関する奨学金・奨励金・授業料減免等

名 称	資 格	支給額	人数	総額
学習院大学 外国人留学生奨学金	経済上の理由により学費の負担が困難と認め られる者	年額240,000円	125	30,000,000円
学習院大学 外国人留学生奨励金	奨学金を認められた者の中で、特に学業、 人物ともに優秀であると認められる者	年額20万円	20	4,000,000円
外国人学生の 授業料減免	出入国管理及び難民認定法第2条の2第2項 別表第一の四に該当する者 (国費外国人留学生、外国政府派遣留学生、 及び協定留学生を除く)	授業料の 30%減免	127	25,009,200円
	博士後期課程3年次に修了単位を取得し、博 士論文執筆及び審査のため引き続き大学院に 在籍する者で、修了単位取得後3年以内の者	授業料の 100%減免	2	960,000円
学習院大学 協定留学生奨学金	協定留学生で、学業成績・人格共に優秀で、 経済的援助が必要な者	50万円以内	10*	1,255,000円
学習院大学 協定留学生宿舍費補助	協定留学生で、本人自らが賃借人となって 入居契約を締結している者	月額5万円 (宿舍費5万円 以下は全額)	8*	1,930,000円
学習院大学協定留学生 (受入)学費免除	協定留学生で願い出により減免が認められた 者	授業料その他 納付金相当額	32*	21,001,200円
学習院大学 海外留学奨学金	正規の課程に在籍する者で、海外の大学、大 学院等に留学が決定している者	50万円以内	17	8,500,000円
学習院大学 海外留学奨励金	「学習院大学海外留学奨学金」支給対象者の うち、特に優秀な学生	10万円以内	10	1,000,000円
学習院大学海外留学 (派遣)に伴う学費減免	教授会において「留学願」が承認され、 留学の許可を受けた者	授業料その他納付金 相当額の半額	52*	15,632,400円
学習院大学 海外短期語学研修奨学金	夏季休業を利用して、海外の大学附属または それに準じる語学学校で、少なくとも3週間 以上の語学研修に参加した者	10万円以内	89	8,850,000円

学習院大学海外ボランティア活動奨励金	夏季休業を利用して、海外においてNGO、NPO等の団体でボランティア活動を行った者	10万円以内	10	950,000円
大学院学生国外研究発表援助	全研究科の博士前期・後期課程在籍の大学院学生で、国外における研究集会で発表を行う者	10万円以内	38	3,723,150円

*前年度から受入れまたは派遣している者を含む。

③学習院外の奨学金の応募状況・採用状況

日本学生支援機構

名 称		資 格	貸与・給付金額	貸・給別	平成22年度新規		継続者数	奨学生 合 計
					応募者数	採用者数		
日本学生支援機構奨学金 (第一種)	法 科 大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、著しく学資支弁の困難な者	50,000円 88,000円	貸与 無利子	13	13	16	29
日本学生支援機構奨学金 (第二種)	法 科 大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資支弁の困難な者	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円の5種類から選択。15万円の貸与月額を選択した者に限り希望により4万円・7万円の増額貸与を受けられる。	貸与 有利子	13	13	11	24
日本学生支援機構奨学金 (第一種)	大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、著しく学資支弁の困難な者	博士前期 50,000円 88,000円 博士後期 80,000円 122,000円	貸与 無利子	82	58	66	124
日本学生支援機構奨学金 (第二種)	大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資支弁の困難な者	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円の5種類から選択	貸与 有利子	14	14	6	20
日本学生支援機構奨学金 (第一種)	学 部	学業優秀で、著しく学資支弁の困難な者	共 通 30,000円 自 宅 54,000円 自宅外 64,000円	貸与 無利子	214	173	437	610
日本学生支援機構奨学金 (第二種)	学 部	学業が平均以上で、学資支弁の困難な者	3万円・5万円・8万円・10万円・12万円の5種類から選択	貸与 有利子	281	281	608	889

注1. 応募者は、希望順位に関係なく、予約・定期・追加・緊急・応急のすべてを併せた総数である。

2. 採用者は、予約・定期・追加・緊急・応急のすべてを併せた総数である。

名 称	貸・給別	新規採用者数			採用のあった地方公共団体、民間団体
		大学院	大学	合計	
地方公共団体奨学金	貸与 無利子	—	3	3	茨城県、大田区
民間奨学金	給付	2	7	9	安藤記念奨学財団、春秋育英会、松尾金蔵記念奨学基金、三菱UFJ信託奨学財団、日揮・実吉奨学会、守谷育英会、株木育英会
民間奨学金	貸与	0	0	0	—

④学外の国際交流に関する奨励費・奨学金等

団体等	貸・給別	新規採用者数			支給額／採用のあった民間団体
		大学院	大学	合計	
日本学生支援機構 私費外国人留学生等 学習奨励費	給付	3	22	25	大学院 月額65,000円 学部 月額48,000円
民間団体	給付	4	1	5	エプソン国際奨学財団、平和中島財団、ロータリー米山記念奨学会、守谷育英会

名称	資格	支給額	人数	総額
日本学生支援機構 留学生交流支援制度 (短期受入れ)	協定等に基づき本学が受入れを許可する者で、学業成績・人格共に優秀で、自費のみでの留学が困難な者	奨学金月額8万円、 渡日一時金8万円	5	2,640,000円
日本学生支援機構 21世紀東アジア青少年大 交流計画奨学金(韓国)	韓国籍を有し、協定等に基づき本学が受入れを許可する者で、学業成績・人格共に優秀で、自費のみでの留学が困難な者	奨学金月額8万円、 渡日一時金15万円	2*	1,110,000円
日本学生支援機構 留学生交流支援制度 (派遣)	協定等に基づき派遣先大学が受入れを許可する者で、学業成績・人格共に優秀で、自費のみでの留学が困難な者	奨学金月額8万円	13*	4,480,000円

*前年度から受入れまたは派遣している者を含む

■資格取得

資格	学校	専門職大学院	大学院	大学
学芸員		0	4	117
司書		0	1	47
司法試験		19*	0	
国家I種試験		0	0	2

*新司法試験制度による合格者である

教育職員免許状	種類	教科	外国語			社会	地理 歴史	公民	数学	理科	書道	職業 指導	情報	合計
			国語	英語	独語									
	中学校教諭1種		28	22	2	2	29		16	14		2		115
	高等学校教諭1種		31	23	2	2		23	17	15	9	2	1	141
	中学校教諭専修		5	4	0	0	4		1	5				19
	高等学校教諭専修		5	4	0	0		3	1	5				19

■課外活動

①クラブ活動加入率

	公認団体数	部員総数	加入率	備考
文化系部会	73	3,157	39.1%	文化部29、文化系同好会44
運動系部会	48	1,586	19.7%	運動部40、同好会5、愛好会3
独立五団体	5	265	3.3%	学生相談所、学生放送局、大学新聞社、輔仁会雑誌編集委員会、応援団
合計	126	5,008	62.1%	

注：上記団体については、「学内団体届」（毎年度始めに学生課へ提出）に記載された部員数を合計したものであり、新入学生及び4年生の取り扱いが各団体によって異なること、また、団体によっては年度途中の入退部が多いことから正確なものではなく、およその数字である。このほか、大学が公認していない任意団体が相当数存在すると思われるが、大学に対する届出の義務はなく、団体数および構成員数ともに把握できていない。

加入率は、平成22年5月1日現在の学部在籍者数（8,066名）を基に算出している。また、兼部している学生は、それぞれの部で計上している。

②クラブ活動内容・結果等

〈課外活動団体の合同行事〉

名 称	日 程	内 容・結 果	備 考
新入生歓迎行事	4月3日、 5日～9日	新入学生の部会勧誘活動	
第55回学習院大学対甲南大学 運動競技総合定期戦	4月24日～12月11日	9勝21敗3分（正式種目）	当番校：学習院大学
目白音楽祭	5月8日～5月28日	昼休みの演奏（8団体参加）	会場：輔仁会館前（仮設 舞台設置）及び富士見会 館ホール
運動部フレッシュマンキャンプ	6月19日～6月20日	新入部員：378名 運動部常任委員：16名参加	開催地：河口湖
第61回四大戦予選会（学内競技大 会：運動部会所属学生以外の一般 学生を対象とした学内運動競技大 会）	8月1日～8月3日	サッカー・ソフトボール・軟式 野球・硬式庭球・ソフトテニ ス・バドミントン・バレーボ ール・バスケットボール・卓球・ フットサル	他に以下の大会を開催 学内ボート大会：11月 学内駅伝大会：12月
第61回四大学運動競技大会	10月15日～10月17日	総合優勝：学習院大学 正式種目：1位 一般種目：1位 教職員種目：1位	当番校：学習院大学
第41回大学祭	10月28日～10月31日	講演会：小泉 進次郎氏、 高島 良宏氏ほか トークショー：鈴木おさむ コンサート：青山 テルマ 前夜祭（御輿行列）、後夜祭 （G-e-s）：台風のため中止	キャッチフレーズ 「祭なう。」
運動部リーダースキャンプ	2月11日～2月12日	各部会主将主務：106名 運動部常任委員：30名参加	開催地：河口湖

③表彰

〈学生・生徒等表彰〉 表彰者 院長、学長

賞	受賞団体名・受賞者氏名	理 由
院長表彰 （文化活動賞）	小澤 望 （理学部物理学科2年・将棋部）	平成22年12月に開催された第31回全日本学生将棋女流名人戦（全国大会）に出場し、第4位の成績をおさめたため。
院長表彰 （特別賞）	応援団	運動競技の応援活動、学外地域での社会貢献活動、構内清掃等の奉仕活動等、学生等の模範となる行為に対し表彰。
学長表彰	杉石 露佳 （自然科学研究科化学専攻博士後期課程2年）	平成22年7月に、台湾・台北で開催された、第24回「有機金属化学国際会議」に参加し、ポスター賞を受賞したため。380件の発表の中から10数件の発表に対しポスター賞が贈られ、杉石さんのポスター発表「Cu(I)-Catalyzed Substitution Reactions of Propargylic Amines」がそのうちの1件に選ばれた。
学長表彰	遠山 知亜紀 （自然科学研究科化学専攻博士後期課程2年）	平成22年秋に開催された2つの学会で口頭発表を行い、2つの賞を受賞したため。 平成22年9月に大阪で開催された「2010年度日本放射化学会年会・第54回放射化学討論会で口頭発表「AMSを用いた東京・秋田における大気降下物中 ¹²⁹ I/ ¹²⁷ Iの経年変化」を行い、「若手優秀発表賞」を受賞した（150件の発表の中から若手より4人が受賞）。続いて同年11月に別府で開催された「2010年質量分析学会・同位体比部会」で口頭発表「AMSを用いた大気降下物中 ¹²⁹ I/ ¹²⁷ Iの経年変化」を行い、「口頭発表賞」を受賞した（80件の発表のうち一般の部1人・学生の部1人が受賞）。

(2) 女子大学

■奨学金

①学習院独自の奨学金の貸与・給付状況

名 称	資 格	貸与・ 給付金額	貸・ 給別	期間	採用者数		
					大学	大学院	合計
学習院女子大学・大学院 奨学金	勉学に意欲があり、最短修業年 限で卒業・修了が見込まれ、学 費の支弁が困難な者	学費納付金相 当額で在学中 500万円以内	貸与	1ヵ年	29	3	32
学習院女子大学 学費支援給付奨学金	最短修業年限で卒業が見込ま れ、家計・成績基準を満たす学 費支弁困難な学部学生	第2期分 授業料相当額	給付	1ヵ年	7	—	7
安倍能成記念教育基金 女子大学・大学院奨学金	学業成績・人物共に優秀な学生	45万円	給付	1ヵ年	4	1	5
学習院女子大学・大学院 学業優秀者給付奨学金	学業成績・人物共に優秀な学生	学部15万円 院 30万円	給付	1ヵ年	15	2	17
学習院女子大学教育ロー ン金利助成奨学金	本学が指定した金融機関より教 育ローンを借用した者	支払い金利の 一部を給付	給付	1ヵ年	3	0	3

②学習院独自の国際交流に関する奨学金・奨励金等

名 称	資 格	支給額	平成22年度	
			人数	支給総額
学習院女子大学 外国人留学生奨学金	勉学の意欲を持ち、かつ、学費の支弁に援助 が必要であると認められた者 1. 正規生（私費留学生）であること 2. 出入国管理及び難民認定法第2条の2第 2項別表第1の4に該当する者 3. 国費外国人留学生以外の者	年額20万円 （当該年度春学期第 8セメスター学生は 半額）	69	13,800,000円
学習院女子大学 外国人留学生奨励金	勉学の意欲を持ち、かつ、学費の支弁に援助 が必要であると認められ、学業・人物ともに 優秀である者 1. 正規生（私費留学生）であること 2. 出入国管理及び難民認定法第2条の2第 2項別表第1の4に該当する者 3. 国費外国人留学生以外の者 4. 前年度の成績優秀者に支給し、さらに当 該年度の（独）日本学生支援機構学習奨 励費受給者を除く （新入生については、最初の学期の成績 を以って選考する）	年額30万円 （当該年度春学期第 8セメスター学生は 半額）	26	7,800,000円
外国人学生の 授業料減免	出入国管理及び難民認定法第2条の2第2項 別表第1の4に該当する者 （国費外国人留学生、外国政府派遣留学生及 び協定留学生を除く）	授業料の30%減免	70	17,370,000円
学習院女子大学 協定留学生奨学金	本学に在学する協定留学生で、学業成績・人 物ともに優秀である協定留学生	年額50万円以内	5	2,000,000円
学習院女子大学 協定留学生宿舍費補助	本学が外国の大学との交流協定に基づいて受 入れる協定留学生であり、本学または本学以 外の機関から月額10万円を超える奨学金を受 けていない者	月額5万円 （宿舍費5万円以下 は宿舍費全額）	21	4,364,000円
学習院女子大学協定留學 生（受入）学費免除	願い出により減免が認められた協定留学生	授業料その他納付金 相当額	24*	19,200,000円
学習院女子大学 海外留学奨学金	正規の課程に在籍する学生で、海外の 大学等に留学が決定している者	年額50万円以内	11	3,000,000円

学習院女子大学生 国外留学に伴う納付金減免	教授会において「留学願」が承認され、留学の許可を受けた者	授業料その他納付金相当額の半額	56**	15,089,000円
学習院女子大学 外国人特別推薦留学生に対する奨励金	外国人特別推薦留学生入学試験により入学を許可された者	当該年度の納付金相当額	0	0円

* 前年度から受入れまたは派遣している者を含む。

** 前年度から受入れまたは派遣している者及び英語コミュニケーション学科のカナダ留学を含む。

③学習院外の奨学金の応募状況・採用状況

名 称	資 格	貸与・給付金額	貸・給別	平成22年度新規			継続者	貸与・給付者合計	
				応募者	採用者	予約者			
学習院父母会奨学金	大学	授業料・維持費相当額 上限100万円	給付	1	1	0	0	1	
日本学生支援機構奨学金 (第1種)	大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、著しく学資支弁の困難な者	修士前期課程 88,000円	無利子貸与	0	0	0	0	0
	大学		3万円 自 宅54,000円 自宅外64,000円	無利子貸与	30	21	9	112	142
日本学生支援機構奨学金 (第2種)	大学院	人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資支弁の困難な者	5・8・10・13・15万円の5種類から選択	有利子貸与	1	1	0	1	2
	大学		3・5・8・10・12万円の5種類から選択	有利子貸与	31	24	31	152	207
交通遺児育英会奨学金	大学	保護者等が交通事故で死亡、後遺障害により、働けず学費支弁の困難な者	4万円・5万円・6万円の3種類から選択	無利子貸与	0	0	0	0	0
大田区奨学金	大学	保護者が大田区内に居住し、優秀な学力を有した学生で経済的理由により修学が困難な者	月額 44,000円以内	無利子貸与	1	1	0	1	1
福島県奨学金	大学	福島県出身の学生で、能力があるにもかかわらず経済的理由により修学困難な者	月額 40,000円	無利子貸与	0	0	0	1	1
茨城県奨学金	大学	茨城県出身の学生で、能力があるにもかかわらず経済的理由により修学困難な者	月額 自宅36,000円 自宅外40,000円	無利子貸与	1	1	0	0	1
財)守谷育英会	大学院	東京都内の大学・大学院に在学または東京都内に居住し、学業・人物とも優秀であって学資の支弁が困難な者	月額 70,000円	給付	0	0	—	0	0
	大学		月額 50,000円	給付	1	0	—	0	0

④学習院外の国際交流に関する奨学金・奨励金等

名 称	資 格	支給額	人数
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費	正規生として在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ、かつ経済的理由により修学が困難である者に対して支給する	大学院 月額6.5万円 学部 月額4.8万円	大学院 6ヶ月—1名 学部 12ヶ月—8名

日本学生支援機構 短期留学推進制度（受入れ）	協定等に基づき本学が受入れを許可する者 で、学業成績・人物共に優秀で、自費のみ での留学が困難な者	月額8万円 渡日一時金 15万円	12ヶ月－1名 3ヶ月－1名
日本学生支援機構 短期留学推進制度（派遣）	協定等に基づき派遣先大学が受入れを許可 する者で、学業成績・人物共に優秀で、自 費のみでの留学が困難な者	月額8万円	12ヶ月－1名 3ヶ月－1名
日本学生支援機構 21世紀東アジア青少年 大交流計画奨学金（韓国）	協定等に基づき本学が受入れを許可する者 で、学業成績・人物ともに優秀で、自費の みでの留学が困難な者	月額8万円 渡日一時金 15万円	0名

団体等	貸・給別	採用者数			団体名
		大学院	大学	合計	
民間団体	給付	0	2	2	平和中島財団
民間団体	給付	0	1	1	ロータリー米山
民間団体	貸与	0	1	1	福太郎財団
民間団体	貸与	0	1	1	高村育英会

■資格取得

資格	学校	
	大学院	学部
司書	0	24
学芸員	2	21

教育職員免許状	教科		国語	英語	合計
	種類				
	中学校教諭Ⅰ種		7	4	11
	高等学校教諭Ⅰ種		7	5	12
	合計		14	9	23

■課外活動

①クラブ活動加入状況

	公認団体数	部員総数	加入率	備考
部	31	659	37.2%	運動系団体9、文化系団体22
同好会	6	35	2.0%	運動系団体4、文化系団体2
愛好会	8	49	2.8%	運動系団体3、文化系団体5
合計	45	743	42.0%	運動系団体16、文化系団体29

注：①部員総数は、各団体より平成22年度に提出された「団体活動届」による。年度途中に入退部する学生や兼部している学生がいることから、概数となる。

②加入率は、平成22年5月1日現在の在籍者数（1,770名）を基に算出し、小数点以下第2位を四捨五入した。

②主な活動成果

クラブ名	大会名称	大会成績
ジャズダンス部 AQUA	オールジャパン学生ダンス選手権	決勝進出
ラクロス部	四大戦	優勝
チャリダー部	2010全日本選手権大会 JAPAN CUP フライデートーナメント 2010全日本学生チャリディング選手権大会	1位通過 準決勝進出 総合14位 Division1 決勝進出13位 Division2 決勝進出14位
吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール（一般の部）	796点 銀賞
競技ダンス部	東京六大学新人戦 中洋戦 東部日本学生競技ダンス選手権大会FM予選会 明法立競技ダンス選手権大会	団体4位 団体1位 団体3位 団体優勝 ジュニアチャチャチャ優勝 シニアラテンの部優勝
バドミントン部	UBF団体戦	決勝大会進出

(3) 高等科

■奨学金等

採用状況 (院内・学外の奨学金)

①学習院独自の奨学金

名 称	資 格	支給額	貸与・ 給付別	22年度 採用数
学習院各科学費支援 給付奨学金	学費支弁困難で、緊急止むを得ない場合に給付 (第1期、第2期と半期ごとに選考を実施)。	学費納付金 相当額	給付	第1期2名 第2期2名

②学習院独自の国際交流に関する奨学金

名 称	資 格	支給額	貸与・ 給付別	採用 定員	22年度 採用数
学習院高等科協定海外 留学生に対する奨学金	生徒交換に関する協定に基づき、海外に留学する 生徒に対して、その勉学を奨励する。	30万円	給付	2名	2名

③学習院関係団体の奨学金

名 称	資 格	支給額	貸与・ 給付別	22年度 採用数
学習院父母会奨学金	学費負担者である父母保証人の死亡等に起因し、 家計が激変したことにより学資支弁が困難と認め られる勉学熱心な者。大学から幼稚園計15名。	授業料・維持費 相当額	給付	1名

※平成22年度中に平成23年度学費納付金相当額を給付した人数を計上

④ その他

名 称	資 格	支給額	貸与・ 給付別	22年度 採用数
日本学生支援機構	平成23年度大学等第二種奨学生採用候補者 機構による学力・収入の申込基準あり。	月 3万～12万円	貸与	3名
埼玉県高等学校等奨学金	保護者が埼玉県内に在住し、経済的な理由によ り修学困難な者。	月 4万円以内	貸与	1名

■学費減免状況

名 称	資 格	軽減額	22年度 対象者数
東京都私立高等学校等授業料軽減助成	都内在住、その他財団の基準 による。	年 99,400円～179,000円	39名

■課外活動

昨年度の3年生の運動部加入率は特徴的に高かったが、今年は例年の水準となっている。学年進行とともに加入率が下がって行く傾向も変わりがない。勉学・学校行事や課外活動の根底にある学校生活への基本的なモチベーションは変わらないが、活動と勉強の両立に各生徒とも努力しつつ、やむなく現実的な選択もしていると考えられる。文化部の活動は引き続き盛んになってきており、文化祭の発表や様々なコンクール・発表会に積極的に参加し、成果が徐々に顕著になっている。今後も幅広い活動が期待される。

①クラブ加入率

	1年生	2年生	3年生
運動部	73%	69%	56%
文化部	29%	21%	27%

②主な活動成果

クラブ名	大会名称	大会成績
アーチェリー部	関東選抜大会	2名出場うち1名3位
アーチェリー部	全国選抜大会	出場決定（震災のため大会中止）
卓球部	東京都新人大会	ダブルスベスト16, シングルスベスト64
馬術部	第65回国民体育大会	障害飛越競技出場
ホッケー部	関東大会	出場
ホッケー部	東京都大会	優勝
陸上部	関東大会	100m2名, 400mH1名出場
陸上部	東京都大会	100m 第5位・第6位, 400mH 第2位
陸上部	関東新人大会	100m, 4×100m, 団体の部出場
陸上部	東京都新人大会	100m 第2位, 4×100m 第2位
陸上部	東京私学大会	100m 第5位, 200m 第4位, 400mH 第2位
吹奏楽部	東京都吹奏楽コンクール	金賞
美術部	全日本学生美術展	佳作1点、入選5点
鉄道研究会	全国高校鉄道模型コンクール	第3位

③その他

運動部については、今年度は国民体育大会への出場や全国選抜大会への出場決定があり、上記のとおり個々の結果にレベルの向上が見られる。これらの中には2年生も含まれており、来年度のさらなる活躍が期待される。文化部においても各種コンクールにおいて上位に入賞することができた。例年以上に目を見張る活躍があったことは喜ばしい限りである。その陰には日常の地道な活動があり、生徒の全体的な雰囲気によって支えられているが、部員数については個々の部において変動があり、活躍している部がある一方活動に工夫の必要な部もあり、こもごもな状況が見られている。部員の主体性を育て、自ら活動内容を考える姿勢を如何に形成していくか、すべての指導者が工夫を凝らしているが、個々の部のみならず学校全体の雰囲気としてより骨太なものを築いていくという観点も必要であろう。

施設面においては、第一体育館の耐震補強工事が完了し安全性が向上した。これにより3月に発生した大震災では施設に問題は起こらなかったが、登校禁止の期間があったため、やむなく生徒の活動が一部制限された。次年度の電力供給に不安のある中ではあるが、よりたくさんのクラブが全国大会を目指して十分な活動ができるよう環境を整えていかなければならない。

(4) 中等科

■奨学金

採用状況（院内・学外の奨学金）

①学習院独自の奨学金

名 称	資 格	金 額	貸与・ 給付別	22年度 採用数
学習院各科学費支援 給付奨学金	学費支弁困難で、緊急止むを得ない場合に給付。	学費納付金相当額	給付	0名

②学習院関係団体の奨学金

名 称	資 格	金 額	貸与・ 給付別	22年度 採用数
学習院父母会奨学金	学費負担者である父母保証人の死亡等に起因し、家計が激変したことにより学費支弁が困難と認められる勉学熱心な者。 大学から幼稚園計15名。	授業料・維持費相当額	給付	0名

■資格取得

資格 学年	実用英語技能検定						
	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級	1級
	中学校 初級程度	中学校 中級程度	中学校 卒業程度	高校 中級程度	高校 卒業程度	大学2年 終了程度	大学 卒業程度
3年	0	1	26	34	2	0	0
2年	1	28	49	7	1	0	0
1年	57	34	8	0	1	0	0

資格	実用英語技能検定						
	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級	1級
	小学校 6年程度	中学校 初級程度	中学校 中級程度	中学校 卒業程度	高校 卒業程度	大学2年 終了程度	大学 卒業程度
受験者	58	67	94	56	16	0	0
合格者	58	63	83	41	4	0	0

H22資格取得について

英検のほか、日本語検定では優秀団体賞を受賞。

このほか、3年生希望者を対象に、普通救命救急講習を実施し、受講者全員が技能認定を受けた。

■課外活動

①クラブ加入状況

平成22年5月現在

部員数		1年	2年	3年	合計
		運動部	163	169	153
	文化部	102	60	51	213
	同好会	12	11	10	33
	合計（のべ人数）	277	240	214	731
	在校生徒数	203	196	198	597

②主な活動成果

団体名	大会名	種目・成績			
☆卓球部	豊島区春季大会	男子団体	準優勝	田所・龍村・小川・新保・樫尾・永野・秦・朝倉	
		男子ダブルス	準優勝	小川・秦	
			3位	新保・永野	
	東京都春季大会	男子団体	ベスト32	竹内・龍村・小川・新保・樫尾・永野・秦・朝倉	
	豊島区夏季大会	男子団体	準優勝	秦・新保・永野・竹内・龍村・小川・樫尾・朝倉	
		男子シングルス	3位	小川	
			ベスト8	秦、樫尾、朝倉	
		男子ダブルス	優勝	大橋・岸	
			準優勝	梅田・倉本	
		3位	斉藤・小林		
豊島区秋季新人大会	男子団体	3位	朝倉・中松・斉藤・大橋・倉本・梅田・岸・中江		
	男子シングルス	優勝	朝倉		
	男子ダブルス	ベスト8	中江・野口、佐藤・吉岡		
第三支部夏季大会	男子団体	優勝	秦・新保・永野・小川・朝倉・中松		
	男子シングルス	準優勝	秦		
	男子ダブルス	準優勝	秦・小川		
東京都私立中学大会	男子団体	ベスト16	秦・新保・永野・小川・朝倉		
第三支部冬季大会	男子シングルス	優勝	朝倉		
		準優勝	中松		
	男子ダブルス	優勝	朝倉・中松		
		3位	大橋・中江		
		ベスト8	倉本・梅田		
城北地区新人大会	男子シングルス	3位	朝倉		
東京都新人大会	男子シングルス	ベスト64	朝倉		
☆水泳部	対抗戦（対成城学園中）	学習院(204)―成城学園(58)			
	対抗戦（対早稲田中）	学習院(61)―成城学園(72)			
	東京都学年別大会	3年100m背泳ぎ	8位	青木陽祐	1分06秒49
	豊島区中学大会	総合3位(39点)			
	定期対抗戦	学習院(104)―筑波大附属(93)			
	〃	学習院(126)―立教池袋(155)			
	豊島区民大会	50m背泳	青木陽祐	30秒62	
		50mバタフライ	青木陽祐	29秒38	
		50m平泳	大澤和生	41秒06	
		200mメドレーリレー	2分25秒88		
定期対抗戦		学習院(146)―立教池袋(132)			

☆バスケットボール部	豊島区春季大会	3位	対 城西中 (99-10)		
			対 巣鴨中 (61-45)		
			対 駒込中 (31-49)		
			対 本郷中 (59-53)		
	第四ブロック大会		対 文京第六中 (50-81)		
豊島区夏季大会		対 巣鴨北中 (87-42)			
豊島区秋季大会	2位				
	二回戦		対 駒込中 (99-47)		
	決勝リーグ		対 巣鴨中 (70-56)		
			対 立教池袋中 (71-56)		
			対 西池袋中 (28-74)		
東京都私立新人大会	予選リーグ 1位		対 明大中野中 (32-23)		
			対 かえつ有明中 (81-12)		
			対 立正中 (93-12)		
			対 東京成徳中 (66-13)		
			対 城北中 (52-60)		
			対 芝中 (52-35)		
		[決勝トーナメント]	対 日大三中 (43-67)		
☆野球部	豊島区春季野球大会		対 城西中 (5-5)		
	豊島区夏季野球大会		対 本郷中 (3-4)		
	豊島区秋季大会		対 本郷中 (0-1)		
	第三支部大会	準決勝	対 青山学院中 (2-3)		
	東京都私立大会	Aブロック	対 城北中 (5-3)		
		対 郁文館中 (4-5)			
		対 郁文館中 (6-1)			
		対 城北中 (2-1)			
		準決勝	対 独協中 (1-4)		
☆陸上競技部	豊島区中学選手権	1年100m	2位	中澤	13秒74
			3位	松本	13秒90
		2年100m	優勝	北條	11秒57
		共通200m	2位	北條	24秒63
			3位	秋元	24秒86
		共通400m	2位	二川	58秒17
			3位	櫻井	58秒46
		1年1500m	優勝	石橋	5分20秒51
		共通110mハードル	優勝	浜中	16秒25
	共通4×100m	2位	田野-北條-秋元-浜中	46秒92	
東京リレーカーニバル	100m	8位	北條	11秒95	
	4×100mリレー	4位	小林-秋元-阿部-田野	47秒52	

☆陸上競技部	区部西部地区大会 (都大会進出者のみ)	2年 100m	2位	北條	11秒 56
		3年 100m		秋元	12秒 04
				小林	12秒 06
		共通 200m		秋元	24秒 33
				小林	24秒 63
		共通 400m		櫻井	56秒 67
				浜中	56秒 94
		共通 1500m		左近	4分 34秒 83
		共通 110m ハードル	3位	浜中	16秒 39
	低学年 4×100m		戸井田-北條-松本-中澤	51秒 62	
	共通 4×100m		浜中-秋元-阿部-小林	47秒 98	
	東京都中学校総体	2年 100m	2位	北條	11秒 63
	通信東京都大会	2年 100m	2位	北條	11秒 57
	関東中学大会	2年 100m	7位	北條	11秒 91
	東京都私立大会	110m ハードル	8位	浜中	18秒 12
		2年 100m	2位	北條	11秒 79
		3年 100m	6位	小林	11秒 97
		共通 1500m	8位	左近	4分 30秒 79
		共通 3000m	8位	左近	9分 55秒 06
		走り高跳び	7位	秋元	1m50
			8位	阿部	1m50
	共通 4×100m	6位	五味・阿部・秋元・小林	46秒 16	
	東京ジュニア大会	2年 100m	2位	北條	11秒 57
		2年 1500m	13位	左近	4分 35秒 09
		2年 4×100m	2位	戸井田・北條・内藤・大友	47秒 49
	豊島区夏季大会	1年 100m	3位	鶴沢	13秒 07
		2年 100m	1位	北條	11秒 57
3年 100m		3位	小林	11秒 87	
2年 200m		3位	北條	23秒 97	
1年 100m ハードル		1位	玉水	17秒 91	
2・3年 110m ハードル		2位	浜中	16秒 34	
共通 1500m		2位	左近	4分 30秒 38	
1年 4×100m		3位	鶴沢・玉水・中澤・松本	52秒 60	
2年 4×100m		3位	戸井田・北條・内藤・大友	48秒 71	
3年 4×100m		2位	五味・阿部・秋元・小林	46秒 82	
東京都支部対抗	2年 100m	2位	北條	11秒 66	
	2年 1500m	5位	左近	4分 23秒 68	
豊島区中学駅伝	Aチーム	4位	1時間 4分 18秒 坂東・左近・櫻井・二川・田代・稲垣		

☆陸上競技部	豊島区民駅伝	Bチーム	1位	53分24秒 稲垣・濱田・田代・石橋・左近・山崎	
		Aチーム	2位	55分22秒 二川・青木・風山・土橋・櫻井・坂東	
☆陸上競技部	東京都中学ロードレース (上位入賞者)	2・3年男子2km		北條 6分58秒 田野 7分01秒 大友 7分07秒	
		1年男子2km		松本 7分10秒 中澤 7分15秒	
		2・3年男子3km		稲垣 10分16秒	
		1年男子3km		田代 10分48秒	
☆バレーボール部	豊島区春季大会	第2位			
	豊島区夏季大会	第2位			
	豊島区秋季大会	第1位			
	第四ブロック秋季大会	第6位			
	六校バレーボール大会	第4位			
☆硬式庭球部	東京都春季大会	団体	一回戦 対 成瀬台中(5-0) 二回戦 対 梅丘中(3-0) 三回戦 対 高島第二中(3-2) 四回戦 対 東海大菅生中(0-5)		
		ベスト32			
☆硬式庭球部	東京都新人選手権	団体	一回戦 対 諏訪中(5-0) 二回戦 対 都立大付属中(3-0) 三回戦 対 東村山七中(3-1) 四回戦 対 稲城六中(2-3)		
		ベスト32			
☆ラグビー部	東京都春季大会	[予選リーグ]	対 玉川学園中B(39-17) 対 鶴川・八王子七中連合(24-24)		
		[決勝トーナメント]	対 青山学院中B(53-10) 対 国学院久我山中B(0-76)		
	東京都秋季大会	[予選リーグ]	対 成城学園中B(51-0) 対 独協中(17-22) 対 開成中(76-0)		
		[決勝トーナメント]	対 麻布中(104-5) 対 武蔵野五中(5-45)		
東京都新人大大会		対 慶応中B(20-29) 対 麻布中・開成中連合(22-67) 対 日大二・駒込学園連合(7-51) 対 青山学院中B(10-19)			
☆サッカー部	豊島区春季大会	準優勝	対 池袋中(2-0) 対 西巣鴨中(3-1) 対 本郷中(0-4)		
	第四支部春季大会		対 上板橋二中 PK(1-2)		

☆サッカー部	豊島区夏季大会	準優勝	対 巣鴨中 (2-0) 対 城西中 (2-0) 対 本郷中 (0-1)
	第四支部夏季大会		対 赤塚三中 PK (4-3) 対 十条富士見中 (0-3)
	高円宮杯	[一次予選] [二次予選] [最終予選]	対 安田学園中 (6-0) 対 都市大学付属中 (0-2) 対 都武蔵高附中 (4-1) 対 東海大高輪台中 (6-0) 対 京華中 (7-0) 対 小平三中 (4-3) 対 上板橋二中 (4-0) 対 ウェルネス (2-1) 対 九曜 FC (2-3)
	東京都私立大会		対 広尾学園中 (不戦勝) 対 芝中 (0-3)
	豊島区秋季新人大会	優勝 [予選リーグ] [決勝トーナメント]	対 西池袋中 (3-0) 対 巣鴨中 (4-0) 対 千登世橋中 (1-1) 対 城西中 (5-0) 対 本郷中 (4-1) 対 千川中 PK (3-1)
	第四支部秋季新人大会		対 赤塚一中 PK (4-5)
	☆剣道部	ブロック春季大会	団体
ブロック夏季大会		団体 個人 者	ベスト8(都大会進出) 都大会進出 山梨・吉岡
豊島区体育大会		中3個人	優勝 吉岡 3位 原
☆古武道部	合気道初段取得者(春)	内田・宮地	
	第51回全日本学生合気道演武大会・招待演武(於:日本武道館)		
	合気道初段取得者(冬)	竜田・田村・上原・富田・上野・赤松・大窪・新井	
☆美術部	佐藤太清記念中学生絵画展	入選	近藤
☆音楽部	第25回学習院中・高等科吹奏楽団定期演奏会(於:百周年記念会館正堂)		
	第24回オール学習院の集い出演(於:百周年記念会館正堂)		
	第17回サマーコンサート(於:百周年記念会館正堂)		
	第50回東京都高等学校吹奏楽コンサート B東日本組 金賞		
	第33回私学第三支部生徒定期演奏会		
☆写真部	第38回東京私立中学高等学校「生徒写真美術展」	入賞	前田・齋藤・網野

☆囲碁将棋部	文科杯団体戦東京大会	Aクラス 9位	日比野・前田・出張
		Cクラス 3位	中村・高松・近藤
		Dクラス 4位	四宮・園池・涌井
		Dクラス 5位	佐々木・國分・張谷
	東京都春季大会	選抜戦 6位	日比野
		Fクラス優勝	佐々木
	関東中学選手権	A級戦 優勝	日比野・出張・園池
		C級戦 優勝	中村・高松・近藤・佐々木
		初段取得者	出張

(5) 女子高等科・女子中等科

■奨学金

①学習院独自の奨学金の採用状況

名 称	資 格	貸与・給付 金額	貸・給別	採用者数
学習院各科学費支援給付奨学金	各科に在籍する学費支弁が困難な生徒及び入学段階の進学者へ給付。	学費納付相当額	給付	1名
学習院常磐会奨学金	女子中等科・女子高等科に在学する生徒で学資の支弁が困難と認められる者	授業料・維持費相当額	給付	2名
学習院父母会奨学金	学習院に在学する生徒で、父母保証人の死亡に起因し、家計が激変したことにより、学資の支弁が困難と認められる者で、勉学熱心であると認められるもの。	授業料・維持費相当額	給付	0名
小 計				3名

②学外の奨学金の応募状況・採用状況

名 称	資 格	貸与・給付 金額	貸・給別	採用者数
東京都育英資金奨学金	申込者とその保護者が都内に在住、その他都私学財団の基準を満たし、在学する学校が推薦するもの	月額35,000円	貸与	2名

■ 資格取得（英検、漢検等）

□女子高等科

資格 学年	実用英語技能検定				日本漢字検定		
	準2級	2級	準1級	1級	2級	準1級	1級
	高校中級程度	高校卒業程度	大学2年終了程度	大学卒業程度			
3年	55	54	9	4	21	0	0
2年	52	60	10	0	22	0	0
1年	48	22	6	0	17	0	0

□女子中等科

資格 学年	実用英語技能検定							日本漢字検定	
	5級	4級	3級	準2級	2級	準1級	1級	準2級	2級
	中学校初級程度	中学校中級程度	中学校卒業程度	高校中級程度	高校卒業程度	大学2年終了程度	大学卒業程度		
3年	0	2	39	54	20	7	0	13	10
2年	0	31	46	30	7	3	0	6	0
1年	27	46	31	10	8	2	0	3	0

■ 課外活動（女子高等科）

□クラブ加入状況

平成22年10月1日現在

	高Ⅰ	高Ⅱ	高Ⅲ	合計
入 部 数	200	203	172	575
在籍者数	199	204	203	606

注) 入部数は延べ人数とする。

□表彰記録

主な活動成果

◆第39回リコーダーコンテスト		
高校・大学生の部〈合奏部門〉	金賞	高等科ブロックフレーアンサンブル部 (高Ⅰ、高Ⅱ)
高校・大学生の部〈独奏部門〉	金賞	(高Ⅲ)
◆第38回生徒写真・美術展	入選	(高Ⅱ)
◆池坊 花の甲子園	チームスピリット賞	(高Ⅲ3名)
◆あきつ会誌上展	筆蹟賞	(高Ⅱ)
	団体賞	中・高等科書道部
◆第58回新宿区民剣道大会		
高校女子の部	第1位	(高Ⅱ)
◆第17回C支部高等学校女子バスケットボール大会	第1位	高等科バスケットボール部
	優秀選手賞	(高Ⅱ)
◆新宿区民総合体育大会(陸上競技)		
400m	優勝	(高Ⅰ)
1500m	優勝	(高Ⅱ)
走幅跳	優勝	(高Ⅰ)
◆第14回東京春季高校生オープン大会(バドミントン)		
女子ダブルスの部	優勝	(高Ⅱ)

個人表彰

◆第2回「私の志」小論文コンテスト(多摩大学主催)	優秀賞	(高Ⅲ)
	佳作	(高Ⅱ)
◆第8回敬愛大学高校生論文コンテスト	奨励賞	(高Ⅲ)
◆第6回日能研 文学コンクール(日能研主催)		
小論文の部	奨励賞	(高Ⅱ)
◆「金融と経済の明日」第8回高校生小論文コンクール	特選	(高Ⅱ)
	秀作	(高Ⅱ2名)
◆第25回全国高等学校文芸コンクール		
随筆部門	入選	(高Ⅱ)
◆第54回全国学芸科学コンクール(旺文社主催)		
読書感想文部門	旺文社赤尾好夫記念賞(金賞)	(高Ⅲ)
	旺文社赤尾好夫記念賞(銀賞)	(高Ⅱ)
	旺文社赤尾好夫記念賞(入選)	(高Ⅱ)
	旺文社赤尾好夫記念賞(努力賞)	(高Ⅰ2名、高Ⅱ)
作文・小論文部門	旺文社赤尾好夫記念賞(入選)	(高Ⅲ)
小説部門	旺文社赤尾好夫記念賞(銅賞)	(高Ⅱ)

◆第3回田辺聖子文学館ジュニア文学賞（田辺聖子文学館主催）		
高校生部門 短歌の部	優秀賞	（高Ⅰ）
◆第24回感動作文コンクール（財上廣倫理財団）		
高校生の部	佳作	（高Ⅱ）
◆第4回全日本ジュニア短歌大会		
高校・大学生の部	秀作賞	（高Ⅰ）
	佳作賞	（高Ⅰ）
	奨励賞	（高Ⅰ）
◆ ^{せいと} SEITO百人一首 第9回短歌コンクール	入選	（高Ⅱ）
◆第11回若山牧水青春短歌大賞	佳作	（高Ⅰ）
◆第21回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞		
英語俳句の部	佳作	（高Ⅱ2名）
◆第49回全国高等学校生徒英作文コンテスト	入選	（高Ⅱ2名、高Ⅲ）
◆ホノルル市長杯 第40回全日本青少年英語弁論大会	全国大会出場	（高Ⅰ）
◆日経エデュケーションチャレンジ2010	講師特別賞	（高Ⅰ）
◆第15回東日本オープンテコンドー選手権大会		
キョルギ部門新人戦	第1位	（高Ⅰ）
◆第21回ユザワヤ創作大賞	入選	（高Ⅱ）
◆平成22年度学習院父母会課外活動等表彰	優秀賞（4件）	学習院女子高等科

■課外活動（女子中等科）

□クラブ加入状況

平成22年10月1日現在

	中一	中二	中三	合計
入部数	166	218	201	585
在籍者数	210	208	201	619

注）入部数は延べ人数とする。

□表彰記録

主な活動成果

◆第39回リコーダーコンテスト		
中学生の部（合奏部門）	金賞	中等科ブロックフレーテアンサンブル部 （中三）
◆第31回NHK杯東京都中学校放送コンテスト		
アナウンス部門	都大会決勝進出	（中二、中三）
朗読部門	都大会決勝進出	（中三）
◆あきつ会誌上展	筆蹟賞	（中三）
	団体賞	中・高等科書道部
◆新宿区民総合体育大会（水泳競技）		
100m自由形	第1位	（中三）
25m平泳ぎ	第1位	（中三）
◆新宿区中学校卓球春季大会		
女子団体	優勝	中等科卓球部
女子ダブルス	優勝	（中三2名）

◆新宿区中学校バスケットボール春季大会	優秀選手賞	(中三)
◆新宿区中学校バスケットボール夏季大会	優秀選手賞	(中三)
◆新宿区中学校バスケットボール新人大会	優 勝	中等科バスケットボール部
	優秀選手賞	(中二)
◆新宿区民総合体育大会(陸上競技)		
中一100m	優 勝	(中一)
中三100m	優 勝	(中三)
中学共通800m	優 勝	(中三)
中学低学年リレー4×100m	優 勝	(中一2名、中二2名)
中学共通リレー4×100m	優 勝	(中二、中三3名)
◆新宿区総合体育大会駅伝競走	優 勝	(中二2名、中三3名)
◆第二ブロック新進テニストーナメント大会		
ダブルス	優 勝	(中二)

個人表彰

◆第60回全国小・中学校作文コンクール		
中学校の部	読売新聞社賞	(中三)
◆第56回青少年読書感想文全国コンクール		
東京都コンクール	最優秀賞	(中三)
◆第54回全国学芸科学コンクール(旺文社主催)		
読書感想文部門	旺文社赤尾好夫記念賞(銀賞)	(中三)
	努力賞	(中一、中二、中三)
作文・小論文部門	旺文社赤尾好夫記念賞(入選)	(中三)
◆第6回立志論文コンテスト (公益財団法人 松下政経塾)	奨励賞	(中三)
◆第44回全国中学校文芸作品・歌曲創作コンクール(文英堂)		
作文の部	入 選	(中一2名、中三3名)
作曲の部	入 選	(中一)
◆第6回日能研 文学コンクール(日能研)		
創作部門	特別賞	(中一)
◆第3回田辺聖子文学館ジュニア文学賞(田辺聖子文学館)		
中学生部門 読書体験記の部	佳 作	(中二)
◆第43回「お金の作文コンクール」 (金融広報中央委員会)	佳 作	(中三)
◆第5回ニッケ ピュアハート エッセー大賞	優秀賞	(中三)
◆第9回「盲導犬ベルナ」読書感想文コンクール		
中学生の部	優秀賞	(中三)
◆第16回与謝野晶子短歌文学賞		
青春の歌の部	入 選	(中三)
◆第13回長塚節 文学賞		
俳句部門 小中学生の部	入 選	(中三2名)
◆第3回国際ジュニア音楽コンクール	千葉ふるさと文化大学長賞伊藤楽器賞	(中一)
◆第45回弘法大師奉賛高野山競書大会	特 選	(中三)
◆平成22年度学習院父母会課外活動等表彰	優秀賞(2件)	(中三)

4. 進学・就職（過去3カ年の推移）

(1) 大学 (大学院)

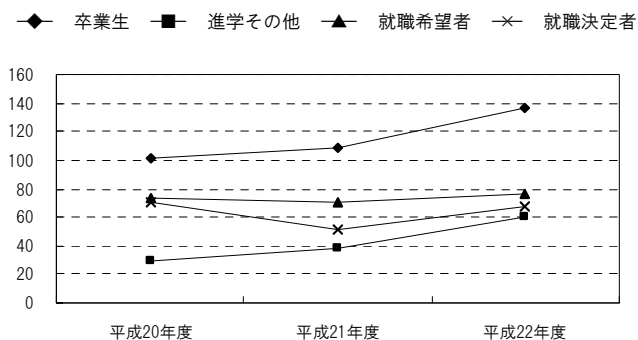
■過去3カ年の進学・就職者の推移

□大学院

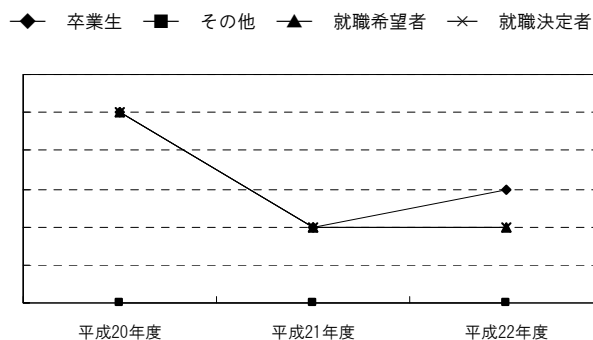
下段の数字は内数女子 当該年度3月31日現在

研究科	年度	平成20年度					平成21年度					平成22年度				
		卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 決定者	内定率	卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 決定者	内定率	卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 決定者	内定率
法学 研究科	博士 前期	0	0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
	博士 後期	0	0	1	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
	博士 前期	12	4	8	8	100%	6	2	4	4	100%	6	3	3	3	100%
	博士 後期	7	1	6	6		1	0	1	1		2	1	1	1	
政治学 研究科	博士 前期	0	0	3	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
	博士 後期	0	0	1	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
経済学 研究科	博士 前期	2	1	1	0		1	1	0	0		0	0	0	0	
	博士 後期	1	1	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
	博士 後期	0	0	1	0		0	0	0	0		0	0	0	0	
経営学 研究科	博士 前期	3	1	2	2	100%	7	1	6	3	50%	8	5	3	3	100%
	博士 後期	2	0	2	2		2	0	2	2		5	3	2	2	
	博士 前期	1	0	1	1	100%	0	0	0	0		0	0	0	0	
	博士 後期	1	0	1	1		0	0	0	0		0	0	0	0	
人文科学 研究科	博士 前期	43	17	26	24	92%	66	29	37	21	57%	83	49	34	26	76%
	博士 後期	33	14	19	17		46	20	26	14		44	26	18	13	
	博士 後期	1	0	1	1	100%	1	0	1	1	100%	2	0	2	2	100%
自然科学 研究科	博士 前期	0	0	0	0		0	0	18	7		1	0	1	1	
	博士 前期	42	6	36	36	100%	29	5	24	24	100%	39	3	36	36	100%
	博士 後期	13	2	11	11		9	1	8	8		10	0	10	10	
	博士 後期	3	0	3	3	100%	1	0	1	1	100%	1	1	0	0	
博士前期課程 小計	102	29	73	70	96%	109	38	71	52	73%	136	60	76	68	89%	
	56	18	38	36		58	21	37	25		61	30	31	26		
博士後期課程 小計	5	0	5	5	100%	2	0	2	2	100%	3	1	2	2	100%	
	1	0	1	1		0	0	0	0		1	0	1	1		
大学院合計	107	29	78	75	96%	111	38	73	54	74%	139	61	78	70	90%	
	57	18	39	37		58	21	37	25		62	30	32	27		

過去3カ年の進学・就職者数の推移 (博士前期)



過去3カ年の進学・就職者数の推移 (博士後期)



□学部

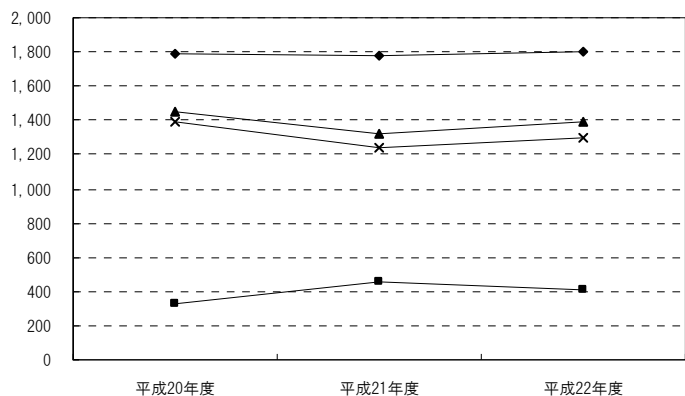
下段の数字は内数女子

当該年度3月31日現在

学部学科		平成20年度					平成21年度					平成22年度				
		卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率	卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率	卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率
法学部	法学科	259	40	219	215	98%	233	47	186	180	97%	233	53	180	166	92%
		116	14	102	100		112	14	98	96		114	25	89	84	
	政治学科	258	33	225	217	96%	230	52	178	167	94%	198	36	162	155	96%
		127	12	115	111		127	23	104	97		101	13	88	87	
法学部小計		517	73	444	432	97%	463	99	364	347	95%	431	89	342	321	94%
		243	26	217	211		239	37	202	193		215	38	177	171	
経済学部	経済学科	249	29	220	211	96%	233	45	188	179	95%	271	40	231	216	94%
		93	7	86	84		89	12	77	72		94	15	79	76	
	経営学科	246	34	212	209	99%	268	50	218	205	94%	278	43	235	226	96%
		128	16	112	111		135	21	114	111		135	15	120	116	
経済学部小計		495	63	432	420	97%	501	95	406	384	95%	549	83	466	442	95%
		221	23	198	195		224	33	191	183		229	30	199	192	
文学部	哲学科	100	32	68	62	91%	96	39	57	51	90%	88	38	50	36	72%
		68	20	48	45		64	24	40	36		63	25	38	27	
	史学科	85	18	67	62	93%	92	25	67	61	91%	88	21	67	62	93%
		48	9	39	38		65	13	52	46		56	15	41	39	
	日本語 日本文学科	119	27	92	85	92%	114	33	81	71	88%	132	32	100	85	85%
		91	16	75	70		92	23	69	60		108	27	81	68	
	英米文学科	126	22	104	101	97%	125	21	104	96	92%	142	23	119	113	95%
		95	12	83	81		102	13	89	83		125	17	108	103	
	ドイツ語圏 文化学科	48	4	44	44	100%	53	16	37	33	89%	58	12	46	44	96%
		41	1	40	40		44	11	33	29		44	8	36	35	
	フランス語圏 文化学科	77	11	66	60	91%	96	19	77	74	96%	83	22	61	57	93%
61		8	53	52		79	15	64	62		70	15	55	51		
心理学科	81	19	62	61	98%	76	32	44	42	96%	92	29	63	58	92%	
	62	14	48	48		53	21	32	32		69	23	46	43		
文学部小計		636	133	503	475	94%	652	185	467	428	92%	683	177	506	455	90%
		466	80	386	374		499	120	379	348		535	130	405	366	
理学部	物理学科	43	25	18	18	100%	38	24	14	11	79%	47	22	25	22	88%
		8	3	5	5		7	3	4	4		11	4	7	7	
	化学科	41	28	13	12	92%	60	39	21	21	100%	42	22	20	20	100%
		16	7	9	9		32	16	16	16		13	4	9	9	
数学科	52	11	41	39	95%	64	15	49	44	90%	52	16	36	34	94%	
	13	2	11	11		23	5	18	18		13	5	8	7		
理学部小計		136	64	72	69	96%	162	78	84	76	91%	141	60	81	76	94%
		37	12	25	25		62	24	38	38		37	13	24	23	
学部合計		1,784	333	1,451	1,396	96%	1,778	457	1,321	1,235	94%	1,804	409	1,395	1,294	93%
		967	141	826	805		1,024	214	810	762		1,016	211	805	752	

過去3カ年の進学・就職者数の推移（学部）

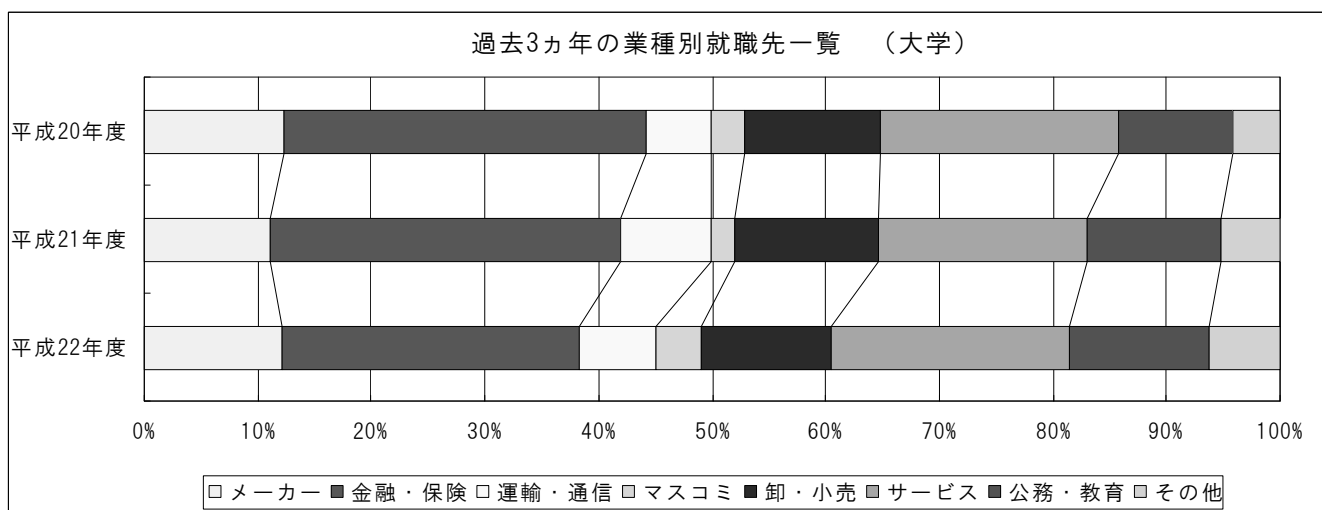
◆ 卒業生 ■ 進学その他 ▲ 就職希望者 ✕ 就職決定者



■過去3カ年の大学就職先一覧（ベスト10）

*採用人数別順位 *学部全体 当該年度3月31日現在

平成20年度	人数	平成21年度	人数	平成22年度	人数
みずほフィナンシャルグループ	51	みずほフィナンシャルグループ	41	三菱東京UFJ銀行	27
三菱東京UFJ銀行	39	三菱東京UFJ銀行	19	日本生命保険	26
三井住友海上火災保険	26	日本生命保険	19	みずほフィナンシャルグループ	17
三井住友銀行	24	りそな銀行	17	埼玉県市町村（除:さいたま市）	17
日本生命保険	22	明治安田生命保険	14	りそな銀行	15
東京海上日動火災保険	19	東京23特別区人事委員会	14	郵便局	14
千葉銀行	16	三井住友銀行	13	三井住友銀行	13
日本興亜損害保険	14	かんぼ生命保険	12	東京海上日動火災保険	12
東京23特別区人事委員会	13	損害保険ジャパン	12	東京23特別区人事委員会	12
明治安田生命保険	10	三井住友海上火災保険	12	警視庁	11



○平成22年度の動向解説

《概要》

平成20年秋のリーマン・ショック以降、経済不況の波はなかなか回復せず、学生にとっては厳しい状況下での就職活動となった。平成22年度の就職活動の特色としては、以下の点が挙げられる。

- ・学生は早期から積極的に活動したが、結果的には長期化した。
- ・エントリー数、企業セミナー参加数、受験した企業数はいずれも増加した。
- ・1社しか内定を得られない学生が増加し、複数内定を獲得した学生は減少した。
- ・就職環境は文系に厳しく、理系には回復が見られた。
- ・企業の採用意欲は若干回復したが、厳選採用を貫く姿勢を崩さなかった。

《就職状況》

就職状況の詳細は資料のとおりであるが、平成22年度の就職率（内定率）は92.8%であり、前年度より0.7ポイント下がっている。

男女別では、男子91.9%（前年比-0.7%）、女子93.4%（前年比-0.7%）となっており、厳しい就職環境に置かれているはずの女子が善戦していることがわかる。

就職率は、卒業者で就職を希望する者のうち内定者の割合であるが、平成22年度から新たに導入された「卒業延期制度」（卒業要件を満たせば1年間卒業を延期できる制度）を利用した93名は、卒業者ではないため算入されていない。この中には、就職を希望していたものの、残念ながら内定を獲得できなかった学生を多く含んでいるため、その対応が今後の課題となる。

文部科学省と厚生労働省が発表した2011年3月卒業の大学生の就職率は91.1%であり、本学の就職率と大差ないように見えるが、東日本大震災で被害の大きかった東北地方の大学は調査対象に含まれておらず、実態はさらに低くなる可能性が高

いため、単純に比較はできない。

厳しい経済状況の下、昨年度とほぼ同じ就職率を維持できたのは、何より学生の努力の賜物であるが、21年目を迎えた面接対策セミナーを始め、大学と多くの卒業生が協力して学生の就職支援を行っている学習院の伝統が大きく寄与しているものと思われる。

また、キャリアセンターでは、従来のキャリア・就職支援プログラムのほか、学生の進路実態を把握する機会を早期化し、就職活動を継続している学生を対象とした個別面談や企業紹介、1月以降の学内企業説明会などを新規に実施した。

《採用内訳》

採用企業を業種別に見ると、金融関係企業（銀行・生命保険・損害保険・証券）への内定者数が全体の26.1%（前年比-4.7%）となり、今年度も金融業界がトップとなっているが、ここ数年その比率は下がる傾向にある。それ以外の業種では、内定者数が多い順にサービス業、メーカー、卸・小売、公務・教育、運輸通信、マスコミとなっている。

また、採用企業を規模別に見ると、上場企業への就職率は28.8%（前年比-4.6%）、従業員別では1,000名以上企業への就職率は65.7%（前年比-5.4%）となっている。大企業に就職した学生の割合は相変わらず高いが、その比率は減少しており、ある就職情報会社が「イメージより“実”で企業を選ぶ学生の増加」と分析していることと一致する。

（2）女子大学（大学院）

■過去3カ年の進学・就職者の推移

□大学院

当該年度3月31日現在

研究科	年度	平成20年度					平成21年度					平成22年度							
		修了生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率	修了生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率	修了生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率
国際文化交流研究科	5	5	0	0	5	100%	9	1	2	6	3	33%	10	3	0	7	3	100%	

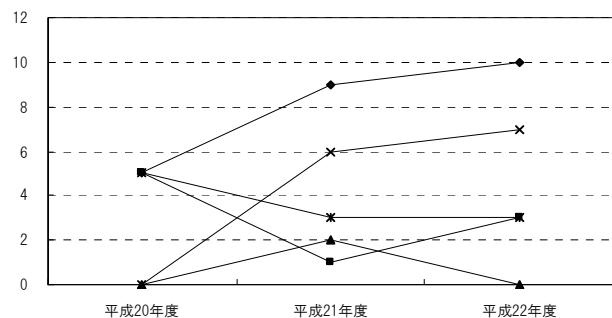
□学部

当該年度3月31日現在（9月卒業生含む）

学部学科	年度	平成20年度					平成21年度					平成22年度							
		卒業生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率	卒業生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率	卒業生	就職 内定者	進学者	その他	就職 希望者	内定率
国際文化交流学部	日本文化学科	207	171	7	29	174	98%	163	114	8	41	127	90%	180	145	8	27	156	93%
	国際コミュニケーション学科	216	191	6	19	196	97%	189	147	3	39	156	94%	219	180	4	35	189	95%
	英語コミュニケーション学科	/	/	/	/	/	/	29	25	1	3	28	89%	34	27	0	7	29	93%
女子大学合計		423	362	13	48	370	98%	381	286	12	83	311	92%	433	352	12	69	374	94%

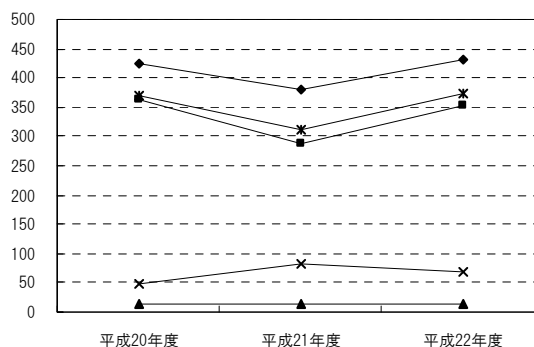
過去3カ年の進学・就職者数の推移（修士）

◆ 修了生 ■ 就職内定者 ▲ 進学者 × その他 * 就職希望者



過去3カ年の進学・就職者数の推移（学部）

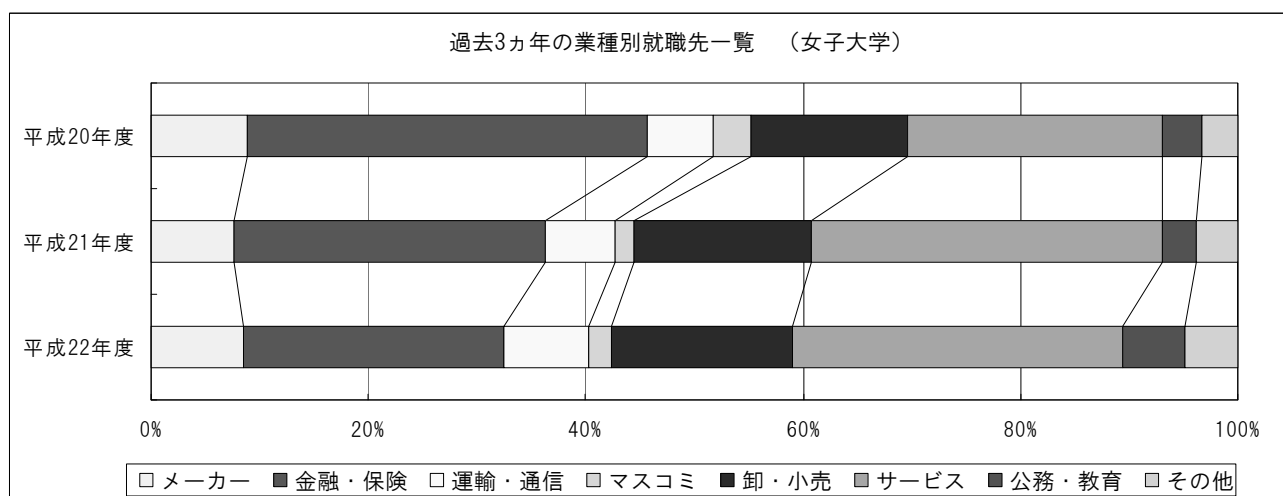
◆ 卒業生 ■ 就職内定者 ▲ 進学者 × その他 * 就職希望者



■過去3カ年の女子大学就職先一覧（ベスト10）

*採用人数別順位 当該年度3月31日現在

平成20年度	人数	平成21年度	人数	平成22年度	人数
三菱東京UFJ銀行	15	明治安田生命保険	7	りそな銀行	7
みずほフィナンシャルグループ	11	三井住友銀行	6	日本生命保険	7
日本生命保険	7	りそな銀行	6	明治安田生命保険	5
損害保険ジャパン	7	みずほフィナンシャルグループ	4	エイチ・アイ・エス	5
東京海上日動火災保険	7	東京海上日動火災保険	4	日興コーディアル証券	4
全日本空輸	7	第一生命保険	3	ヤマトロジスティクス	4
三井住友銀行	6	日本生命保険	3	パナソニック電工	3
明治安田生命保険	6	日本興亜損害保険	3	三菱東京UFJ銀行	3
三井住友海上火災保険	6	三井住友海上火災保険	3	全日本空輸	3
日本航空インターナショナル	4	全日本空輸	3	東日本旅客鉄道	3



○平成22年度の動向解説

平成22年度の就職活動は、平成21年度の就職氷河期を超え、マスコミが「超氷河期」と報じる中で展開された。このような社会・経済情勢の中で、平成22年度4年生の就職活動は非常に厳しいものとなることが予想され、本学としても各種就職セミナーを増やすなどの対応に迫られた。この結果、就職内定率は94.1%となり、平成21年度の就職内定率を2.1ポイント上回ることが出来た。この数値は単に%だけではなく、卒業生433名（対前年度比52名増）、就職希望者374名（対前年度比63名増）、内定者数352名（対前年度比66名増）という状況の中でもたらされたものである。

超氷河期と称せられ、さらに東日本大震災が卒業間近に発生し厳しい状況下であったにも拘らず就職内定率が上がったことは、本学学生の底力を表していると言えよう。

平成22年度の就職に関する特徴は、次のとおりである。

- ①産業別分類では、昨年度同様、「銀行」、「保険」が多く、産業別トップであったが、採用数激減の影響を受けて昨年度より4%減の24.1%であった。
- ②女子学生に人気の高い航空関連企業（CA・地上職）への内定者数については、航空業界の業績悪化による採用数減少の影響を受けたが、昨年度より1名多い9名となった。その内外資系航空会社に3名（英語コミュニケーション学科2名・国際コミュニケーション学科1名）が内定した。
- ③大学院修了者数は10名で就職希望者3名全員が内定し、就職率100%となった。

本学の就職支援体制の強みは、就職部から学生に電話等でアプローチを積極的に行ったり、ゼミ担当教員から情報収集を行う等、学生の状況を常に把握することで各学生に適したきめ細かい指導が可能であることである。小規模校ならではのこの利点を活かして、学年当初計画した講座以外にも、新規企画を立案・実行する等、学生からのニーズに即応する姿勢で臨んでい

る。

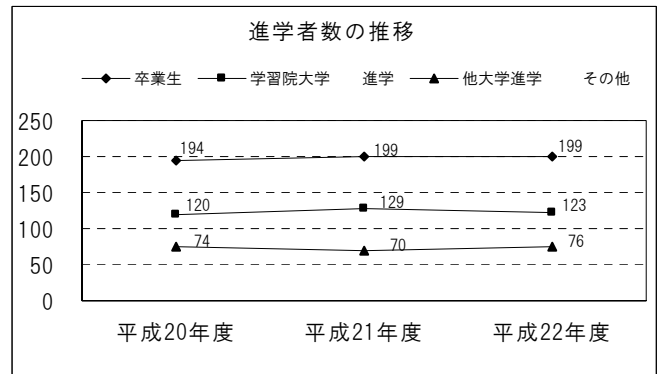
常に「その時点で必要な支援は何か」を察知し、個別対応の時間を十分確保し指導を行っていることが、上記のとりの成果となったと感じている。

平成23年度は東日本大震災の影響により採用スケジュールが大幅に変更することとなるが、高い就職内定率を維持すべく、就職部を中心にゼミ担当教員も職員も一丸となり、卒業直前まで学生への支援を惜しまず続けていく覚悟である。

(3) 高等科

■過去3カ年の進学者の推移 当該年度3月31日現在

	卒業生	学習院大学 進学	他大学進学 その他
平成20年度	194	120	74
平成21年度	199	129	70
平成22年度	199	123	76



○平成22年度の動向解説

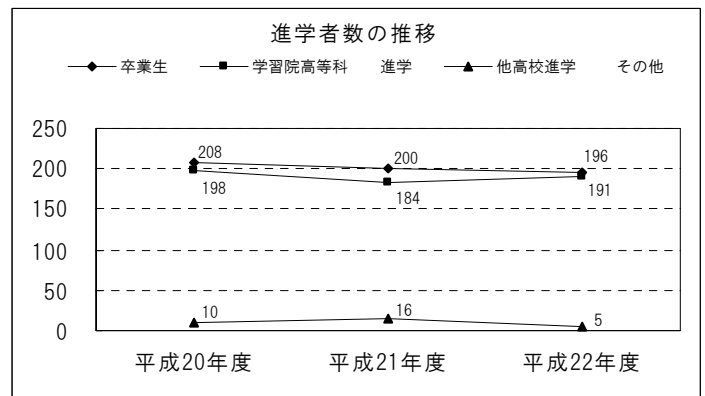
例年と同様、卒業生の約6割が学習院大学へ内部進学した。文学部心理学科には前年度8名、平成22年度は9名が進学し、文学部全体へも計18名が進学している。

他大学への進学先は医歯薬・工学系など学習院大学に無い方面が中心であり、60%以上が現役合格していることも昨年とほぼ変わらない。ただし、大学入試が多様化していく中で、これまでにはなかったようなケースも見られるようになってきた。こうした傾向にどう対応していくか、今後も検討を重ねていく必要があると考える。

(4) 中等科

■過去3カ年の進学者の推移 当該年度3月31日現在

	卒業生	学習院高等科 進学	他高校進学 その他
平成20年度	208	198	10
平成21年度	200	184	16
平成22年度	196	191	5



○平成22年度の動向解説

平成22年3月17日の卒業式を終えた段階での学年の総在籍者数は197名であったが、その後3月30日付けで1名が特別退学となり、本年度の卒業生の総数は196名となった。

このうち、191名が高等科へ進学したが、内部進学率は近年になく高い学年であった。

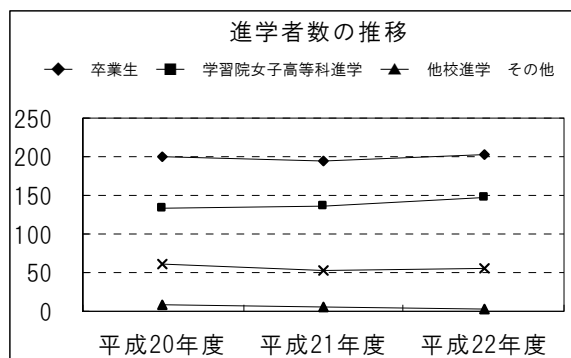
他の高校へ進学した者の中の2名が高等科への推薦基準に達せず、残り3名が成績上位者で、自ら進んで他の高校への進学を希望した生徒である。

(5) 女子高等科

■過去3カ年の進学者の推移

当該年度3月31日現在

	卒業生	学習院大学 進学	学習院女子 大学進学	他大学進学 その他
平成20年度	199	132	7	60
平成21年度	195	136	6	53
平成22年度	203	148	3	56



○平成22年度の動向解説

学習院大学・同女子大学へは73%が進学した。昨年に比べて3ポイントの上昇である。

大学への進学者の内訳は法学部67名、経済学部34名、文学部42名、理学部6名である。昨年と比較すると文学部の実数が増加し、法学部、経済学部、理学部への進学者はほぼ昨年並みである。

女子大学への進学者の内訳は日本文学学科が2名、国際コミュニケーション学科が1名の合計3名であった。

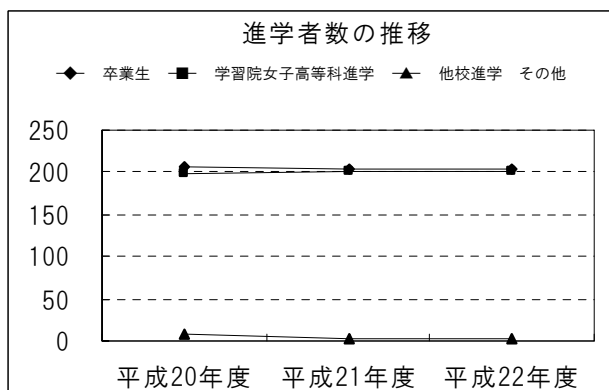
他大学への受験は、56名の受験生のうち42名が現役合格した。そのうち、半数の21名が推薦入学である。また、他大学進学者の文系・理系の比率はおおよそ半々である。理系コース選択者のほぼ7割が他大学を受験する傾向はここ数年かわっていない。

(6) 女子中等科

■過去3カ年の進学者の推移

当該年度3月31日現在

	卒業生	学習院女子 高等科進学	他校進学 その他
平成20年度	207	198	9
平成21年度	203	200	3
平成22年度	203	200	3



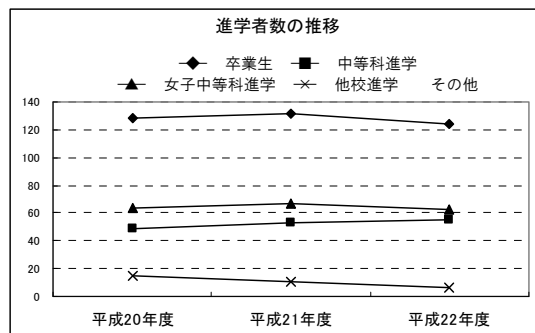
○平成21年度の動向解説

殆どの生徒が女子高等科に進学した。他校に進学した3名の内訳は1名が国立高校(芸術系)、1名が公立高校、1名が私立高校である。

(7) 初等科

■過去3カ年の進学者の推移 ()内は内数女子 当該年度3月31日現在

	卒業生	中等科 進学	女子中等科 進学	他校進学 その他
平成20年度	128(64)	49	64	15
平成21年度	131(67)	53	67	11
平成22年度	124(64)	55	63	6



○平成22年度の動向解説

初等科は男女中等科への推薦による進学を基本方針としているが、家庭の方針や児童の希望等により、毎年数名が他校に進学する傾向が見られた。しかし、特に男子のみが特出して他校へ進学した20年度よりはいくらか減少したものの、その傾向がめだつ。それに反して女子はほぼ全員進学と安定している。

(8) 幼稚園

■過去3カ年の進学者の推移 ()内は内数女子 当該年度3月31日現在

	卒業生	初等科 進学	他校進学 その他
平成20年度	51(26)	51(26)	0
平成21年度	51(25)	51(25)	0
平成22年度	52(26)	51(26)	1

○平成22年度の動向解説

平成22年度は、卒業生52名のうち51名(男子25名、女子26名)が初等科へ進学した。

6. 在学者数・入学者数・卒業者数・博士号取得者数（過去3カ年の推移）

(1) 在学者数

■平成20年度学生・生徒・児童・園児在籍者数一覧表

(20.5.1現在)

学校区分等	年次等	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計				
		人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女		
大 学	博士前期課程	政治学	政治学専攻	9	6	3	17	9	8												26	15	11	
		経済学	経済学専攻	1	1	0	2	1	1													3	2	1
		経営学	経営学専攻	6	4	2	6	3	3													12	7	5
		人文	哲学専攻	7	3	4	5	3	2													12	6	6
			美術史学専攻	6	0	6	9	0	9													15	0	15
			史学専攻	8	6	2	14	6	8													22	12	10
			日本語日本文学専攻	12	4	8	14	2	12													26	6	20
			イギリス文学専攻	10	5	5	9	4	5													19	9	10
			ドイツ文学専攻	4	0	4	1	0	1													5	0	5
			フランス文学専攻	3	2	1	5	0	5													8	2	6
			心理学専攻	7	1	6	8	2	6													15	3	12
		自然科学	アーカイブズ学専攻	8	1	7	0	0	0													8	1	7
			身体表象文化学専攻	9	4	5	0	0	0													9	4	5
			物理学専攻	9	8	1	19	17	2													28	25	3
			化学専攻	9	6	3	22	13	9													31	19	12
数学専攻	3		2	1	3	1	2													6	3	3		
生命科学専攻	10		6	4	0	0	0													10	6	4		
計	121		59	62	134	61	73													255	120	135		
大 学	博士後期課程	法学	法学専攻	0	0	0	0	0	1	0	1										1	0	1	
		政治学	政治学専攻	2	0	2	1	0	1	7	5	2									10	5	5	
		経済学	経済学専攻	0	0	0	0	0	0	4	2	2									4	2	2	
		経営学	経営学専攻	3	1	2	3	1	2	9	5	4									15	7	8	
		人文	哲学専攻	0	0	0	1	0	1	15	6	9										16	6	10
			美術史学専攻	3	0	3	3	0	3	0	0	0										6	0	6
			史学専攻	2	1	1	7	5	2	20	13	7										29	19	10
			日本語日本文学専攻	3	1	2	3	1	2	13	5	8										19	7	12
			イギリス文学専攻	3	1	2	4	1	3	4	3	1										11	5	6
			ドイツ文学専攻	2	0	2	0	0	0	1	1	0										3	1	2
			フランス文学専攻	2	1	1	1	0	1	2	1	1										5	2	3
			心理学専攻	5	3	2	2	0	2	4	1	3										11	4	7
		自然科学	アーカイブズ学専攻	4	2	2	0	0	0	0	0	0										4	2	2
			身体表象文化学専攻	5	4	1	0	0	0	0	0	0										5	4	1
			物理学専攻	0	0	0	2	1	1	1	1	0										3	2	1
化学専攻	1		1	0	0	0	0	2	2	0										3	3	0		
数学専攻	1		1	0	0	0	0	1	1	0										2	2	0		
生命科学専攻	0		0	0	0	0	0	0	0	0										0	0	0		
計	36		16	20	27	9	18	84	46	38										147	71	76		
大 学 院	専門職大学院	法務研究科	法務研究科	157	75	82	161	70	91	84	46	38								402	191	211		
	計	16	9	7	59	47	12	50	40	10										125	96	29		
大 学	法 学 部	法学	法 学 科	268	149	119	232	119	113	263	146	117	305	178	127						1,068	592	476	
		政治学	政治学専攻	234	117	117	203	101	102	234	110	124	293	158	135						964	486	478	
		計	502	266	236	435	220	215	497	256	241	598	336	262						2,032	1,078	954		
		経済学	経済学	経済学科	250	160	90	314	213	101	247	161	86	292	189	103						1,103	723	380
			経営学	経営学科	254	142	112	296	156	140	284	148	136	270	133	137						1,104	579	525
			計	504	302	202	610	369	241	531	309	222	562	322	240						2,207	1,302	905	
		文学部	哲学	哲学科	113	38	75	101	32	69	100	33	67	119	45	74						433	148	285
			史学	史学科	102	49	53	86	31	55	100	36	64	117	53	64						405	169	236
			日本語日本文学科	142	40	102	141	32	109	118	25	93	138	33	105						539	130	409	
			英語英米文化学科	139	26	113	151	23	128	135	25	110	140	37	103						565	111	454	
			ドイツ語圏文化学科	55	14	41	62	16	46	60	9	51	55	12	43						232	51	181	
			フランス語圏文化学科	92	17	75	102	19	83	90	19	71	106	25	81						390	80	310	
			心理学	心理学科	96	24	72	92	24	68	80	24	56	89	24	65						357	96	261
		計	739	208	531	735	177	558	683	171	512	764	229	535						2,921	785	2,136		
		理学部	物理学	物理学科	50	43	7	61	51	10	49	41	8	46	38	8						206	173	33
化学	化学科		63	42	21	49	34	15	59	28	31	43	26	17						214	130	84		
数学	数学科		66	45	21	71	56	15	71	48	23	52	39	13						260	188	72		
計	179		130	49	181	141	40	179	117	62	141	103	38						680	491	189			
大 学 合 計	1,924	906	1,018	1,961	907	1,054	1,890	853	1,037	2,065	990	1,075							7,840	3,656	4,184			
女子大学	女子大学院	修士課程	国際文化交流研究科	11		11	9		9											20		20		
		計	11		11	9		9												20		20		
女子大学	国際文化交流学部	日本文化学科	168		168	181		181	170		170	225		225						744		744		
		国際コミュニケーション学科	228		228	211		211	192		192	230		230						861		861		
		英語コミュニケーション学科	28		28	35		35	29		29									92		92		
女子大学合計	424		424	427		427	391		391	455		455							1,697		1,697			
高 等 学 校	女子高等学校	高等科	207	207		205	205		193	193										605	605			
		205		205	206		206	195		195										606		606		
		203	203		203	203		209	209											615	615			
		206		206	206		206	207		207										619		619		
		131	66	65	127	63	64	127	63	64	126	64	62	128	62	66	128	64	64	767	382	385		
幼稚園	52	26	26	48	23	25													100	49	51			
合 計	3,536	1,492	2,044	3,612	1,518	2,094	3,346	1,404	1,942	2,646	1,054	1,592	128	62	66	128	64	64	13,396	5,594	7,802			

■平成21年度学生・生徒・児童・園児在籍者数一覧表

(21.5.1現在)

学校区分等	年次等	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計			
		人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	
大 学	博士前期課程	政治学	政治学専攻	2	2	0	13	9	4											15	11	4	
		経済学	経済学専攻	1	0	1	1	1	0												2	1	1
		経営学	経営学専攻	8	3	5	7	5	2												15	8	7
		人文	哲学専攻	4	4	0	9	5	4												13	9	4
			美術史学専攻	8	2	6	7	0	7												15	2	13
			史学専攻	12	9	3	14	9	5												26	18	8
			日本語日文学専攻	15	5	10	14	5	9												29	10	19
			英語英米文学専攻 (イギリス文学科)	7	5	2	12	5	7												19	10	9
			ドイツ文学専攻	2	1	1	5	0	5												7	1	6
			フランス文学専攻	4	2	2	6	2	4												10	4	6
			心理学専攻	2	0	2	7	1	6												9	1	8
			アーカイブズ学専攻	8	3	5	8	1	7												16	4	12
			身体表象文化学専攻	10	4	6	9	4	5												19	8	11
		臨床心理学専攻	12	4	8	0	0	0												12	4	8	
		自然科学	物理学専攻	15	14	1	9	8	1												24	22	2
化学専攻	20		15	5	10	7	3												30	22	8		
数学専攻	1		0	1	3	2	1												4	2	2		
生命科学専攻	12		9	3	10	6	4												22	15	7		
	計	143	82	61	144	70	74												287	152	135		
大 学	博士後期課程	法学	法律学専攻	1	0	1	0	0	0	1	0	1								2	0	2	
		政治学	政治学専攻	0	0	0	2	0	2	5	3	2								7	3	4	
		経済学	経済学専攻	2	1	1	0	0	0	1	0	1								3	1	2	
		経営学	経営学専攻	2	2	0	3	1	2	9	4	5								14	7	7	
		人文	哲学専攻	0	0	0	0	0	0	8	2	6									8	2	6
			美術史学専攻	1	0	1	3	0	3	0	3										7	0	7
			史学専攻	1	0	1	2	1	1	20	14	6									23	15	8
			日本語日文学専攻	7	1	6	2	0	2	11	5	6									20	6	14
			英語英米文学専攻 (イギリス文学専攻)	4	2	2	3	1	2	7	4	3									14	7	7
			ドイツ文学専攻	0	0	0	2	0	2	1	1	0									3	1	2
			フランス文学専攻	0	0	0	2	1	1	3	1	2									5	2	3
			心理学専攻	3	1	2	5	3	2	3	0	3									11	4	7
			アーカイブズ学専攻	0	0	0	4	2	2	0	0	0									4	2	2
			身体表象文化学専攻	4	1	3	4	3	1	0	0	0									8	4	4
		自然科学	物理学専攻	0	0	0	0	0	0	1	1	0									1	1	0
化学専攻	3		1	2	1	1	0	0	0	0									4	2	2		
数学専攻	0		0	0	1	1	0	0	0	0									1	1	0		
生命科学専攻	0		0	0	0	0	0	0	0	0									0	0	0		
	計	28	9	19	34	14	20	73	35	38									135	58	77		
大 学 院 合 計	171	91	80	178	84	94	73	35	38									422	210	212			
専 門 職 大 学 院	法務研究科	16	8	8	59	40	19	45	38	7									120	86	34		
	計	16	8	8	59	40	19	45	38	7									120	86	34		
大 学	大 学 部	法学部	法 学 科	257	149	108	270	148	122	233	120	113	296	170	126					1,056	587	469	
		政治学	政治学専攻	254	133	121	236	121	115	203	99	104	263	134	129					956	487	469	
		計	511	282	229	506	269	237	436	219	217	559	304	255					2,012	1,074	938		
		経済学	経済学	経済学科	285	190	95	249	159	90	313	213	100	284	189	95					1,131	751	380
			経営学	経営学科	283	150	133	256	144	112	297	157	140	301	160	141					1,137	611	526
			計	568	340	228	505	303	202	610	370	240	585	349	236					2,268	1,362	906	
		文学部	哲学	哲学科	99	33	66	110	38	72	98	31	67	111	42	69					418	144	274
			史学	史学科	92	39	53	101	49	52	89	32	57	126	49	77					408	169	239
			日本語日文学	日本語日文学科	129	28	101	139	40	99	147	32	115	131	29	102					546	129	417
			英語英米文化学 (英米文学科)	英語英米文化学科 (英米文学科)	108	21	87	138	27	111	157	24	133	143	29	114					546	101	445
			ドイツ語圏文化学 (ドイツ文学科)	ドイツ語圏文化学科 (ドイツ文学科)	43	8	35	54	15	39	61	14	47	67	14	53					225	51	174
			フランス語圏文化学 (フランス文学科)	フランス語圏文化学科 (フランス文学科)	80	15	65	102	23	79	90	13	77	117	28	89					389	79	310
		理学部	心理学	心理学科	85	31	54	96	24	72	95	25	70	84	28	56					360	108	252
			計	636	175	461	740	216	524	737	171	566	779	219	560					2,892	781	2,111	
			物理学	物理学科	63	50	13	54	48	6	62	51	11	39	32	7					218	181	37
化学	化学科		58	35	23	62	41	21	47	33	14	60	28	32					227	137	90		
数学	数学科		80	53	27	71	50	21	63	49	14	65	42	23					279	194	85		
生命科学	生命科学科	49	23	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0					49	23	26			
	計	250	161	89	187	139	48	172	133	39	164	102	62					773	535	238			
大 学 合 計	1,965	958	1,007	1,938	927	1,011	1,955	893	1,062	2,087	974	1,113						7,945	3,752	4,193			
女 子 大 学 院	国際文化交流研究科	国際文化交流研究科	10		10	14		14											24		24		
	計	10		10	14		14												24		24		
女 子 大 学	国際文化交流学部	日本文化学科	170		170	168		168	185		185	180		180					703		703		
		国際コミュニケーション学科	211		211	228		228	225		225	201		201					865		865		
		英語コミュニケーション学科	44		44	27		27	35		35	29		29					135		135		
	女子大学合計	425		425	423		423	445		445	410		410					1,703		1,703			
高 等 科	215	215		194	194		198	198										607	607				
女 子 高 等 科	199		199	209		209	196		196									604		604			
中 等 科	201	201		200	200		202	202										603	603				
女 子 中 等 科	203		203	202		202	203		203									608		608			
初 等 科	131	65	66	129	66	63	126	63	63	126	62	64	125	62	63	128	62	66	765	380	385		
幼 稚 園	52	26	26	51	26	25	25											103	52	51			
合 計	3,588	1,564	2,024	3,597	1,537	2,060	3,443	1,429	2,014	2,623	1,036	1,587	125	62	63	128	62	66	13,504	5,690	7,814		

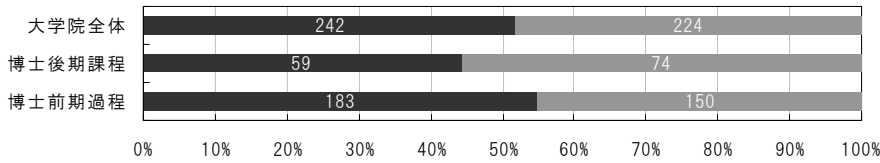
■平成22年度学生・生徒・児童・園児在籍者数一覧表

(22.5.1現在)

学校区分等	年次等	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次			合計			
		人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	人数	男	女	
大 学	博士前期課程	政治学	政治学専攻	11	5	6	8	5	3											19	10	9	
		経済学	経済学専攻	5	3	2	1	0	1												6	3	3
		経営学	経営学専攻	12	8	4	8	3	5												20	11	9
		人文科学	哲学専攻	4	4	0	4	4	0												8	8	0
			美術史学専攻	16	4	12	11	2	9												27	6	21
			史学専攻	7	5	2	16	12	4												23	17	6
			日本語日本文学専攻	11	0	11	17	5	12												28	5	23
			英語英米文学専攻 (イギリス文学専攻)	5	2	3	10	8	2												15	10	5
			ドイツ語ドイツ文学専攻 (ドイツ文学専攻)	4	2	2	2	1	1												6	3	3
			フランス文学専攻	5	3	2	6	3	3												11	6	5
			心理学専攻	1	0	1	2	0	2												3	0	3
			アーカイブズ学専攻	7	6	1	10	4	6												17	10	7
			身体表象文化学専攻	7	5	2	14	6	8												21	11	10
		臨床心理学専攻	13	4	9	12	4	8												25	8	17	
		自然科学	物理学専攻	17	14	3	12	11	1												29	25	4
化学専攻	21		13	8	21	16	5												42	29	13		
数学専攻	7		5	2	1	0	1												8	5	3		
生命科学専攻	14		8	6	11	8	3												25	16	9		
	計	167	91	76	166	92	74												333	183	150		
大 学	博士後期課程	法学	法律学専攻	1	1	0	1	0	1	1	0	1								3	1	2	
		政治学	政治学専攻	1	1	0	0	0	0	6	2	4								7	3	4	
		経済学	経済学専攻	0	0	0	2	1	1	0	0	0								2	1	1	
		経営学	経営学専攻	1	1	0	2	2	0	9	4	5								12	7	5	
		人文科学	哲学専攻	2	1	1	0	0	0	4	2	2									6	3	3
			美術史学専攻	1	0	1	0	0	0	5	0	5									6	0	6
			史学専攻	2	2	0	1	0	1	16	11	5									19	13	6
			日本語日本文学専攻	1	0	1	7	1	6	10	3	7									18	4	14
			英語英米文学専攻 (イギリス文学専攻)	3	1	2	4	2	2	4	1	3									11	4	7
			ドイツ語ドイツ文学専攻 (ドイツ文学専攻)	0	0	0	0	0	0	3	1	2									3	1	2
			フランス文学専攻	2	1	1	0	0	0	5	2	3									7	3	4
			心理学専攻	4	2	2	2	0	2	6	3	3									12	5	7
			アーカイブズ学専攻	5	0	5	0	0	0	4	2	2									9	2	7
			身体表象文化学専攻	3	3	0	3	0	3	4	3	1									10	6	4
		自然科学	物理学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0									0	0	0
化学専攻	1		1	0	3	1	2	1	1	0									5	3	2		
数学専攻	1		1	0	0	0	0	1	1	0									2	2	0		
生命科学専攻	1		1	0	0	0	0	0	0	0									1	1	0		
	計	29	16	13	25	7	18	79	36	43									133	59	74		
	大学院合計	196	107	89	191	99	92	79	36	43									466	242	224		
専門職大学院	法務研究科	20	7	13	63	44	19	37	24	13									120	75	45		
	計	20	7	13	63	44	19	37	24	13									120	75	45		
大 学	法学部	法学	法学科	238	126	112	259	150	109	271	149	122	284	162	122					1,052	587	465	
		政治学	政治学科	254	137	117	251	134	117	235	120	115	234	129	105					974	520	454	
		計	492	263	229	510	284	226	506	269	237	518	291	227					2,026	1,107	919		
		経済学	経済学	経済学科	276	189	87	283	189	94	251	159	92	354	250	104					1,164	787	377
			経営学	経営学科	279	162	117	284	151	133	258	146	112	323	178	145					1,144	637	507
			計	555	351	204	567	340	227	509	305	204	677	428	249					2,308	1,424	884	
		文学部	哲学	哲学科	102	30	72	99	35	64	107	34	73	110	40	70					418	139	279
			史学	史学科	91	35	56	93	39	54	105	51	54	116	49	67					405	174	231
			日本語日本文学科	112	31	81	127	28	99	149	41	108	158	35	123					546	135	411	
			英語英米文化学科 (英米文学科)	128	25	103	108	21	87	141	27	114	170	27	143					547	100	447	
			ドイツ語圏文化学科 (ドイツ文学科)	64	14	50	46	9	37	51	14	37	72	19	53					233	56	177	
			フランス語圏文化学科 (フランス文学科)	80	10	70	91	19	72	91	20	71	107	20	87					369	69	300	
			心理学	心理学科	106	35	71	87	32	55	97	23	74	99	29	70					389	119	270
		計	683	180	503	651	183	468	741	210	531	832	219	613						2,907	792	2,115	
		理学部	物理学	物理学科	57	48	9	66	53	13	61	56	5	48	37	11					232	194	38
化学	化学科		54	38	16	59	35	24	58	38	20	44	30	14					215	141	74		
数学	数学科		70	50	20	82	57	25	69	48	21	58	45	13					279	200	79		
生命科学	生命科学科		53	25	28	46	22	24	0	0	0	0	0	0					99	47	52		
計	234		161	73	253	167	86	188	142	46	150	112	38						825	582	243		
	大学合計	1,964	955	1,009	1,981	974	1,007	1,944	926	1,018	2,177	1,050	1,127					8,066	3,905	4,161			
女子大学院	修士課程	国際文化交流研究科	13		13	14		14											27		27		
	計	13		13	14		14												27		27		
女子大学	国際文化学部	日本文化学科	179		179	169		169	174		174	196		196					718		718		
		国際コミュニケーション学科	203		203	212		212	236		236	230		230					881		881		
		英語コミュニケーション学科	38		38	44		44	27		27	35		35					144		144		
	女子大学合計	420		420	425		425	437		437	461		461					1,743		1,743			
高 等 学 校	科	206	206		196	196		198	198										600	600			
女 子 高 等 学 校	科	202		202	204		204	204		204									610		610		
中 等 学 校	科	203	203		196	196		198	198										597	597			
女 子 中 等 学 校	科	207		207	200		200	203		203									610		610		
初 等 学 校	科	131	66	65	128	65	63	124	64	60	127	63	64	127	62	65	125	60	65	762	380	382	
幼 稚 園	園	52	26	26	51	25	26												103	51	52		
	合 計	3,614	1,570	2,044	3,649	1,599	2,050	3,424	1,446	1,978	2,765	1,113	1,652	127	62	65	125	60	65	13,704	5,850	7,854	

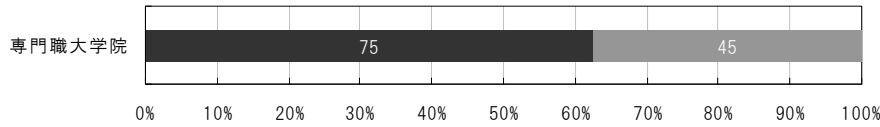
□大学（大学院）在学者の男女比

■ 男 ■ 女



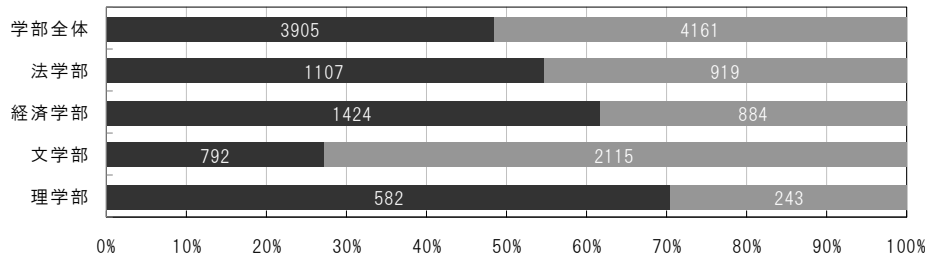
□大学（専門職大学院）在学者の男女比

■ 男 ■ 女

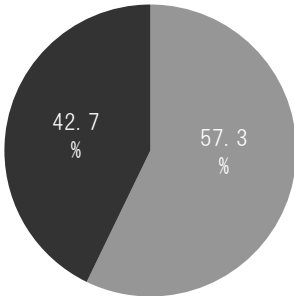


□大学（学部）在学者の男女比

■ 男 ■ 女

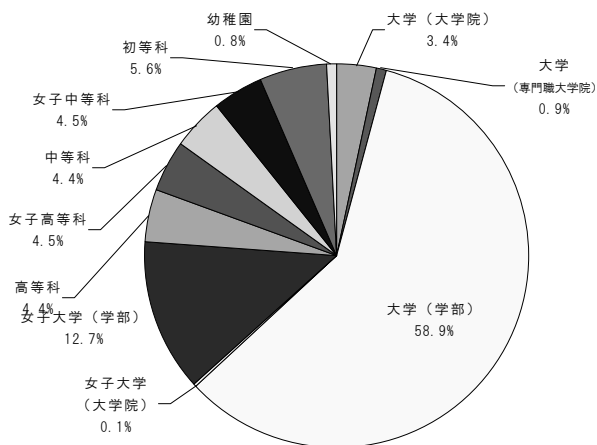


□学習院全体の在学者男女比（平成22年5月1日現在）



	男	女
大学（大学院）	242	224
大学（専門職大学院）	75	45
大学（学部）	3,905	4,161
女子大学（大学院）	0	27
女子大学（学部）	0	1,743
高等科	600	0
女子高等科	0	610
中等科	597	0
女子中等科	0	610
初等科	380	382
幼稚園	51	52
合計	5,850	7,854

□学校別在学者数構成比（平成22年5月1日現在）



	在学者数
大学（大学院）	466
大学（専門職大学院）	120
大学（学部）	8,066
女子大学（大学院）	27
女子大学（学部）	1,743
高等科	600
女子高等科	610
中等科	597
女子中等科	610
初等科	762
幼稚園	103
合計	13,704

(2) 入園・入学者数

■過去3カ年の入園、入学者数の推移

下段の数字は内数女子 当該年度5月1日現在

学校区分		年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度
		博士前期	博士後期			
大学院	法学研究科	博士前期				
		博士後期	0	1	1	
	政治学研究科	博士前期	9	2	11	
		博士後期	3	0	6	
	経済学研究科	博士前期	2	0	1	
		博士後期	2	0	0	
	経営学研究科	博士前期	1	1	5	
		博士後期	0	2	0	
	人文科学研究科	博士前期	74	84	80	
		博士後期	48	45	45	
	自然科学研究科	博士前期	26	20	22	
		博士後期	14	15	13	
	大学院計		154	170	191	
	専門職大学院	法務研究科	専門職学位	56	49	51
専門職大学院計		13	16	19		
学部	法学部	法学科	266	257	238	
		政治学科	119	108	112	
		政治学科	233	252	254	
	経済学部	経済学科	117	120	117	
		経営学科	250	285	276	
	文学部	哲学科	90	95	87	
		史学科	254	283	279	
		日本語日本文学科	112	133	117	
		英語英米文化学科	113	97	102	
		ドイツ語圏文化学科	75	64	72	
		フランス語圏文化学科	102	91	91	
		心理学科	53	52	56	
		物理学科	141	128	112	
		化学科	101	100	81	
		数学科	138	107	128	
		生命科学科	112	86	103	
		理学部	物理学科	55	43	64
			化学科	41	35	50
	数学科		90	80	80	
	生命科学科		73	65	70	
	学部計		1,904	1,952	1,956	
			1,013	1,000	1,006	

学校区分			年度		平成20年度	平成21年度	平成22年度
			大学院	修士課程			
大学院	国際文化交流研究科	修士課程	11	10	13		
女子大学大学院計			11	10	13		
学部	国際文化交流学部	日本文化学科	167	169	179		
		国際コミュニケーション学科	228	211	203		
		英語コミュニケーション学科	27	44	38		
女子大学学部計			422	424	420		
高等科			202	203	196		
中等科			204	201	203		
女子高等科			202	199	200		
女子中等科			204	203	207		
初等科			131	131	131		
幼稚園			65	66	65		
幼稚園			52	52	52		
幼稚園			26	26	26		
総合計			3,542	3,594	3,620		
			2,036	2,024	2,045		

- 注1. 大学院の入学者は、社会人入試、進学の入学者を含む。
- 注2. 法学研究科博士前期課程は、平成16年度の法科大学院開設に伴い、平成16年度から学生募集を停止し、平成17年3月31日付で廃止。
- 注3. 大学の入学者は高等科・女子高等科の進学者、指定校、公募制、自己推薦、外国・海外帰国、社会人、外国人学生の入学者全てを含む。
- 注4. 女子大学の入学者は女子高等科の進学者、推薦A（指定校制）、推薦B（公募制）、社会人、外国人、海外帰国の入学者全てを含む。
- 注5. 高等科は中等科の進学者を含む。
- 注6. 中等科は初等科の進学者、海外帰国子弟を含む。
- 注7. 女子高等科は女子中等科の進学者を含む。
- 注8. 女子中等科は初等科の進学者、海外帰国生を含む。
- 注9. 初等科は幼稚園の進学者を含む。
- 注10. 平成20年4月より英米文学科は、英語英米文化学科へ名称変更。
- 注11. 平成21年4月より理学部に生命科学科を増設。

(3) 卒業生数

■過去3カ年の卒業生数の推移

下段の数字は内数女子 当該年度3月31日現在

学校区分			年度			
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	
大 学 院	法 学 科	博士前期	-	-	-	
		博士後期	0	0	0	
	政 治 学 科	博士前期	12	6	6	
		博士後期	7	1	2	
	経 済 学 科	博士前期	2	1	0	
		博士後期	1	0	0	
	経 営 学 科	博士前期	3	7	8	
		博士後期	2	2	5	
	人 文 学 科	博士前期	43	66	83	
		博士後期	33	46	44	
	自 然 学 科	博士前期	42	29	39	
		博士後期	13	9	10	
	大 学 院 計			107	111	139
	専 門 職 大 学 院	法 務 研 究 科	専 門 職 学 位	47	43	37
			9	7	13	
専 門 職 大 学 院 計			47	43	37	
			9	7	13	
学 部	法 学 部	法 学 科	259	233	233	
			116	112	114	
	経 済 学 部	政 治 学 科	258	230(4)	198(6)	
			127	127(3)	101(4)	
	経 営 学 部	経 済 学 科	249(1)	233(2)	271(1)	
			93	89(1)	94	
	哲 学 部	経 営 学 科	246(1)	268(1)	278	
			128(1)	135	135	
	文 学 部	哲 学 科	100	96	88	
			68	64	63	
		史 学 科	85	92	88	
			48	65	56	
		日 本 語 日 本 文 学 科	119	114	132	
			91	92	108	
英 米 文 学 科		126	125	142		
		95	102	125		
ド イ ツ 語 圏 文 化 学 科		48	53	58		
		41	44	44		
理 学 部	フ ラ ン ス 語 圏 文 化 学 科	77	96	83		
		61	79	70		
	心 理 学 科	81	76	92		
		62	53	69		
理 学 部	物 理 学 科	43	38	47		
		8	7	11		
	化 学 科	41	60	42		
	16	32	13			
	数 学 科	52	64	52		
		13	23	13		
学 部 計			1,784(2)	1,778(7)	1,804(7)	
			967(1)	1,024(4)	1,016(4)	

学校区分			年度		
			平成20年度	平成21年度	平成22年度
大 学 院	国 際 文 化 交 流	修 士 課 程	5	9	10
女 子 大 学 大 学 院 計			5	9	10
学 部	国 際 文 化 交 流 学 部	日 本 文 化 学 科	207	163	180
		国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	216	189	219
		英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科		29	34
女 子 大 学 学 部 計			423	381	433
高 等 科			194	199	199
中 等 科			208	200	196
女 子 高 等 科			199	195	208
女 子 中 等 科			207	203	203
初 等 科			128	131	124
			64	67	64
幼 稚 園			51	51	52
			26	25	26
総 合 計			3,353	3,301	3,405
			1,957	1,969	2,035

注：1. 大学院博士後期課程の修了者数については、博士後期課程在学中に学位を取得した者の数である。
2. 大学卒業生数のカッコ内は3年次早期卒業生数（内数）。

(4) 博士号取得者数

研究科		年度		
		平成20年度	平成21年度	平成22年度
法学研究科	課程博士	0	0	0
	論文博士	0	0	0
政治学研究科	課程博士	1	0	2
	論文博士	0	0	0
経済学研究科	課程博士	1	0	3
	論文博士	0	0	0
経営学研究科	課程博士	1	0	2
	論文博士	1	0	0
人文科学研究科	課程博士	8	9	12
	論文博士	5	1	2
自然科学研究科	課程博士	3	1	1
	論文博士	1	0	0
合 計	課程博士	14	10	20
	論文博士	7	1	2

注：課程博士の博士号取得者数には、博士後期課程に3年以上在学し、修了に必要な所定の単位を修得し、退学後3年以内に学位を取得した者を含む。

7. 研究・平成22年度教育研究助成金一覧

(1) 平成22年度科学研究費補助金

■文学科学省・日本学術振興会

□大学(大学院・専門職大学院)

研究種目	氏名	所属	職名	研究課題	交付金額(円)	
					直接経費	間接経費
1 特別推進研究	平野 浩	法学部	教授	変動期における投票行動の全国的・時系列的調査研究	29,700,000	8,910,000
2 特定領域研究(計画)	西坂 崇之	理学部	教授	3次元を検出する新しい原理の光学顕微鏡で解明する膜超分子モーターの作動原理	16,200,000	0
3 特定領域研究(公募)	谷口 喜一郎	理学部	助教	二核細胞をつくりだす細胞周期制御	2,500,000	0
4 新学術領域研究(総括)	花岡 文雄	理学部	教授	ゲノム複製・修復・転写のカップリングと普遍的なクロマチン構造変換機構	5,600,000	1,680,000
5 新学術領域研究(計画)	花岡 文雄	理学部	教授	複製と修復をカップリングする損傷乗り越え複製の普遍性	27,400,000	8,220,000
6 若手研究(B)	橋本 陽子	法学部	教授	今後の労働契約法制—とくに「労働者」概念について—	600,000	180,000
7 若手研究(B)	下田 誠	文学部	助教	戦国文字と記録媒体に関する基礎的研究—戦国史像の再構築—	400,000	120,000
8 若手研究(B)	村松 弘一	東洋文化研究所	准教授	古都・長安の“再”発見—一足立喜六著『長安史蹟の研究』を中心に	800,000	240,000
9 若手研究(B)	阿部 克則	法学部	教授	国際法における法廷経済学	1,500,000	450,000
10 若手研究(B)	勝尾 裕子	経済学部	教授	会計利益の有用性にかんする利益の質の観点からの考察	900,000	270,000
11 若手研究(B)	奥村 高志	理学部	PD共同研究員	非筋定型ミオシンIIによる内臓器官の左右非対称な形態形成機構に関する研究	800,000	240,000
12 若手研究(B)	赤木 純一	理学部	PD共同研究員	紫外線誘発DNA損傷6-4光産物の哺乳類細胞における損傷乗り越え複製機構の解明	1,500,000	450,000
13 若手研究(B)	淵 圭吾	法務研究科	教授	国際的租税回避に関する制度設計の観点からの研究	500,000	150,000
14 若手研究(B)	庄司 香	法学部	教授	アメリカ連邦最高裁判所判事指名からみる利益団体運動の変遷	1,300,000	390,000
15 若手研究(B)	森 啓二	理学部	助教	水素転位を介するsp ³ C-H結合活性化を利用した多環骨格構築法の開発	2,000,000	600,000
16 若手研究(B)	津田 岳夫	理学部	助教	銅イオン輸送ATPaseのドメイン間相互作用	2,000,000	600,000
17 若手研究(B)	足立 健吾	理学部	科研費研究員	生体分子モーターの触媒部位における構造変化モニター	1,700,000	510,000
18 若手研究(B)	谷口 喜一郎	理学部	助教	二核細胞の分化機構と存在意義	1,300,000	390,000
19 若手研究(B)	潘 鉉承	理学部	助教	血管新生抑制を指向した低酸素誘導因子阻害剤の創薬研究	1,900,000	570,000
20 基盤研究(S)	宮川 努	経済学部	教授	日本の無形資産投資に関する実証研究	5,300,000	1,590,000
21 基盤研究(A)	安藤 正人	文学部	教授	旧日本植民地・占領地関係資料ならびに原爆関係資料のアーカイブズ学的研究	9,500,000	2,850,000
22 基盤研究(A)	佐々木 毅	法学部	教授	21世紀型統治システムへの転換—主要国の政治意思決定構造の比較研究—	6,000,000	1,800,000
23 基盤研究(A)	佐野 みどり	文学部	教授	大画面説話画の総合研究	5,000,000	1,500,000
24 基盤研究(A)	馬淵 一誠	理学部	教授	収縮環の構造と形成・収縮機構の研究	10,900,000	3,270,000
25 基盤研究(A)	花岡 文雄	理学部	教授	遺伝子改変マウスを利用した損傷乗り越え型DNAポリメラーゼの機能解析	17,500,000	5,250,000
26 基盤研究(B)	中山 昭彦	文学部	教授	戦争をめぐる表現と表象—日本近代文学・日本映画に関する中仏との比較研究	3,100,000	930,000
27 基盤研究(B)	金田 智子	文学部	教授	「生活のための日本語」に関する基盤的研究:段階的発達の支援をめざして	1,700,000	510,000
28 基盤研究(B)	松本 幸夫	理学部	教授	4次元多様体とリーマン面	2,300,000	690,000
29 基盤研究(B)	平野 琢也	理学部	教授	パルス光連続変数エンタングルメントに関する研究	3,000,000	900,000
30 基盤研究(B)	福元 健太郎	法学部	教授	戦後日本の政治変動と参議院選挙:市区町村別データに基づく実証的研究	2,900,000	870,000
31 基盤研究(B)	斉藤 利彦	文学部	教授	旧制中等諸学校の『校友会誌』にみる学校文化の諸相の研究と、史料のデータベース化	2,400,000	720,000
32 基盤研究(B)	川島 隆幸	理学部	客員教授	次元拡張型ヘテロπ共役分子群の創製	3,500,000	1,050,000
33 基盤研究(B)	稲熊 宜之	理学部	教授	高圧を利用した化学結合の制御と極性酸化物の創製	1,500,000	450,000
34 基盤研究(B)	細野 薫	経済学部	教授	動学的最適化理論を応用した金融リスク管理・監督手法の開発	2,500,000	750,000
35 基盤研究(B)	和田 哲夫	経済学部	教授	引用関係クラスタを利用した技術財産と企業境界の分析	1,700,000	510,000
36 基盤研究(B)	谷島 賢二	理学部	教授	量子物理学の数理解析	2,300,000	690,000
37 基盤研究(B)	赤荻 正樹	理学部	教授	マンテル鉱物の高圧相平衡と熱力学:ポストスピネルとポストペロブスカイト	9,100,000	2,730,000
38 基盤研究(C)	高見 健一	文学部	教授	形式と意味のミスマッチを示す構文の説明を求めて	600,000	180,000

39	基盤研究 (C)	久保山 哲二	計算機センター	准教授	離散構造間の類似度設計と機械学習への応用	1,100,000	330,000
40	基盤研究 (C)	Pekar Thomas	文学部	教授	強制された旅—第二次大戦中のアジアへの亡命—についての文化人類学的視点からの研究	800,000	240,000
41	基盤研究 (C)	高埜 利彦	文学部	教授	アーカイブズ制度の比較的研究—アジア地域を中心として—	800,000	240,000
42	基盤研究 (C)	大橋 洋一	法務研究科	教授	公共施設の維持管理及び公用廃止に関する法システムの比較実証研究	1,000,000	300,000
43	基盤研究 (C)	磯崎 典世	法学部	教授	韓国の自由貿易協定をめぐる国内政治—社会経済政策と外交安保政策の交錯	700,000	210,000
44	基盤研究 (C)	福地 純一郎	経済学部	教授	レベニューマネジメントにおける統計的手法	800,000	240,000
45	基盤研究 (C)	渡邊 一雄	理学部	助教	消散項を持つ作用素のスペクトル理論について	1,000,000	300,000
46	基盤研究 (C)	安達 卓	理学部	教授	ショウジョウバエにおけるヒト前立腺相同器官=附属腺の発生メカニズム	600,000	180,000
47	基盤研究 (C)	佐伯 隆幸	文学部	教授	ベルナル＝マリ・コルテス研究	1,400,000	420,000
48	基盤研究 (C)	眞嶋 史叙	経済学部	准教授	好奇心と物欲の系譜—教養文化とは何であったか?	1,000,000	300,000
49	基盤研究 (C)	浅野 有紀	法務研究科	教授	グローバル化における「私法」の変容	1,500,000	450,000
50	基盤研究 (C)	森田 道也	経済学部	教授	連動経営の構築と破綻のダイナミズムに関する研究	800,000	240,000
51	基盤研究 (C)	金田 直之	経済学部	教授	日本の企業グループにおける利益調整の研究	400,000	120,000
52	基盤研究 (C)	数土 直紀	法学部	教授	階層意識形成過程の数理社会学的解明	500,000	150,000
53	基盤研究 (C)	梶谷 浩	理学部	助教	マンテル物質および関連物質のラマン分光法による格子振動解析	1,100,000	330,000
54	基盤研究 (C)	持田 邦夫	理学部	教授	ゲルマニウム置換白金錯体 (II) の万華鏡反応の解明	1,200,000	360,000
55	基盤研究 (C)	菊池 淑子	理学部	客員研究員	細胞質分裂時におけるセブチンタンパクの修飾制御の解析	1,300,000	390,000
56	基盤研究 (C)	白田 由香利	経済学部	教授	推論エンジン法による知識ベースの構築	2,100,000	630,000
57	基盤研究 (C)	横井 雅幸	理学部	助教	細胞の紫外線抵抗性における損傷乗り越えDNAポリメラーゼ間相互作用の生理的意義	800,000	240,000
58	基盤研究 (C)	渡辺 学	文学部	教授	「ボライトネス」の独日英語対照比較—社会心理学を参照して—	1,500,000	450,000
59	基盤研究 (C)	村野 良子	文学部	教授	教科学習支援を目指す大学と地域の連携によるJSL児童日本語指導プログラムの開発	1,800,000	540,000
60	基盤研究 (C)	保坂 裕興	文学部	教授	学校アーカイブズの開発・運営についての基礎的研究	1,700,000	510,000
61	基盤研究 (C)	草野 芳郎	法学部	教授	インドネシアの紛争処理の実情と課題	800,000	240,000
62	基盤研究 (C)	外山 みどり	文学部	教授	社会的判断における誤帰属過程の顕在性・潜在性に関する検討	1,200,000	360,000
63	基盤研究 (C)	河本 史紀	理学部	助教	連分数の実二次体への応用	700,000	210,000
64	基盤研究 (C)	中野 史彦	理学部	教授	ランダムシュレーディンガー作用素の準位統計	700,000	210,000
65	挑戦的萌芽研究	福元 健太郎	法学部	教授	日本における政治学方法論の創出：自民党政権人事の統計モデルの開発を例として	1,200,000	0
66	挑戦的萌芽研究	中島 匠一	理学部	教授	結び目のアレキサンダー多項式と整数論	800,000	0
67	研究活動スタート支援	藤田 玄	理学部	助教	ディラック作用素の摂動によるリーマン・ロッホ数の局所化とその応用	720,000	216,000
68	研究活動スタート支援	眞崎 聡	理学部	助教	空間遠方で増大する非局所的な非線形項をもつシュレディンガー方程式の解析	1,090,000	327,000
69	研究活動スタート支援	政池 知子	理学部	助教	高速偏光変調顕微鏡によるF1-ATPaseの構造変化と化学反応の同時観察	1,260,000	378,000
70	特別研究員奨励費	山本 啓介	文学部	特別研究員 (PD)	中世から近世における和歌会の様相と、和歌会資料についての文献学的研究	700,000	0
71	特別研究員奨励費	若月 剛史	法学部	特別研究員 (PD)	政党内閣期における統合強化問題	700,000	0
72	特別研究員奨励費	石橋 正孝	文学部	特別研究員 (PD)	大衆メディアとしての十九世紀挿絵本 ジュール・ヴェルヌと二十世紀の大衆文化	600,000	0
73	特別研究員奨励費	土谷 真紀	文学部	特別研究員 (DC2)	室町後期絵巻物の総合的研究—初期狩野派作品を中心に	400,000	0
74	特別研究員奨励費	岩田 耕一	理学部	教授	光触媒ナノ粒子中でキャリアの動きを決める要因は何か	800,000	0
75	特別研究員奨励費	中村 浩之	理学部	教授	中性子捕捉治療のためのがん標的ホウ素ポルフィリンの開発	800,000	0
76	特別研究員奨励費	中村 浩之	理学部	教授	炭素-窒素結合活性化による高度分子変換反応の開発	900,000	0
77	特別研究員奨励費	秋山 隆彦	理学部	教授	有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発	1,000,000	0
78	特別研究員奨励費	佐野 みどり	文学部	教授	中世日本文化における聖なる景観の意味と機能	800,000	0
79	特別研究員奨励費	夏目 房之介	文学部	教授	60年代日本の政治過程とマンガ (特に「ガロ」誌)	100,000	0
79件						228,570,000	60,321,000
合計金額						288,891,000	

□女子大学（大学院）

研究種目	氏名	所属	職名	研究課題	交付金額（千円）	
					直接経費	間接経費
1 基盤研究（B）	荘林 幹太郎	国際文化交際学部	教授	地球温暖化に向けた農業用水マネジメントの新たな制度的手法の開発	1,500	450
2 基盤研究（C）	今橋 理子	国際文化交際学部	教授	近代日本画からの遡及——江戸時代写生画をめぐる図像と言説	700	210
3 基盤研究（C）	松尾 美恵子	国際文化交際学部	教授	丹鶴城旧蔵幕府史料の研究	1,000	300
4 基盤研究（C）	武井 彩佳	国際文化交際学部	准教授	イスラエルとディアスポラ・カネとモノの流れとパレスチナ問題	600	180
5 挑戦的萌芽研究	荘林 幹太郎	国際文化交際学部	教授	農地土壌を排出権取引に組み込むための国際的枠組みの構築	500	0
6 挑戦的萌芽研究	時安 邦治	国際文化交際学部	准教授	ポピュラー文化の科学像—人々が夢見る科学	1,000	0
7 若手研究（B）	ウーゴ ミズコ	国際文化交際学部	准教授	歴史的建造物の保存修復における無形的な要素に関する研究	600	180
8 若手研究（B）	萱 忠義	国際文化交際学部	講師	語学教員へのCALL技術トレーニングとその学習者への教育的効果の検証	700	210
8件					6,600	1,530
合計金額					8,130	

■厚生労働省

□大学

（単位：千円）

研究事業	続・新	学部	職	氏名	課題	交付金額	
						直接経費	間接経費
医療機器開発推進研究事業	継	理	教授	中村 浩之	ホウ素ナノデバイス型中性子捕捉治療	42,750	12,825
					決定件数 1件	42,750	12,825

（2）平成22年度その他外部からの助成金（個人）

■大学

名称	氏名	所属	職名	研究課題	交付金額（円）	
					直接経費	間接経費
1 産業技術研究助成事業費助成金	西坂 崇之	理学部	教授	細菌の運動を3次元で追跡できる医療への応用を目指した新しい光学顕微鏡の開発	3,000,000	900,000
2 先端研究助成基金助成金（最先端・次世代研究開発支援プログラム）	西坂 崇之	理学部	教授	医療への応用を目指した高解像3次元ナノマニピュレーション技術の開発	150,000	45,000
2件					3,150,000	945,000

※「2」については、平成22年度中に23年度分も交付（23年度分 直接経費55,020,000円、間接経費16,506,000円）

（3）安倍能成記念教育基金による海外研修

※平成22年度は申請者なし。

(4) 安倍能成記念教育基金学術研究助成金

所属・職名	氏名	期間等	研修目的	助成金給付額
大学 法学部法学科 教授	阿部 克則	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	国際法における法廷経済学	500,000円
大学 法学部政治学科 教授	中田 喜万	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	柴野栗山の基礎的研究	500,000円
大学 文学部哲学科 助教	陶久明日香	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	ハイデッガー哲学の新しい翻訳可能性 —現代ドイツ語の視点から	500,000円
大学 文学部英語英米文化学科 助教	児玉 晃二	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	レーガン期のアメリカ小説・文化研究	500,000円
大学 理学部物理学科 助教	東條 賢	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	マイクロ波を用いた2成分ボースアインシュタイン凝縮体の相互作用制御	500,000円
大学 理学部化学科 助教	潘 鉉承	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	病的血管新生阻害作用を有する新規低酸素誘導因子阻害剤の創薬研究	500,000円
女子大学 国際文化交流学部 国際コミュニケーション学科 准教授	中島 崇文	平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日	モルドヴァ共和国における歴史教科書の分析	500,000円

*上記データは申請時のもの

(5) 平成22年度研究費実績（外部資金の獲得データ）

単位：千円

受託研究費	部門	件数	金額
	大学・法学部	1件	1,000
大学・文学部	1件	3,056	
大学・理学部	10件	27,277	
大学・東洋文化研究所	1件	393	
女子大学	1件	4,270	
	計	14件	35,996

研究助成金	部門	件数	金額
	大学・経済学部	1件	500
大学・理学部	5件	9,000	
大学・東洋文化研究所	1件	3,200	
女子大学	2件	2,300	
	計	9件	15,000

(6) 機関補助

単位：千円

私立大学等研究設備整備費等補助金				
補助区分	部門	研究事業	事業総額	研究補助金額
特定図書	法学部	国立国会図書館所蔵 昭和前期刊行図書デジタル版集成[社会科学部門] 社会 個人著作物	5,429	2,601
特定図書	法学部	Gale Virtual Reference Library 『グリーン・イノベーション関連タイトルコレクション』	1,229	618
特定図書	経済学部	東京大学経済学部図書館所蔵資料『山一証券株式会社』マイクロフィルム版	4,220	2,022
特定図書	文学部	オンライン版ドイツ語圏文学言語学文献資料データベース	5,306	2,951
特定図書	文学部	シュルレアリスム関連定期刊行物コレクション全7点	2,206	1,056
特別設備	理学部	MPMS用ヘリウム再凝縮システム	18,156	8,700
計			36,546	17,948

私立学校施設整備費補助金				
補助区分	部門	研究事業	事業総額	研究補助金額
防災機能等強化	大学一般	大学南2号館 アスベスト除去工事	29,925	11,802
防災機能等強化	大学一般	大学図書館1階 多目的トイレ設置工事	7,140	2,428
防災機能等強化	大学一般	大学図書館1階玄関 自動ドア設置工事	5,985	2,035
防災機能等強化	女子大学	女子大学3号館(互敬会館) アスベスト除去工事	14,490	5,796
計			57,540	22,061

大学改革推進等補助金			補助金額	
補助区分	研究・教育事業		補助金額	
大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プログラム	学際生命科学東京コンソーシアムによる全人的大学院人材育成拠点の確立		13,420	
大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)	キャリアデザインを考慮した高度双方向情報網による就職支援		11,500	
計			24,920	

最先端研究開発戦略的強化費補助金		補助金額	
研究・教育事業		補助金額	
「リモートセンシングデータを利用した黄河流域の歴史と環境」国際研究プログラム		7,700	
計		7,700	

(7) 平成22年度私立大学等経常費補助金特別補助内訳

単位：千円

項目	補助金額	
	学習院大学	学習院女子大学
1 大学間連携等の推進	7,661	1,755
2 社会人の入学の推進		
3 編入学の推進	8,766	8,945
4 帰国学生の入学の推進		
5 障がい者の入学の推進	2,326	2,057
6 大学院教育の実質化の推進	113,960	3,647
7 リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクター	15,297	0
8 ティーチング・アシスタント支援	12,146	0
9 法科大学院支援	46,762	0
10 研究施設	51,883	0
11 任期付教員による研究の支援	2,576	0
12 戦略的研究基盤形成支援事業	59,934	0
13 総合的な地域活性化事業支援	6,640	89
14 世界を舞台に活躍する人材養成支援	14,858	8,033
15 ICT活用教育研究支援	215,225	36,852
16 授業料減免事業等支援経費	9,427	131
合計	567,461	61,509